埼玉県立近代美術館年報

令和２年度

●

ANNUAL REPORT 2020———THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

埼 玉 県 立 近 代 美 術 館 年 報

令和 2 年度

●

ANNUAL REPORT 2020——THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

■目次

施設…… 2
美術館誌…… 3
巻頭リポート
新型コロナウイルス感染拡大の 1 年を振り返る… 4
企画展…… 7
New Photographic Objects…… 7
MEDE SUWARU ……11
上田 薫 ……16
コレクション 4 つの水紋 ……22
MOMAS コレクション……30
MOMAS コレクション［Ⅰ］……30
MOMAS コレクション［Ⅱ］……34
MOMAS コレクション［Ⅲ］……37
MOMAS コレクション［Ⅳ］……39
サンデー・トーク……46
アーティスト・プロジェクト＃ 2.05 ……46
収集事業……49
新収蔵作品一覧……50
美術資料貸出等一覧
美術作品の館外貸出……57
特別利用……57
教育・普及事業……60
ミュージアム・レクチャー……60
一般団体対応……60
ファミリー鑑賞会……63
子供のためのプログラム
MOMAS のとびら……64
夏休みの特別プログラム……65
ミュージアム・コラボレーション……66
企画展ワークシートの作成……67
学校との連携
教員美術講座……68
ミュージアム・キャラバン事業……68
その他の学校連携事業……69
博物館実習……70
美術館ボランティア
美術館サポーター……71
教育普及サポート・スタッフ……72
MOMAS 彫刻ボランティア……72
広聴・広報・刊行物……73
図書資料の収集と公開……77
椅子の美術館……77
ハイビジョン・コーナー……77
トピックス
［1］『コレクション名品選カタログ 2021』の作成…78
［2］SMF との連携 ……79
埼玉県立近代美術館フレンド……80
貸館事業……81
入館者数一覧……83
名簿
埼玉県立近代美術館協議会委員……84
埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員……84
埼玉県立近代美術館利用審査会委員……84
埼玉県立近代美術館職員……84

■施設

敷地面積　35,177㎡
建築面積　2,238㎡
延床面積　8,577㎡
展示壁長　1,440 m
建築高さ　17.8 m
構　　造　地上 3 階、地下 1 階、鉄筋コンクリート造、
　　一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工　　期　昭和 55 年 3 月 28 日〜昭和 57 年 2 月 27 日
設　　計　株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
開　　館　昭和 57 年 11 月 3 日

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのようにつき出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央には 4 層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられている。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間としてコンサートなどのイベントにも使われる。

2 階の展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中での人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の 1985-86 年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

■美術館誌

令和 2（2020）年

4 月 1 日　新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための臨時休館（令和 2 年 2 月 29 日～）を継続（～ 5 月 6 日）。

4 月 4 日　開催予定の企画展「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」を延期。

4 月 11 日　「見沼 100 年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備（以降毎月第 2 日曜日）。

4 月 25 日　開催予定の「MOMAS コレクション［Ⅰ］」を延期。

5 月 7 日　臨時休館期間を延長（～ 5 月 31 日）。

5 月 13 日　実施予定の「ファミリー鑑賞会」を中止。

5 月 26 日　開催予定の「第 70 回記念埼玉県美術展覧会」は令和 3 年度に延期（その後令和 4 年度に再延期）。

5 月 31 日　臨時休館終了。

6 月 2 日　延期していた企画展「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」を開催（～ 9 月 6 日）。

6 月 2 日　延期していた「MOMAS コレクション［Ⅰ］」を開催（～ 7 月 12 日）。

6 月 6 日　開催予定の「ポリスコンサート」は中止。

6 月 26 日　「第 1 回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。

7 月 4 日　開催予定の企画展「コレクション 4 つの水紋」を延期。

7 月 18 日　「MOMAS コレクション［Ⅱ］」を開催（～ 10 月 18 日）。

8 月 3 日　「埼玉県立近代美術館利用審査会」に書面審査を依頼。

8 月 27 日　「第 1 回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。

9 月 26 日　9 月 19 日開催予定の企画展「桃源郷通行許可証」を中止し、その代替として企画展「MEDE SUWARU－今日みられる椅子」を開催（～ 11 月 3 日）。

10 月 7 日　実施予定の「ファミリー鑑賞会」を中止。

10 月 21 日　「埼玉県立近代美術館利用審査会」に書面審査を依頼。

10 月 24 日　「MOMAS コレクション［Ⅲ］」を開催（～ 2 月 7 日。ただし臨時休館のため 12 月 23 日まで）。

11 月 14 日　企画展「上田 薫」を開催（～ 1 月 11 日。ただし臨時休館のため 12 月 23 日まで）。

12 月 24 日　新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために臨時休館。ただし予約済の一般展示室は利用可能（～ 1 月 17 日）。

令和 3（2021）年

1 月 8 日　臨時休館期間を延長（～ 2 月 7 日）。

1 月 23 日　開催予定の企画展「美男におわす」を令和 3 年度に延期。

2 月 8 日　臨時休館期間を延長（～ 3 月 7 日）。

2 月 13 日　開催予定の「MOMAS コレクション［Ⅳ］」を延期。

2 月 14 日　「見沼 100 年構想の会」による北浦和公園内ボランティアが 100 回を迎えたことを記念し感謝状を贈呈。

2 月 16 日　「埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」による審査。

3 月 8 日　臨時休館期間を延長（～ 3 月 21 日）。

3 月 10 日　「埼玉県立近代美術館協議会」に書面による審議を依頼。

3 月 21 日　臨時休館終了。

3 月 23 日　延期していた企画展「コレクション 4 つの水紋」を開催（～ 5 月 16 日）。

3 月 23 日　延期していた「MOMAS コレクション［Ⅳ］」を開催（～ 4 月 18 日）。

3 月 27 日　開催予定の企画展「ボイス・パレルモ展」を令和 3 年度に延期。

3 月 30 日　「埼玉県立近代美術館フレンド理事会」に書面による審議を依頼。

■巻頭リポート

新型コロナウイルス感染拡大の１年を振り返る

2020 年度は、当館にとって新型コロナウイルスに翻弄された 1 年であった。

事業の実施状況については後のページで詳しく記述するが、予定していた多くのことが中止や延期、縮小せざるを得なくなった。大変残念なことであり、お客様の期待に十分応えられなかったかもしれない。

ただ、当館としては、正体がつかめない難敵に対し、お客様の安心・安全を確保した上でできる限りのことをしてきたことをご理解いただきたいと思う。

以下、この 1 年、コロナにどう対応してきたかをお伝えする。

■年度当初の取組

副館長として着任した 2020 年 4 月 1 日、新型コロナウイルス感染拡大防止のために 2 月 29 日から休館となっている状況が継続していた。当館では、4 月 4 日から開催予定の企画展「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」の展示が完了し、開館を待つだけの状況になっていた。

当時、コロナの感染者が国内で急増し、4 月 7 日には 7 都府県に緊急事態宣言が発令され、我々が待ち望んだ開館は先送りとなった。

直ちに館長のもと職員全員が、当館が皆様に忘れ去られないために何ができるのかをそれぞれ検討した。

まず、「New Photographic Objects」展が鑑賞の機会を得られないままに会期終了するのではないかとの心配があった。担当学芸員は直ちに作家と調整を図り、作品を紹介する予告動画の作成に取りかかった。休館期間を生かして新たな作品の制作に取り組んだ作家もいた。

一方、MOMAS コレクションも会期に合わせて展示作業を完了した。皆様にこれを知っていただくためにはどうしたら良いか。

まずは加須出身の斎藤与里の作品を、あえてゆるい表現で紹介するツイッターで発信を始めた。開館したらすぐに見ていただきたいからである。また、「ミニ！グッドデザインの椅子美術館」として、所蔵のデザイン椅子を休館中の建物の外からも見られる場所に設置し、公園を通る人々に楽しんでもらうことを考えた。

このように、休館当初は、皆様に来ていただかなくても楽しんでいただける、あるいは開館が楽しみになるような取組を始めたのであった。

斎藤与里の作品を紹介したツイッター（1 回目）

■企画展、MOMAS コレクションの会期や展示内容の変更

コロナ禍で最も困難な課題は、企画展や MOMAS コレクションの会期変更、そして展示内容の変更であった。

移動や関係先の人の受入れに一定の制約が掛かり、出品交渉や調査に行けなくなった。これができなければ展示準備は進まないのである。とくに巡回展は大変である。巡回先の美術館と調整が必要になる。

また、展示する作品は様々な所蔵者にご協力をいただき借用するわけだが、いつでもお借りできる訳ではない。所蔵者ご自身にも貸出の考えやスケジュールがあるのである。さらに海外から受け入れる作品には一層困難な調整が必要になる。

通常、展示の準備業務は、1 年以上前から始めるものであり、このような複雑な状況の中、2020 年度の展示だけでなく 2021 年度以降の展示のスケジュールまで組み直さなければならなくなった。当館では、2020 年度内に、困難なスケジュール変更を何度も行うことになり、身内のことではあるが学芸員たちにはただただ頭が下がる思いがした。そして、スケジュールが変更されれば、事業予算の変更も必要になり、そこでは当然収入と支出のバランスも問われることになる。

このような中、すばらしい企画の提案があった。「MEDE SUWARU －今日みられる椅子」展である。

当館は椅子の美術館でもあり、70点以上のデザイン椅子を所蔵している。その中から厳選した椅子を、触らずに目で楽しんでもらおうというもので無料の企画展とした。この展示に、親子連れも含め多くの方たちが足を運んでくださったのである。正に限られた条件の中で、いかに楽しんでいただくかという発想で企画されたものであった。

■開館後の対応

5月25日に緊急事態宣言が解除され、当館は新型コロナ感染防止対策に万全を期した上で6月2日から開館することになった。

お客様を受け入れるに当たっての主な対策は、受付を設けての名簿記入、検温のほか、展示室での人数制限や館内消毒である。お客様に安心して来館いただくためには当然の取組であるが、職員にとっては相当な負担である。通常業務を行いつつも、受付に1時間交代で職員が立たなければならない。期間が決まっていれば良いのだが、コロナ感染が一定程度収まるまでは続けなければならず、終期が見通せない。累計すれば大変な時間数である。

そして、何といっても展示や事業の中止や延期、縮小は、お客様の期待に応えられないことであり、当館として最も残念で苦しいことである。人気の「上田 薫」展は、11月14日に開幕したが、会期途中の12月23日での閉幕を余儀なくされた。年末年始に行こうと思っていた方には大変申し訳なかった。また、当館のコレクションで構成する「4つの水紋」展は、当初の7月開催から本年1月開催へ、さらに休館により3月開催へと変更になり、大変お待たせしてしまった。

さらに、展示の関連イベントとして、学芸員による作品解説を行うギャラリー・トークとサンデー・トークをほとんど実施できなかった。この解説は、作品自体の背景はもちろんのこと、ちょっとした裏話や学芸員の作品への熱い思いも飛び出す、美術館に足を運ばなければ聞くことができない、当館が自信をもって提供する事業である。

また、ボランティアの皆さんに活躍いただく場がなかったことも大変申し訳なくお詫びしたい。特に、毎日午後2時から展示室内でコレクションの作品ガイドをしていただいていた美術館サポーターの方の活躍の場を1年間提供できなかった。

そして、学校の団体利用も激減した。コロナによる休校で授業時間が足りなくなったことや、学校外へ出にくくなったことが要因と思われる。

学校単位で訪れる子供の美術鑑賞の意義は極めて高いと考えている。なぜなら、美術に関心が高い家庭の子供は親に連れられて美術館に来ることがあるだろう。しかし、そうでない家庭の子供は美術館を訪れる機会がないのではないか。

学校の授業の一環として来ることによって、何人かの子供はその機会に初めて美術のすばらしさを感じることになる。そして、それは時にその人の趣味のひとつとなり一生の宝物になるのである。私自身も、学校の歌舞伎鑑賞教室で国立劇場を訪れ、その演技に子供ながらに感動した覚えがある。

学校の利用が減少した一方で、秋以降、授業協力の依頼は激増した。美術館で生の作品を対話型鑑賞で見ることはできないが、美術のすばらしさを少しでも感じる機会になればこの上ない喜びである。

さらに言うと、コロナ感染を心配して一般展示室のキャンセルが相次いだ。当館は、県民の皆様の作品発表の場でもある。発表者は、長い時間をかけて作品をつくり、そして多くの方に鑑賞していただくことも楽しみにしている。そうした機会がコロナによって奪われたことは残念だったに違いない。

■マスコミも注目

コロナ禍でもうれしいことがあった。当館の作品がマスコミで紹介されたことである。

代表的なものを挙げると、BS日テレの「ぶらぶら美術館」で、「今日みられる椅子」展と川越出身の小村雪岱の作品が紹介された。山田五郎さんやおぎやはぎのお二人、高橋マリ子さんが当館を訪れて作品のすばらしさを余すところなく伝えてくれたのである。

「ぶらぶら美術館」撮影時の様子

また、NHKの「日曜美術館」のアートシーンで「New Photographic Objects」展を、テレビ埼玉の県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」で「上田 薫」展をそれぞれ紹介してもらうことができた。

そのほか、「美術手帖」をはじめ各種専門サイトでも当館の展示が紹介された。

■来館者の状況

とは言っても来館者の状況を示さなければならない。

入館者は、2019年度の210,761人から2020年度69,857人と、前年度比33.1%だった。また、展示観覧者は、同67,498人から38,698人と、前年度比57.3%だった。

これをどうとらえれば良いのだろうか。

当館を含め、県立博物館・美術館はおおむね同じような状況である。ただひとつ言えることは、コロナ禍の状況においても多くの皆様にご来館いただき、作品を鑑賞いただいて、おそらく幸せな気持ちでお帰りいただいたという事実である。

■展覧会は「学芸員の発表の場」

展覧会は優れた美術作品を皆様に鑑賞いただく場である。学芸員は、テーマを設け、数多くの中から作品を選び、ストーリーや見やすさなども考えて配置する。この作業に学芸員は並々ならぬ時間を費やし、こだわりぬくのである。展覧会は、正に「学芸員の発表の場」とも言えるのだ。これが学芸員の仕事の醍醐味である。

作品や資料の収集、保管、調査研究という地道な仕事の先に展覧会や各種イベントがあることからすれば、休館により「学芸員の発表の場」が縮小したり、来館者が減少したりしてしまったことは大変残念である。

様々な視点から議論し作品を配置する学芸員

■美術館の存在意義

美術館の存在意義は何であろうか。

硬いことを言えば、近代美術館条例には「美術に関する県民の知識及び教養の向上に寄与するため」とある。

しかし、本当の存在意義は、その先にある人々の心を豊かにする、そして人生を豊かにすることであると確信する。だからこそ、コロナ禍で人々の心に不安と不満が満ちあふれた今、美術の力で人々の心を癒し勇気づけることの使命がある。

そして、県民をはじめとした皆様も、今、美術鑑賞を欲している。美術ファンにとって美術館を訪れることは、「不要不急ではない！」と言えるのではないだろうか。

■ピンチをチャンスに

当館は2022年に開館40周年を迎える。2021年度最後の企画展を皮切りに記念展を連続開催していく。

一方で、新型コロナウイルスの蔓延は予断を許さない。コロナ禍にあっても、いかに美術館や作品を楽しんでいただくかを考えないとならない。知恵とアイデアを尽くす必要がある。ウィズコロナ、あるいはニューノーマルの時代と言われる中で、美術館の存在意義を常に考え、当館のファンの方々に満足していただくとともに、さらに新たな客層を開拓していく必要がある。

当館は皆さんに開かれた美術館である。しかし、「開かれた＝ただ待ちの姿勢」になってはならない。このような状況にあっても、いかにして多くのお客様を呼び込むのかを全ての職員が考えていく必要がある。

繰り返しになるが、私たちの仕事は、「人々の人生を豊かにする仕事」なのである。　（佐藤慶朗／副館長）

■企画展

令和２年度は当初、「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」（4 月 4 日～ 5 月 17 日）、「コレクション 4 つの水紋」（7 月 4 日～ 9 月 6 日）、「桃源郷通行許可証」（9 月 19 日～ 11 月 3 日）、「上田 薫」（11 月 14 日～ 2021 年 1 月 11 日）、「美男におわす」（1 月 23 日～ 3 月 14 日）、「ボイス＋パレルモ展」（3 月 27 日～ 5 月 16 日）の 6 本の企画展の開催を予定していた。

しかし、新型コロナ感染拡大防止のため 2020 年 2 月 29 日から 1 度目の臨時休館となったことに加えて、渡航制限や移動の自粛によって、出張を伴う作品調査や出品交渉、海外輸送、開催館会議などの展覧会準備に支障が生じたことから、当初の計画に沿った企画展開催は困難であると判断した。そこで 4 月以降、数度にわたって企画展スケジュール全体の見直しと調整を行い、令和 2 年度に開催が難しい展覧会については次年度以降に延期し、会期変更が可能な展覧会については会期の再調整を行った。

結果、「New Photographic Objects」および「コレクション 4 つの水紋」は会期を変更して開催、「美男におわす」および「ボイス＋パレルモ展」は令和 3 年度に延期した。「桃源郷通行許可証」については令和 4 年度以降の開催を検討することにした。なお、「上田 薫」は横須賀美術館とともに準備を進め、横須賀美術館に続いて当館も当初の予定通り開幕したが、2 度目の臨時休館により会期途中での閉幕を余儀なくされた。また、「桃源郷通行許可証」の代替として、当館の椅子コレクションを活用した「MEDE SUWARU － 今日みられる椅子」を入場無料で開催した。

講演会などの関連イベントも通常通り開催できない状況が続いたが、感染状況を踏まえて各展覧会で実施について検討し、対策を講じながら、「New Photographic Objects」では出品作家のトークや上映会、「上田 薫」では担当学芸員によるギャラリー・トークや拡大版スライド・トーク、「コレクション 4 つの水紋」では動画配信によるミュージアム・コンサートを実施することができた。

■ New Photographic Objects 写真と映像の物質性 New Photographic Objects The Materiality of Photo and Video

■会期：2020 年 6 月 2 日（火）～ 9 月 6 日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館、New Photographic Objects 展実行委員会

■展示協力：ベンキュージャパン株式会社、キヤノン株式会社

■協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK5
※さいたま国際芸術祭 2020 連携プロジェクト

■観覧料：一般 1100 円（880 円）、大高生 880 円（710 円）

■入場者数：7,488 人

■広報印刷物：ポスター B1、B2、ちらし A4 ／デザイン：田中義久

■担当学芸員：大浦周、佐原しおり

A4 ちらし

■開催趣旨

デジタル技術が加速度的に発展し社会に浸透した現代において、写真や映像という表現形態を選んだアーティストたちは、動画像編集ソフトによる加工や合成、コピーやスキャニング、さまざまな出力方法を用いたインスタレーション、ソーシャルメディアやフォトシェアリング・プラットフォームを利用した双方向的な手法などを複合的に駆使して、その表現言語を更新し続けています。新しいテクノロジーから伝統的な手法までがひろく選択可能性に開かれた状況から、写真と映像の可能性を拡張する意欲的な表現が次々に生まれるスリリングな場に、私たちは立ち会っているのです。

この展覧会で紹介する4名と1組のアーティストは、こうした状況をふまえつつ、メディアの物質性を重視した独自のアプローチによってこの領野に新機軸を打ち出しています。数百枚の写真を積み重ねて切断した断面、くしゃくしゃに折りたたまれたプリントの物理的な襞、映像から立ち上がる観る行為に潜在する触覚的な要素など、彼らの作品における特徴的な物質性は、単にフェティッシュなこだわりによるものではありません。おのおのが用いるメディアの歴史や特性、機能に鋭く分け入り、それを更新するための戦略によって獲得された性質なのです。

彼らの作品をラディカルな再考と更新をめざす「新しい写真的なオブジェクト」と措定し、著しい速度で変化する現代の写真表現・映像表現の一断面をとらえることがこの展覧会のねらいです。それはまた、私たちをとりまく今日の視覚環境について、深く考えを巡らせる絶好の機会となるはずです。

■出品作家

迫鉄平／滝沢広／ Nerhol ／牧野貴／横田大輔

■関連事業

・牧野貴 スクリーニング＆トーク／牧野貴、聞き手：大浦周、梅津元／ 2020年8月15日（日）14時～ 16時30分／講堂／無料／参加者39名

・クロストーク 滝沢広×原田裕規／滝沢広、原田裕規（美術家）／ 2020年8月22日（日）15時～ 16時30分／講堂／参加者：25名

・Nerhol ラウンドトーク／ Nerhol（田中義久、飯田竜太）、鈴木俊晴（豊田市美術館学芸員）、桝田倫広（東京国立近代美術館主任研究員）、大浦周／ 2020年8月29日（土）15時～ 16時30分／講堂／参加者：47名

・迫鉄平 全映像作品 2013-2019 上映会／迫鉄平、髙橋耕平（美術家）、西田博至（批評家、『アラザル』同人）、THE COPY TRAVELERS（加納俊輔、上田良）、福尾匠（映像論研究者）／ 2020年9月5日（土）10時～ 17時30分／講堂／参加者：137名

■広報記録

〈新聞〉

・大西若人『朝日新聞』2020年6月9日

・タカザワケンジ「美術評 見ることは考えるきっかけ」『東京新聞』2020年7月31日

・高橋咲子「層に浮かぶイメージ」『毎日新聞』2020年8月5日

・告知：『東京新聞』2020年4月2日／『朝日新聞』2020年4月2日、2020年6月16日、2020年6月30日、2020年7月21日、2020年8月25日、2020年9月1日／『埼玉新聞』2020年6月16日、2020年7月7日、2020年7月21日、2020年7月28日、2020年8月4日、2020年9月1日／『東京新聞』2020年6月18日、2020年7月1日、2020年8月27日／『読売新聞』2020年7月14日、2020年7月21日、2020年8月18日、2020年9月1日／『毎日新聞』2020年8月28日

〈雑誌、ミニコミ誌等〉

・「新しい写真・映像表現を見せるアーティストたち」『月間ブレーン』2020年5月1日

・柴原聡子「今だから感じたい、写真と映像のマテリアリティ「New Photographic Objects」展」『GINZA』2020年7月16日

・石川健次「Art Scene」『サンデー毎日』2020年7月19日

・「この秋注目の展覧会で、心に残る一枚を見つける。21世紀を占う新鋭写真家5組が、次世代の写真を示す。」『Pen』2020年9月1日

・告知：『たまログ』2020年4月1日／『アコレ大宮』2020年4月10日／『武州路』2020年6月20日／『ショッパー』2020年6月26日、2020年7月3日／『定年時代』2020年7月6日／『FUDGE』2020年7月10日／『地域創造レター』2020年7月25日／『芸術新潮』2020年8月25日

〈テレビ、ラジオ〉

・NHK「日曜美術館アートシーン」2020年7月5日

〈Web〉
・飯沢耕太郎『artscape レビュー』2020 年 8 月 1 日号
・ダニエル・アビー「いま問われる、写真とジェンダーの関係性。」『美術手帖』2020 年 8 月 16 日
・塚田優「ノイズの発見と増幅のプラクティス」『レビューとレポート』第 16 号（2020 年 9 月）
・告知：『FASHION PRESS』2020 年 5 月 29 日／『青山デザインフォーラム』2020 年 6 月 3 日／『JR 西日本』2020 年 6 月 4 日／『JR 東日本』2020 年 6 月 4 日／『じゃらん』2020 年 6 月 4 日／『美術手帖』2020 年 6 月 6 日、2020 年 6 月 8 日／『MIRAI』2020 年 6 月 12 日／『ショッパー電子版』2020 年 6 月 23 日／『Kita-ColleART』2020 年 6 月 30 日／『OBIKAKE』2020 年 6 月／『TOKYO ART BEAT』2020 年 6 月／『アートジェーン』2020 年 6 月／『今見られる全国のおすすめ展覧会 100』2020 年 6 月 ／『KAMADO』2020 年 7 月 28 日／『Harumari Tokyo』2020 年 7 月／『インターネットミュージアム』2020 年 7 月／『ウォーカープラス』2020 年 8 月 14 日

■担当後記

◆本展は、物理的な基盤によらないデジタル写真・映像がひろく社会に浸透した今日において、いかにメディアを物理的なものとしてとらえアプローチするか、という問いに独自の手法で応答する 4 名と 1 組のアーティストを紹介するグループ展である。それぞれが展覧会のテーマをふまえた新作を制作し準備を進める中、新型コロナウイルス感染症の流行拡大により当館は前年度 2 月末から臨時休館となり、本展も開催のめどが立たない状況となった。

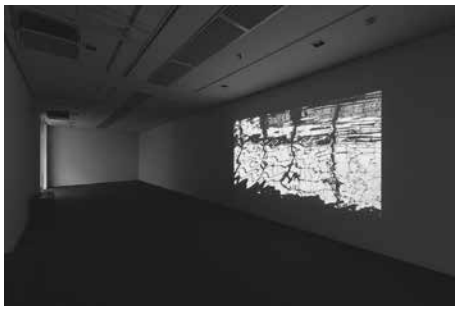
◆当初は時限的な措置と思われた臨時休館だが、3 月 26 日に一都三県で外出自粛の共同声明が発表されるに至り、展覧会の開幕はもとより、当初予定していた会期（4 月 4 日～ 5 月 17 日）中の再開館も見通せない状況を強いられた。展示作業は当初の開幕に合わせて完了し、いつ再開館してもよい状態となっていたが、観客の目にいっさい触れることなく展覧会が終わる恐れが現実味を帯びるようになった。

◆このような状況下で、再開館までいかに展覧会への関心をつなぎとめるか、仮に誰にも見られることなく展覧会が終わってしまう場合、記録として残すにはどうしたらよいかについて、出品作家と担当学芸員が検討を重ねた。作家からは、動画による展示風景の公開や、展覧会全体のアーカイヴとしても機能する特設サイトの作成などさまざまなアイデアが出された。牧野貴によるプロモーション映像の製作をはじめ、各作家に惜しみない協力をいただいた。一方、そうしたアイデアを実現するために、美術館側が迅速かつ柔軟に対応できたとはいえない。制度面や予算面のさまざまな制約をクリアする実行力に欠けた点は、担当学芸員および美術館が大いに反省すべき点である。

◆緊急事態宣言は 5 月 24 日まで継続されたが、美術館の年間計画も大幅に再編され、本展は 6 月 2 日～ 9 月 6 日に会期を変更して実施することができた。会期後半には、感染拡大防止策を徹底したうえで、対面でのトークイベントや上映会を開催できたことは、現在なおさまざまなイベントが制限されている状況を鑑みれば、貴重な機会であったと思う。（大浦 周）

展示風景（横田大輔）

展示風景（滝沢広）


展示風景（迫鉄平）

■出品リスト

凡例
・作家の掲載順は展示の構成順に従った。
・各作品情報は作家から提供された情報に基づき、以下を原則として掲載した。
　作品番号／タイトル／制作年／技法・素材（映像作品の場合は時間）／所蔵者
・所蔵表記のない作品はすべて作家蔵である。

牧野貴

1-1	still in cosmos I	2016 年	プラチナ・プリント	Empty Gallery 蔵
1-2	still in cosmos II	2016 年	プラチナ・プリント	Empty Gallery 蔵
1-3	still in cosmos III	2016 年	プラチナ・プリント	Empty Gallery 蔵
1-4	cinéma concret	2016 年	8K ヴィデオ（30 分）	

横田大輔

2-1	Untitled（Room ／ Reflection）	2020 年	UV 印刷、PVC（ポリ塩化ビニル）	

Nerhol

3-1	Farmer	2020 年	インクジェットプリント	
3-2	Soybean	2020 年	インクジェットプリント	
3-3	Children	2020 年	インクジェットプリント	
3-4	Build a House	2020 年	インクジェットプリント	
3-5	彩湖	2020 年	インクジェットプリント	
3-6	彩湖、サンマルコ広場	2020 年	インクジェットプリント	
3-7	Fried Egg	2020 年	インクジェットプリント	
3-8	7 Women	2017 年	インクジェットプリント	
3-9	Remove	2019 年	インクジェットプリント	
3-10	Girls reading the newspaper	2020 年	インクジェットプリント	
3-11	Interview：Portrait of Mr.Yoshida	2018 年	インクジェットプリント	舘野寛次氏蔵
3-12	be tried	2020 年	インクジェットプリント	
3-13	Water Surface	2018 年	インクジェットプリント	
3-14	Chair	2020 年	インクジェットプリント	

滝沢広

4-1	The Scene（Berlin）#01	2020 年	写真、アクリル、木材、鉄	
4-2	The Scene（Berlin）#02	2020 年	写真、アクリル、木材、鉄	
4-3	The Scene（Berlin）#03	2020 年	写真、アクリル、木材、鉄	
4-4	Mood of the Statue #01	2020 年	コピー用紙、コンクリート、鉄	
4-5	Mood of the Statue #02	2020 年	コピー用紙、コンクリート、鉄	
4-6	Criminal Garden（2020）	2019-20 年	写真、木材	

迫鉄平

5-1	Harmonices Mundi #35	2020 年	シルクスクリーン	
5-2	Harmonices Mundi #32	2020 年	シルクスクリーン	
5-3	Harmonices Mundi #31	2020 年	シルクスクリーン	
5-4	Harmonices Mundi #33	2020 年	シルクスクリーン	
5-5	Harmonices Mundi #26	2020 年	シルクスクリーン	
5-6	バッドチューニング #42	2018 年	シルクスクリーン	
5-7	バッドチューニング #58	2020 年	シルクスクリーン	
5-8	バッドチューニング #45	2018 年	シルクスクリーン	
5-9	バッドチューニング #53	2020 年	シルクスクリーン	
5-10	バッドチューニング #54	2020 年	シルクスクリーン	
5-11	2014 年のドローイングブック	2018 年	シングルチャンネル・ビデオ（10 分 51 秒）	
5-12	#18	2019 年	シングルチャンネル・ビデオ（11 分 34 秒）	
5-13	氷	2020 年	シングルチャンネル・ビデオ（15 分 22 秒）	
5-14	Harmonices Mundi #29	2020 年	シルクスクリーン	
5-15	Harmonices Mundi #27	2020 年	シルクスクリーン	

■ MEDE SUWARU －今日みられる椅子 Chairs You Can See Today

■**会期**：2020 年 9 月 26 日（土）～ 11 月 3 日（火・祝）
■**主催**：埼玉県立近代美術館
■**協力**：JR 東日本大宮支社、 FM NACK5
■**観覧料**：無料
■**入場者数**：5,560 人（2 階企画展示室入場者）
■**広報印刷物**：ポスター B2（2 種、館内掲示のみ）
■**担当者**：鴫原悠、矢嶋梨恵、飯田淳乃

B2 ポスター

■開催趣旨

埼玉県立近代美術館は、開館当初からグッドデザインの椅子を収集、館内各所で展示し、「椅子の美術館」としても知られている。従来、ほとんどの椅子は自由に座って来館者に楽しんでいただいていたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020 年 6 月の再開館以降は座れる椅子の利用を制限している。

この展覧会は、2 階展示室 B と 1 階ギャラリーを使い、デザイナーの豊かな発想から生まれた秀逸なデザインの椅子を実際に座る代わりに見て味わう、つまり「目で座る」展覧会である。かたちや色、素材をじっくり見ながらその椅子が置かれる空間や座り心地、デザイナーのアイデアを想像してみると、座って楽しむときとは違った角度から、椅子の新たな魅力を見つけることができる。人気の椅子のコレクションを多面的な視点で紹介し、「愛でる」楽しみを案内した。

■広報記録

〈新聞〉
・告知：『新美術新聞』2020 年 9 月 11 日／『毎日新聞』2020 年 9 月 11 日、9 月 18 日、9 月 25 日／『産経新聞』2020 年 9 月 19 日／『東京新聞』2020 年 9 月 24 日、10 月 15 日／『埼玉中央よみうり』2020 年 9 月 25 日／『埼玉新聞』2020 年 10 月 6 日
〈雑誌、ミニコミ誌等〉
・浦島茂世「見逃せない注目アート」『OZ magazine』2020 年 11 月号、2020 年 10 月 12 日
・告知：『彩の国だより』9 月号、2020 年 9 月 1 日／『定年時代』2020 年 9 月 7 日、10 月 19 日／『リビングさいたま』2020 年 9 月 25 日
〈Web〉
・告知：『J タウンネット』2020 年 7 月 19 日／『OBIKAKE』2020 年 7 月 29 日／『アートアジェンダ』2020 年 7 月 29 日／『インターネットミュージアム』2020 年 7 月 29 日、8 月 12 日／『JDN』2020 年 8 月 25 日／『美術展ナビ』2020 年 9 月 2 日／『美術手帖』2020 年 9 月 4 日／『アコレ大宮』2020 年 9 月 9 日、9 月 10 日／『KENCHIKU』2020 年 9 月 ／『TOKYO ART BEAT』2020 年 9 月／『あとあと』2020 年 9 月／『ウォーカープラス』2020 年 9 月／『エンタメウィーク』2020 年 9 月／『さいたま観光国際協会』2020 年 9 月／『サンゼロミニッツ』2020 年 9 月／『ヒトシア』2020 年 9 月／『ゆこゆこ』2020 年 9 月／『日本旅行』2020 年

9月
〈テレビ・ラジオ〉
・TBSラジオ「アフター6ジャンクション　特集コーナー」2020年9月8日
・テレビ埼玉「いまドキッ！埼玉　Weekly Pick Up」2020年10月3日
・BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館　#358　ぶらぶら美術・博物館スペシャル 秋の埼玉ツアー！注目スポットがいっぱい！」2020年10月20日
・告知：FM NACK5「朝情報埼玉」2020年9月29日

■担当後記

◆新型コロナウイルス感染拡大の影響は、企画展の開催にも及んだ。当初2020年秋に開催予定だった「桃源郷通行許可証」は、コロナ禍での展覧会準備が困難であることから、関係者と協議し、2022年度以降に延期して開催を検討することとした。本展はその代替企画として発案されたもので、6月頃から準備を始めた。コロナ禍以降、常時十数種類展示していたデザイン椅子の展示を制限しなければならなくなり、椅子の展示機会が減少してしまったため、この展覧会では「椅子の美術館」として親しまれている当館の椅子のコレクションをまとめて紹介する機会にしたいと考えた。

そこで、実際に体で座ることはできないけれども「目で（見て）座る」ことによってデザインの面白さを味わうとともに、座り心地や置かれる空間を想像することによって愛着をもって鑑賞する、つまり「愛でる（めでる）」ことを楽しんでいただければと考え「MEDE SUWARU」というタイトルをつけた。加えて、コロナ禍以降教育・広報担当が続けていた椅子を紹介する取組「今日みられる椅子」の名称をサブタイトルとして生かした。展示室Cは天井のレール修繕のために閉室し、曲面ガラスのある展示室Bと1階吹き抜け周りを会場にした。

◆開催にあたり、教育・広報担当が中心となって学校での出前授業や団体案内などで実施してきた椅子を使った鑑賞の手法を展示に活用したいと考えた。そこで、教育・広報担当の飯田主事、矢嶋担当課長も展覧会担当に加わり、これまでの普及事業で得られた視点を展示に取り入れた。

2階展示室では、展示の導入としてアキッレ・カスティリオーニ＆ピエル・ジャコモ・カスティリオーニがデザインした《セッラ》を展示し、「こんな時、どんな大きさの椅子がいい？（本を読む時…おしゃべりする時…手紙を書く時…）」、「このかたちに似ているものはあるかな？生きもの？食べもの？」など、様々な角度からの鑑賞を促す問いかけを提示した。そして、「色」「かたち」「素材」「大きさ」の章ごとに、多様な椅子を展示した。1階吹き抜け周りでは「めでる」という章で、「あなたならどこに置きたい？」「どんな座り心地だとおもう？」という問いかけを提示し、座った時の感覚を想像しながら鑑賞してもらえるような展示を目指した。

作品選定は教育・広報担当と共に行い、鑑賞の授業で人気のある椅子や、多面的な視点から鑑賞できる椅子を中心に出品する椅子を選定した。あわせて、中川久嗣《のっぽ椅子》のように収蔵品として登録されているが、座れる椅子としては活用していない椅子など、展示の機会が少なかった椅子も、「座れない」「触れない」展示であることを生かして積極的に出品リストに加えた。小規模な展示だったが、「椅子」という、当館のことをよく知る人にもそうでない人にも親しみやすいテーマだったことで多くの方に鑑賞していただき、「椅子の美術館」としての当館の魅力を感じていただける機会になったのではないかと思う。

◆教育・広報担当からは、これまでの普及事業の取組を生かして、展示をより楽しんでもらうためのアイデアを様々に提案してもらった。その中でも今回の展示で工夫した2点を紹介する。

1点目は映像の制作である。椅子本体の展示に加えて、《セッラ》に人が座っている様子と館内のいろいろな場所でゆらゆらとゆれる様子をうつした映像、そして、折り紙のように開くと平面になる笠松栄の椅子《パタパタ》を折りたたんだ様子をうつした映像を制作して、会場内で上映した。椅子と様々な空間との取り合わせの面白さや、みるだけではわからない椅子の構造がよく分かると好評だった。

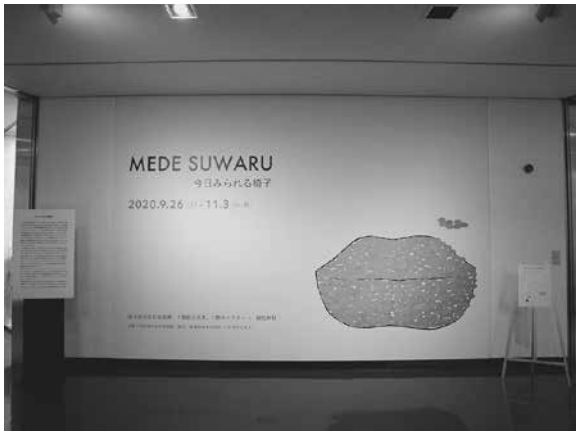
2点目は、展示室入口で実施したワークショップ「みんなで大きなマリリンをつくろう」である。展示室出口に机を設置し、感染防止対策を取りながら《マリリン》のかたちをしたカードに企画展を観覧してのコメントを書き、回収箱に投函してもらうもので、後日、職員がそのコメントをエレベーター前の《マリリン》のシルエットの上に貼り出した。

展覧会初日には黒い輪郭線のみでかたどられていた《マリリン》が、会期を追うにつれメッセージを記したカードで埋められていき、総数466枚のメッセージが

寄せられ、会期終盤には真っ赤な《マリリン》が完成した。メッセージからは、幅広い年代の来館者が、展示をみて好きな椅子を見つけたり、座り心地など想像したりしながら鑑賞している様子がうかがえたが、何より多かったのは、「早く（コロナ禍が収束して）椅子に座りたい」という内容だった。担当者としても同じ思いを実感しており、自由に椅子を楽しんでいただける日が早く訪れる事を願っている。（鴫原 悠）

会場風景（2 階企画展示室）

会場風景（1 階吹き抜け周り）



2 階エレベーター前に掲示した来館者からのコメント

■出品リスト

◇ 2 階展示室 B

ゆらゆら揺れる椅子 | Sella

作家・デザイナー	作品名	制作年	素材
アキッレ & ピエル・ジャコモ・カスティリオーニ	セッラ	デザイン：1957 年／製品化：1983 年	競技用自転車のサドル、鉄パイプにラッカー塗装、鋳鉄の基底部

素材 | material

作者不詳（ゲブリューダー・トーネット社によるデザイン）	ロッキング・チェア	デザイン・製品化：1860 年／ 1890 年頃	曲木ブナ材、籐張り
マルセル・ブロイヤー	ヴァシリー	デザイン：1925 年／製品化：1928 年頃	スチール・パイプにクロムメッキ仕上げ、厚手の皮革張り

作家・デザイナー	作品名	制作年	素材
中川久嗣	のっぽ椅子	制作：1979 年	欅、ウォールナット
髙鶴元	ニュー・イングランドの森の椅子 I	制作：1996 年	陶
髙鶴元	ニュー・イングランドの森の椅子 II	制作：1996 年	陶
フィリップ・スタルク	ラ・マリー	1998 年	ポリカーボネート
みかんぐみ	かみかんかぐ	デザイン・製品化：2001 年	紙管
チャールズ & レイ・イームズ	イームズ プラスチックアームチェア	デザイン：1948 年／製品化：1950 年	ポリプロピレン、スチール・パイプにクロムメッキ仕上げ、座面下に衝撃吸収ゴム

かたち | form

チャールズ・レニー・マッキントッシュ	ヒルハウス 1 ／ヒルハウスのベッドルームのためのハイバック・チェア	デザイン：1903 年／製品化 1973 年	トネリコ材にエボニー塗装、ヴェルヴェット張りの座面
アルヴァ・アールト	パイミオ／アームチェア 41	デザイン：1930-31 年／製品化：1932 年	樺材成型合板にラッカー塗装の背座、樺材積層成型のフレーム
ユバル・クリュ	テラッツア／ DS25 ／ DS1025	製品化：1974 年	合板のフレームにポリウレタンフォームのクッションと皮革張り
トールスタイン・ニールセン	トーテム	デザイン・製品化：1983 年	ブナ材積層成型に塗装、布張り
笠松栄	折り紙チェア／パタパタ A（子供椅子）	デザイン：1987 年／製品化：1988 年	合板にポリウレタン塗装
笠松栄	折り紙チェア／パタパタ B（子供椅子）	デザイン：1987 年／製品化：1988 年	合板にポリウレタン塗装
ヘリット・トーマス・リートフェルト	ジグザグ	デザイン：1932-33 年／製品化：1935 年	サクラ材
テルイェ・エクストレム	エクストレム	デザイン：1972-77 年／製品化：1984 年	スチール・パイプの芯にポリウレタンフォーム、布張り
ミヒャエル・トーネット	ステッキ・チェア／座付き歩行用ステッキ	デザインはトーネットの生前／製品化：1885 年	曲木ブナ材、籐張り

色 | color

ヘリット・トーマス・リートフェルト	レッド・アンド・ブルー	デザイン・製品化：1918 年（基本原色の塗装は 1923 年頃から）	ブナ材にブラック染色塗装およびウレタン塗装仕上げ
ピエール・ポーラン	タン／モデル No.577	デザイン：1966 年／製品化：1967 年	スチール・パイプのフレームにクッション材、布張り
スタジオ 65	マリリン／ボッカ	デザイン：1970 年／製品化：1972 年	成形ポリウレタンフォームに伸縮性のある布張り
笠松栄	折り紙チェア／ツル―B	デザイン：1982 年／製品化：1983 年	表面材タモ材の合板にポリウレタン塗装
梅田正徳	Ran	デザイン：1991 年／製品化：2008 年	スチールの芯、発泡ウレタンの詰物、ポリエステルの外装、ステンレス、プラスチック
アーヴィング・ハーパー & ジョージ・ネルソン	マシュマロ・ソファ	デザイン：1954 年／製品化：1956 年	塗装鋼管、アルミニウム、ビニール・クッション
内田繁	セプテンバー／ C-017	デザイン・製品化：1977 年	スチール・パイプにメラミン焼付塗装、布張りの座面
ペーター・オプスヴィック	ガーデン：リトル・ツリー	デザイン・製品化：1985 年	ブナ材、ポリウレタンフォームに布張り

大きさ |size

graf	XL（プランクトン 1.8）	2004 年	木、鉄

作家・デザイナー	作品名	制作年	素材
柳宗理	バタフライ・スツール	デザイン：1953-54 年／製品化：1956 年	表面材ローズウッドの成型合板、真鍮のストレッチャー

◇ 1 階ギャラリー

めでる |admire

ヴェルナー・パントン	パントンチェア	デザイン：1959-60 年／製品化：1968 年	成型 FRP にラッカー塗装
剣持勇	丸椅子／ラウンジチェア	製品化：1960 年	籐、布張りクッション
剣持勇	ホーム・ベンチ／ FRP-0100	デザイン：1964 年	FRP、スチール・パイプ、アルミダイキャスト
DS チーム	DS60|DS600	製品化：1972 年	皮革張り、ジョイントのジッパー、布
オリヴィエ・ムルグ	ジン	製品化：1964 年	スチール・パイプの芯にポリウレタンフォーム、布張り
アキッレ・カスティリオーニ	プリマーテ	デザイン・製品化：1970 年	高硬度発泡プラスチックのフレーム、ポリスチレンの基底部、ポリウレタンフォームにビニルのカバー、スチール・パイプにクロムメッキ仕上げ

* すべて埼玉県立近代美術館蔵

■ 上田 薫　UEDA Kaoru

■会期：2020 年 11 月 14 日（土・県民の日）～ 2021 年 1 月 11 日（月・祝）　※ 12 月 24 日～ 1 月 11 日は臨時休館
■主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
■協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
■協力：上田薫
■企画協力：名古屋画廊
■広報協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK5
■観覧料：一般 1100 円（880 円）、大高生 880 円（710 円）（　）は団体 20 名以上の料金
■入場者数：6,185 人
■広報印刷物：ポスター B2、ちらし A4 変形、デザイン：林頌介
■担当学芸員：大越久子、喜多春月、佐原しおり

B2 ポスター

■開催趣旨

上田薫（1928- ）は、写真を使って対象を精巧に描き出す画家です。殻からつるりと落ちてくる生卵がリアルに描かれた彼の作品を、美術の教科書で見たことがある方も多いのではないでしょうか。

東京藝術大学で油彩を学び、主に抽象画を制作していた上田は、1956 年に映画ポスターの国際コンクールで優勝したことをきっかけに、グラフィックデザインの世界へ足を踏み入れます。それからしばらく絵画制作から離れますが、1970 年に、対象そのものだけを写実的に描く表現 ― 本人曰く、制作に行き詰まったときに頭を空っぽにするための「クソリアリズム」― に目覚めます。以後上田は、ときにデザインの世界で学んだことを活かしながら、現実以上にリアルに見える作品を次々と生み出していきました。

作品の多くは、殻が割られた瞬間の生卵、スプーンから流れ落ちそうなジャム、水の流れや空など、一瞬で姿を変えるものをモティーフとしており、その鮮烈な描写はリアリズム絵画のなかに独自の位置を占めるものとして、高く評価されています。

本展では、これまでまとまった形で紹介される機会の少なかった半世紀以上におよぶ上田薫の画業を、大学卒業後から 2019 年に制作された最近作までの作品 84 点によって紹介し、時間の流れ、空間のひろがり、そして何気ない日常を驚きに変える上田流リアリズムの世界を検証しました。

■カタログ

・規格：B5 変形版（25.7×18.5cm）、130 頁
・企画・編集：冨田康子、日野原清水（横須賀美術館）、大越久子、喜多春月、佐原しおり（埼玉県立近代美術館）
・製作：茂木光治（株式会社求龍堂）
・デザイン：近藤正之（株式会社求龍堂）
・翻訳：ルース・S・マクレリー（ザ・ワード・ワークス）
・印刷：株式会社東京印書館
・発行：横須賀美術館、埼玉県立近代美術館
・価格：2,200 円（消費税込）
・内容：上田薫－光学的視覚がもたらすもの（冨田康子）／第 1 章「リアル」の前史／第 2 章 スタイルの確立／第 3 章「時間」を描く／第 4 章「光」を描く／第 5 章 素描と版画／第 6 章 そして現在へ／上田薫 時代の中の絵画（佐原しおり）／上田薫 文献再録（僕の絵に関するメモ／「木綿こすり」とアクリル絵具 水と油を同居させた経歴／上田薫 絵の経歴／［新・作家への道標 74］上田薫◎オーディオ・メーカーとなま玉子／まるで写真、90 歳の超リアル画家 絵は目の錯覚）／上田薫 年譜（大越久子）／上田薫 パブリック・コレクション／上田薫 主要文献（喜多春月）／出品目録／展覧会によせて（上田葉子）

■関連事業

・スライド・トーク／11月22日（日）14時～14時30分／佐藤あゆか／参加者：50名
・ギャラリー・トーク／11月29日（日）11時～11時30分／佐原しおり／参加者：25名
・ギャラリー・トーク／12月6日（日）11時～11時30分／喜多春月／参加者：26名
・ギャラリー・トーク／12月13日（日）11時～11時30分／大越久子／参加者：35名
・フレンド向けギャラリー・トーク／12月14日（月）10時～10時45分／大越久子／参加者：24名
・拡大版スライド・トーク／12月19日（土）14時～14時30分／佐藤あゆか／参加者：40名

■広報記録

〈新聞〉

・大西若人「上田薫展　絵画の妙味堪能する「超写実」」『朝日新聞』2020年10月6日
・「県内の極の美術展」『埼東よみうり』2020年11月13日
・「瞬間をリアルな絵に」『読売新聞』2020年11月15日
・小出菜津子「まるで本物、鮮烈な一瞬」『埼玉新聞』2020年12月1日
・喜多春月「企画展「上田薫」」（上「非リアリズムの「リアル」」／中「形なき光 映りこみで表現」／下「最新機器駆使 画業に深み」）『読売新聞』2020年12月2日、9日、16日
・高橋咲子「評展覧会　一瞬の状況 光で描く」『毎日新聞』2020年12月2日
・前田朋子「写真よりリアルに一瞬描く」『東京新聞』2020年12月2日
・杉全美帆子「おとなのための美探訪」『東京新聞』2020年12月8日
・大西若人「回顧2020 美術 楽しませ批評する 制約下での底力」『朝日新聞』2020年12月22日
・「展覧会中止」『読売新聞』2020年12月25日
・告知：『朝日新聞』2020年11月10日、11月24日、12月1日、12月15日／『埼玉新聞』2020年11月3日／『埼玉中央よみうり』2020年11月6日／『東京新聞』2020年11月12日、11月19日、12月10日／『毎日新聞』2020年11月13日、12月11日／『読売新聞』2020年10月26日、11月30日、12月7日

〈雑誌、ミニコミ誌等〉

・石川健次「上田薫展」『サンデー毎日』2020年10月4日
・「話題の展覧会」『美術の窓』2020年11月号
・「今年行きたい美術館＆展覧会」『美術の窓』2021年1月号
・「美術館スケジュール」『美術展ぴあ2021』2020年12月22日
・告知：『たまログ』2020年11月号／『彩の国だより』2020年12月号／『定年時代』2020年12月号／『GINZA』2021年1月号
・中山真一「上田薫ー絵は「目の錯覚」」『追伸』第8号、2021年2月20日

〈テレビ、ラジオ〉

・NHK Eテレ「日曜美術館アートシーン」2020年10月18日
・テレビ埼玉「ニュース1155」2020年11月18日
・テレビ埼玉「いまドキッ！埼玉」2020年12月12日
・東京MXテレビ「WoW! Ho! TV」2020年12月15日

〈Web〉

・「瞬間のリアリズム」『美術展ナビ』2020年11月17日
・三輪穂乃香「展覧会レポート」『OBIKAKE』2020年11月20日
・杉全美帆子「「埼玉県立美術館」の「上田薫」展が素晴らしい!!」『杉全美帆子のイラストで読む美術シリーズ制作日誌』2020年12月8日
・ぷらいまり「リアルを超えた「超リアリズム」の世界」『ナンスカ』2020年12月14日
・とに～「上田薫」『アートテラー・とに～の【ここにしかない美術室】』2020年12月25日
・告知：『芸術新潮』2020年10月号／『FASHION PRESS』2020年10月7日／『OBIKAKE』2020年10月9日／『美術展ナビ』2020年10月12日／『KAMADO』2020年10月19日／『Kita-ColleART』2020年10月22日／『ぴあポイント』2020年11月11日／『美術手帖』2020年11月13日／『アコレ大宮』2020年11月15日／『BIGLOBE旅行』2020年11月／『DK SELECT 進化する暮らし』2020年11月／『goo地図』2020年11月／『ZAQおでかけガイド』2020年11月／『アートアジェンダ』2020年11月／『ウォーカープラス』2020年11月／『ぴあポイント』2020年11月／『ゆこゆこ』2020年11月／『日本旅行』2020年11月／『美術手帖』2020年11月

■担当後記

◆当館で所蔵している上田薫《ジェリーにスプーン C》がかねてより人気作品のひとつであったことから、横須賀美術館との巡回展が実現した。新型コロナウイルス感染症に振り回された今年度において、唯一予定通りに開幕できたこの企画展だけは会期を全うしたいものだと期待していたが、残念ながら年末に突然臨時休館が指示され、そのまま再開することなく閉幕した。初日以降、美術館の入口では手指消毒、検温、来館者カードの記入を実施したほか、ちらしや掲示等でも、感染症拡大防止への協力を呼びかけながらの開催であった。会場内は常時50名までの入場制限を想定したが、実際に入場を止めるにはいたらなかった。

◆ギャラリー・トークなど関連事業の開催判断は実に悩ましく、ぎりぎりまで状況を観察し、開催前日にツイッターとフェイスブック、ホームページでのみ告知した。密集を避けるため、午前中に30分間厳守といったこれまでにない方法をとったが、それでも予想以上の参加者に恵まれ、上田展に寄せる高い期待が垣間見えて嬉しかった。

◆会場の出口で、インタビュー映像「上田薫　制作と語り」を放映した。2020年初夏にご家族が撮影した動画を提供していただいたもので、現在も制作を続けているユーモラスでチャーミングな画家の姿に多くの人が足を止めた。また、巡回の会期中は、妻の葉子さんと娘の朱さんが、展示作品のエピソードや思い出を語るインタビューもYouTubeで配信された（編集・制作：横須賀美術館）。

◆上田作品は国内の30以上の美術館に収蔵されている。出品のご協力をいただいた所蔵館の学芸員からは、初期から最近作までを網羅的に見ることができ、自館のコレクションをあらためて位置づけることができたという声が多くあった。個展開催の意義のひとつといえよう。

◆グラフィック・デザイナーの林頌介さんは、今回初めて上田薫を知ったという。先入観なしに作品と向き合った結果、ポスターやちらしにキャッチコピーを使わず、ストレートに作品を用いるシンプルな構成に仕上げてくださった。ウエダカオルという新人女性作家の展覧会だと思った方もいたという。半世紀を経ても変わらない新鮮さを証明するエピソードである。　（大越久子）

◆業務の分担上、会場内で展示の説明をすることが多かったのだが、説明した相手の感想を聞くのがとても楽しい展覧会だった。「家で卵を割ってみたい」「あの空見たことあるかも」等、自分の日常生活と作品とを結びつける人や、絵画のなかに作家の影や小さなサインを見つけて興奮する人。油絵具とアクリル絵具が1つのカンヴァスに共存していることに驚愕する人もいれば、同じリアルな表現でも時代ごとに違いがあることに気づき感嘆する人もいた。日常に潜む小さな驚きを発見し切り取る視点と、その視点を正確に具現化する技術の両方を持ち、なおかつ90歳を越えても精力的に制作を続ける上田の作品だからこそ、これだけ多彩な感想を人々から引き出すことができたのだろう。残念ながら会期を完走することは叶わなかったが、展覧会を通して、コロナ禍で疲れた人々の日常に小さな驚きと彩りをもたらすことができたことを嬉しく思う。　（喜多春月）

いずれも展示風景

■出品リスト

・特に記載のある場合を除き、作者はすべて上田薫である。
・所蔵者の記載がない作品は、個人蔵または作家蔵である。
・作品データは、原則として所蔵館の提供データに基づいている。

出品番号 (cat.no)	作品名	制作年	寸法（縦×横 cm）	材質	所蔵者
第 1 章 「リアル」の前史					
1	自画像 Self Portrait	1954 年	53.0 × 40.9	油彩、キャンバス Oil on canvas	東京藝術大学 Tokyo Univercity of the Arts
2	作品 赤 -2 Work Red-2	1958 年	77.0 × 51.5	膠絵具、紙 Pigment and glue on paper	
3	作品 10 Work 10	1958 年	102.0 × 76.8	膠絵具、紙 Pigment and glue on paper	
4	作品 7 Work 7	1958 年	45.5 × 53.0	膠絵具、紙 Pigment and glue on paper	
5	八月十五夜の茶屋 The Teahouse of the August Moon	1955 年 （2001 年再制作）	108.0 × 77.0	フロッタージュ・コラージュ、紙 Frottage and collage on paper	
6	「リーバイス・デニムアート・コンテスト」ポスター（デザイン・原画：上田薫） Levi's Denim Art Contest（Designed and illustrated by UEDA Kaoru）	1975 年	103.0 × 72.8	オフセット印刷、紙 Offset print on paper	
7	階段を上る女 Woman Climbing Stairs	1969 年	130.6 × 130.5	油彩・アクリル、キャンバスボード Oil and acrylic on canvas board	
8	二人 Two Persons	1969 年	130.5 × 130.5	アクリル、キャンバスボード Acrylic on canvas board	
第 2 章 スタイルの確立					
9	貝 Shell	1970 年	31.8 × 40.9	油彩、板 Oil on board	
10	貝殻 Shell	1970 年	61.0 × 50.0	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
11	後向きの自画像 Self Portrait from the Back	1971 年	90.5 × 65.2	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
12	男の靴 Men's Shoes	1971 年	91.0 × 72.8	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
13	靴の裏 Muddy Sole	1972 年	116.6 × 99.7	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
14	女の靴 Women's Shoes	1971 年	89.8 × 72.1	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
15	デンキュウ B Lamp B	1972 年	53.0 × 45.5	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
16	タバコ Cigar-end	1973 年	90.3 × 65.2	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
17	バラ Rose	1972 年	115.5 × 99.7cm	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
18	コカ・コーラ B Coca-cola B	1974 年	116.5 × 91.1	油彩、キャンバス Oil on canvas	
19	ハンバーガー A Hamburger A	1974 年	182.2 × 228.0	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
20	黒アワビ Black Abalone	1975 年	129.3 × 160.8	アクリル、キャンバス Acrylic on canvas	
第 3 章 「時間」を描く					
21	アイスクリーム A Ice-cream A	1973 年	105.9 × 153.0	アクリル、板 Acrylic on board	
22	アイスクリーム B Ice-cream B	1978 年	116.7 × 91.2	油彩、キャンバス Oil on canvas	
23	スプーンの蜂蜜 Spoon and Honey	1974 年	91.0 × 116.7	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	
24	スプーンに水あめ Spoon and Millet Jelly	1974 年	130.0 × 161.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	東京国立近代美術館 The National Museum of Modern Art, Tokyo

出品番号 (cat.no)	作品名	制作年	寸法（縦×横 cm）	材質	所蔵者
25	スプーンのジャム A Spoon and Jam A	1974 年	130.0 × 162.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	東京都現代美術館 Museum of Contemporary Art, Tokyo
26	スプーンのオリーブ Spoon and Olive	1975 年	181.8 × 227.3	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	水戸芸術館所管 Collection: Art Tower Mito
27	氷ばさみの氷 B Ice-tongs and Ice B	1976 年	181.8 × 227.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	
28	ジェリーにスプーン C Jelly and Spoon C	1990 年	130.3 × 162.1	油彩、キャンバス Oil on canvas	埼玉県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Saitama
29	スプーンの苺 Spoon and Strawberry	1975 年	182.0 × 227.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	豊橋市美術博物館 Toyohashi City Museum of Art and History
30	ざくろにナイフ B Knife and Pomegranate B	1988 年	182.0 × 227.5	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	
31	なま玉子 A Raw Egg A	1975 年	162.0 × 130.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	群馬県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Gunma
32	なま玉子 B Raw Egg B	1976 年	227.0 × 182.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	東京都現代美術館 Museum of Contemporary Art, Tokyo
33	なま玉子 Q Raw Egg Q	1981 年	162.1 × 130.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	相模原市 Sagamihara City
34	なま玉子 C Raw Egg C	1976 年	130.0 × 162.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	東京都現代美術館 Museum of Contemporary Art, Tokyo
35	なま玉子 G Raw Egg G	1976 年	181.0 × 227.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	愛知県美術館 Aichi Prefectural Museum of Art
36	玉子にスプーン B Egg and Spoon B	1987 年	181.0 × 227.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	茨城県近代美術館 The Museum Modern Art, Ibaraki
37	玉子にスプーン D Egg and Spoon D	1987 年	130.5 × 162.2	油彩、キャンバス Oil on canvas	

第 4 章 「光」を描く

38	あわ D Soapsuds D	1979 年	91.1 × 116.8	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	
39	あわ K Soapsuds K	1981 年	227.0 × 545.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	水戸市立博物館 Mito City Museum
40	シャボン玉 F Soapbubble F	1979 年	227.3 × 181.8	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	水戸芸術館所管 Collection: Art Tower Mito
41	シャボン玉 I Soapbubble I	1981 年	径 70.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	
42	シャボン玉 J Soapbubble J	1981 年	径 89.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	
43	シャボン玉 N Soapbubble N	1982 年	径 70.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	
44	シャボン玉 O Soapbubble O	1982 年	径 56.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	
45	シャボン玉 P Soapbubble P	1982 年	径 56.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	
46	壊れたビン D Broken Bottle D	1983 年	162.0 × 130.0	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	水戸芸術館所管 Collection: Art Tower Mito
47	ビンの底 A Bottom of the Bottle A	1984 年	130.3 × 130.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	神奈川県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
48	コップの水 A A Glass of Water A	1973 年	100.5 × 81.0	アクリル、キャンバス Aclyric on canvas	
49	コップの水 I A Glass of Water I	1985 年	227.3 × 181.1	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	相模原市 Sagamihara City
50	コップの水 G A Glass of Water G	1985 年	227.3 × 181.1	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	相模原市 Sagamihara City
51	午後の番組 B TV Program in the Afternoon B	1991 年	181.8 × 227.3 （変型）	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	神奈川県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
52	液体 A Liquid A	1991 年	162.0 × 130.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	神奈川県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
53	液体 B Liquid B	1991 年	181.8 × 227.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	練馬区立美術館 Nerima Art Museum
54	液体 D Liquid D	1991 年	130.3 × 130.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	
55	流れ A Flow A	1991 年	181.8 × 227.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	神奈川県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

出品番号 (cat.no)	作品名	制作年	寸法（縦×横 cm）	材質	所蔵者
56	流れ L Flow L	1994 年	227.3 × 364.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	相模原市 Sagamihara City

第 5 章　素描と版画

57	あわ Soapsuds	1981 年	50.0 × 59.0	パステル、紙 Pastel on paper	
58	シャボン玉 Soapbubble	1981 年	59.0 × 50.0	パステル、紙 Pastel on paper	
59	スポンジにナイフ Sponge and Knife	1989 年	21.0 × 25.8 （イメージサイズ）	水彩・パステル・鉛筆、紙 Water color, pastel and pencil on paper	
60	玉子にナイフ D Egg and Knife D	1992 年	19.6 × 25.5 （イメージサイズ）	水彩・鉛筆、紙 Water color and pencil on paper	
61	流れ 1 Flow 1	1995 年	35.5 × 45.5	水彩・鉛筆、紙 Water color and pencil on paper	
62	流れ 95-7 Flow 95-7	1995 年	36.2 × 46.0	水彩・鉛筆、紙 Water color and pencil on paper	
63	流れ I Flow I	2014 年	13.0 × 20.0	水彩・コラージュ、紙 Water color and collage on paper	
64	流れ II Flow II	2014 年	8.3 × 16.0	水彩・コラージュ、紙 Water color and collage on paper	
65	ピーマン Pimento	2014 年	10.0 × 13.5	水彩・鉛筆、紙 Water color and pencil on paper	
66	玉子にスプーン Egg and Spoon	2014 年	10.0 × 13.5	水彩・鉛筆、紙 Water color and pencil on paper	
67	スプーンに水あめ A Spoon and Millet Jelly A	1983 年	48.0 × 60.0	リトグラフ、紙 Lithograph on paper	
68	壊れたビン C Broken Bottle C	1983 年	60.0 × 48.0	リトグラフ、紙 Lithograph on paper	
69	コップの水 A Glass of Water	1985 年	55.0 × 40.5	リトグラフ、紙 Lithograph on paper	
70	コップの水 J A Glass of Water J	1986 年	74.0 × 55.5	リトグラフ、紙 Lithograph on paper	
71	ジェリーにナイフ C Knife and Jelly C	1989 年	54.0 × 74.0	リトグラフ、紙 Lithograph on paper	
72	貝殻 1 Shell 1	2003 年	10.7 × 16.2	モノタイプ、紙 Monotype on paper	
73	草 4 Grass 4	2003 年	20.5 × 14.3	モノタイプ、紙 Monotype on paper	

第 6 章　そして現在へ

74	Sky D Sky D	2000 年	各 162.6 × 65.2 （3 点組）	油彩、キャンバス Oil on canvas	水戸芸術館所管 Collection: Art Tower Mito
75	Sky H Sky H	2003 年	各 162.0 × 65.0 （3 点組）	油彩、キャンバス Oil on canvas	神奈川県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
76	玉子の殻 A Eggshell A	1990 年	182.0 × 227.3	油彩・アクリル、キャンバス Oil and acrylic on canvas	イセ文化基金 Ise Cultural Foundation
77	玉子の殻 D Eggshell D	1991 年	181.8 × 227.3	油彩、キャンバス Oil on canvas	水戸芸術館所管 Collection: Art Tower Mito
78	サラダ B Salad B	2007 年	130.3 × 162.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	神奈川県立近代美術館 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
79	サラダ E Salad E	2014 年	130.3 × 162.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	
80	アカンサス C Acanthus C	2016 年	各 162.0 × 65.0 （3 点組）	油彩、キャンバス Oil on canvas	
81	デンキュウ Lamp	2019 年	41.0 × 32.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	
82	コップに手 A Glass and Hand	2019 年	41.0 × 32.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	
83	枯れ葉の秋 Dead Leaves in the Autumn	2019 年	41.0 × 32.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	
84	後向きの自画像 Self Portrait from the Back	2019 年	41.0 × 32.0	油彩、キャンバス Oil on canvas	

関連映像《上田薫　制作と語り（2020 年春〜夏）／ Interview with the artist》上映時間：6 分／撮影：H.Creation 長谷川勉　長谷川裕子／編集：らくだスタジオ

■コレクション　4つの水紋
Ripples Across the Collection

■会期：2021年3月23日（火）～5月16日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR東日本大宮支社、FM NACK5
■観覧料：一般1000円(800円)、大高生800円(640円)
■入場者数：4,811人
■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4、デザイン：遠藤一成
■担当学芸員：菊地真央、佐伯綾希、平野到

B2ポスター

■開催趣旨

当館では、開館以来印象派以降の西洋絵画、埼玉ゆかりの作家による作品を中心に収集を続けている。コレクションの一部は館内や屋外に常設され、特に館内では、作品同様積極的に収集を続けているデザイン椅子に座ってくつろぎながら、身近に作品を楽しんでいただける場を設けてきた。本展では、「近年の収蔵作家」のポール・シニャック、近代最初期に活躍した「埼玉ゆかり」の女性南画家奥原晴湖、「椅子のモダンデザイン」に携わったシャルロット・ペリアン、そして「屋外彫刻」を手掛けた重村三雄の4人の作家を起点として、コレクションを幅広く紹介した。

■リーフレット
・規格：B5、28頁
・編集：菊地真央、佐伯綾希、平野到
・デザイン：遠藤一成
・内容：展覧会の4章8コーナーの概要、各コーナー2点の作品解説
・発行：埼玉県立近代美術館
・価格：500円（消費税込）

■関連事業
・ミュージアム・コンサート「川嶋哲郎×竹澤悦子～響きの紋様　綾なす聲」／出演：川嶋哲郎（サックス、フルート）、竹澤悦子（箏、十七絃、歌）／美術館内で演奏した様子を会期中にYouTubeで動画配信

■広報記録
〈新聞〉
・「埼玉ミュージアム」『埼玉新聞』2021年4月6日
・告知：『埼玉新聞』2021年1月12日、3月2日／『毎日新聞』2021年2月5日／『朝日新聞』2021年4月20日／『東京新聞』2021年4月21日
〈雑誌、ミニコミ誌等〉
・「2021年注目の展覧会」『美術屋・百兵衛』No.56、2021年1月8日
・告知：「美術館スケジュール」『美術展ぴあ2021』2020年12月22日／「今年行きたい美術館＆展覧会」『美術の窓』2021年1月号／『たまログ』2月号、2021年2月1月／『彩の国だより』2月号、2021年2月1日／『定年時代』2月号、2021年2月1日／『武州路』5月号、2021年4月20日
〈Web〉
・告知：『FASHION PRESS』2020年12月／『OBIKAKE』2020年12月／『BIGLOBE旅行』2021年1月／『DOKKAおでかけ探検隊』2021年1月／『JRおでかけネット』2021年1月／『JR東日本』2021年1月／『アートアジェンダ』2021年1月／『いこーよ』2021年1月／『ウォーカープラス』2021年1月／『さいたま観光国際協会』2021年1月／『じゃらんnet』2021年1月／『ヒトシア』2021年1月／『日本旅行』2021年1月／『Acoreおおみや』2021年3月22日／『美術手帖』2021年3月26日／『アートテラー・とに～の【ここにしかない美術室】』2021年3月31日／『美術展ナビ』2021年4月1日／『goo地図』2021年4月／『TOKYO

ART BEAT』2021 年 4 月／『あとあと』2021 年 4 月／『今見られる全国のおすすめ展覧会 100』2021 年 4 月

■担当後記

◆当初、2020 年 7 月に開催される東京オリンピック・パラリンピックに併せて企画された収蔵品展だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、展覧会の年間スケジュールが大幅に変更となり、併せて本展も 2021 年 1 月 23 日から 3 月 21 日までの会期となった。しかし感染状況の悪化により、当館が 2020 年 12 月末より 2 度目の休館となったため、会期は 3 月 23 日から翌年度の 5 月 16 日までに変更された。

◆今回は、当館のコレクションの多彩さをご紹介すべく、西洋近代絵画、彫刻、日本画など、様々なジャンルの作品をひとつのテーマのもとで紹介することで、作品のジャンルや制作された時代、地域を超えて、ゆるやかなつながりを感じられる展示を目指した。モネなど、普段 MOMAS コレクションの「セレクション」でたびたび展示している人気の高い名品を、本展開催時期の「セレクション」担当者に協力いただいたおかげで、数多く展示することができた。一方で、2000 年頃までは館内に展示していたタペストリーや、ルイス・ニシザワやジャンガル・シン・シャームの作品など、10 年以上展示の機会がなかった作品を出品したことで、MOMAS コレクションをよくご覧になってくださっている方々にとっても新鮮な雰囲気を提供できたかと思う。

◆日本画の展示には、屏風用ケースをレンタルし、掛軸用の展示ケースを製作したほか、川越市立美術館の掛軸用ケースをお借りした。2 度の会期変更にも快くご対応いただいたおかげで、出品内容に幅を持たせられることとなった。

◆展覧会に併せて、教育普及担当が、質問に答えていくと回答者にふさわしいコレクション 1 点に行きつくというチャート形式のクイズを掲載したワークシートを作成した。ひとつの作品から連想を広げていくという展覧会の主旨をわかりやすく伝える内容のもので、子供に限らず大人も手に取ってくださっていた。展覧会の鑑賞やワークシートがきっかけで、鑑賞者が新たに知る作品や興味を抱くジャンルがあれば幸いである（p.67 を参照）。

◆普段、MOMAS コレクションへのお問い合わせのなかで、展示希望の声が多い作家（伊東深水、森田恒友、クロード・モネ、カミーユ・ピサロ、レオナール・フジタなど）はできるだけ展示するよう努めた。コロナ禍で不安な状況が続くなか、待望の作品をご堪能いただき、晴れやかな気持ちになる時間を持っていただけていれば良いと思う。

◆これまで 2 階の展示室で行われた収蔵品展のうち、近年は複数の学芸員がそれぞれコーナーを担当し、各学芸員の専門領域の高さが示される充実した内容のものが多かった。本展を、それらと異なる雰囲気の内容とすることに不安は強かったが、ご覧になった方にとって、美術に関する予備知識を前提とせず、感覚的に楽しみながら当館のコレクションの魅力を知っていただける場となったならば幸いである。（菊地真央）

展示風景

展示風景

■出品リスト

章　作家名	作品名	制作年	素材、技法	備考	備考
1. 新収蔵作家　ポール・シニャック					
ポール・シニャック	アニエールの河岸	1885	油彩、カンヴァス		
1-1 水辺の情景から					
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	1854-1857	油彩、板	登録美術品 平成 24 年度丸沼芸術の森寄託	
クロード・モネ	ルエルの眺め	1858	油彩、カンヴァス	登録美術品 平成 17 年度丸沼芸術の森寄託	
跡見泰	石川島	1930（昭和 5）	油彩、カンヴァス		
森田恒友	着船	1913（大正 2）	油彩、カンヴァス	平成 7 年度森田仁介氏寄贈	
森田恒友	イル・ブレア	1915（大正 4）	油彩、カンヴァス	昭和 58 年度森田仁介氏寄贈	
森田恒友	海景	1915（大正 4）	油彩、カンヴァス	昭和 58 年度森田仁介氏寄贈	
田中保	プティタンドリ風景		油彩、ボード	昭和 57 年度埼玉銀行寄贈	
田中保	サン・ベネゼ橋	c.1928（昭和 3 頃）	油彩、カンヴァス	昭和 57 年度埼玉銀行寄贈	
田中保	海の風景Ⅱ	1915-1920 （大正 4-9）	油彩、ボード	昭和 57 年度埼玉銀行寄贈	
田中保	海岸	1917-1920 （大正 6-9）	油彩、ボード	昭和 57 年度埼玉銀行寄贈	
モーリス・ドニ	トレストリニェルの岩場	1920	油彩、カンヴァス		
田中保	海の中の裸婦	1915-1920 （大正 4-9）	油彩、ボード		
丸山直文	puddle in the woods 6	2010（平成 22）	アクリル絵具、綿布	平成 26 年度寄託	
福岡道雄	飛び石	1994（平成 6）	FRP、木、合板		
難波田史男	湖の孤独	1970（昭和 45）	水彩、インク、紙	平成 26 年度柴田博氏寄贈	
難波田龍起	水のある街	1969（昭和 44）	油彩、エナメル、カンヴァス	平成 26 年度柴田博氏寄贈	
難波田龍起	コンポジション	1966（昭和 41）	油彩、エナメル、蝋、カンヴァスを板に貼付	平成 26 年度柴田博氏寄贈	
難波田龍起	コンポジション	1972（昭和 47）	油彩、カンヴァス	平成 26 年度柴田博氏寄贈	
橋本雅邦	浩月怒涛図		彩色、絹		3/23-4/27 展示
横山大観	漁村曙	1940（昭和 15）	彩色、絹	平成 19 年度大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈	3/23-4/27 展示
堂本尚郎	臨界－水	1991（平成 3）	リトグラフ、紙	平成 25 年度シロタ画廊寄贈	4/27-5/16 展示
菱田春草	湖上釣舟	1900（明治 33）	彩色、紙		
1-2 光の点描					
アルフレッド・シスレー	セーヴルの坂道	1879	油彩、カンヴァス	令和 2 年度丸沼芸術の森寄託	
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884	油彩、カンヴァス		
倉田白羊	房州風景	1918（大正 7）	油彩、カンヴァス		
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889	油彩、カンヴァス		
森田恒友	丘	c.1911（明治 44 頃）	油彩、カンヴァス	昭和 58 年度森田仁介氏寄贈	
斎藤豊作	フランス風景Ⅱ	c.1910（明治 43 頃）	油彩、カンヴァス		

章	作家名	作品名	制作年	素材、技法	備考	備考
	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919	油彩、カンヴァス		
	瑛九	雲	1959（昭和 34）	油彩、カンヴァス		
	瑛九	宇宙		油彩、カンヴァス		
	速水御舟	夏の丹波路	1915（大正 4）	彩色、絹		
	斎藤豊作	初冬の朝	1914（大正 3）	油彩、カンヴァス	平成 28 年度三機工業株式会社寄贈	
	高田誠	野尻湖と妙高	1940（昭和 15）	油彩、カンヴァス		
	斎藤豊作	残れる光	c.1910 （明治 43 頃）	油彩、カンヴァス	平成 29 年度さいかつ農業協同組合 代表理事組合長 根岸信一郎氏寄託	
	ロイ・リキテンスタイン	積みわら 7	1969	リトグラフ、エンボッシング、紙		
	マン・レイ	レイヨグラフ	c.1925 （プリントは 1963）	ゼラチン・シルバー・プリント		
	瑛九	作品（2）		ゼラチン・シルバー・プリント		
2. 埼玉に生きた画家　奥原晴湖						
	奥原晴湖	仙境群鶴	1905（明治 38）	彩色、絹		
	篠田久二郎編集	明治英名百詠撰	1889（明治 12）	雑誌	個人蔵	
	奥原晴湖	山風渓雨図	c.1908（明治 41 頃）	墨、紙	昭和 62 年度高柳栄二氏寄贈	
	奥原晴湖	渓頭風雨図				
	奥原晴湖	秋景山水図				4/27-5/16 展示
2-1 細部へのまなざし						
	ジャンガル・シン・シャーム	生命の木と番鳥	1988	水彩、紙	平成 18 年度長谷川時夫氏寄贈	
	上村次敏	作品 B	1959（昭和 34）	水彩、ペン、鉛筆、紙	平成 16 年度上村久仁子氏寄贈	
	上村次敏	サン・マルコ広場	1985（昭和 60）	テンペラ、カンヴァス（板に裏打ち）		
	島津純一	作品 6	1963-1969 （昭和 38-44）	インク、紙	平成元年度島津徹太郎氏寄贈	
	島津純一	作品 8	1963-1969 （昭和 38-44）	インク、紙	平成元年度島津徹太郎氏寄贈	
	島津純一	作品 17	1968（昭和 43）	インク、紙	平成元年度島津徹太郎氏寄贈	
	山本容子	Alice	1996（平成 8）	ブローチ（ソフトグランド・エッチング、グワッシュ、紙、シルバー）	平成 22 年度寄贈	
	山本容子	Queen's Roses	1996（平成 8）	ペンダントヘッド（ソフトグランド・エッチング、グワッシュ、紙、シルバー）	平成 22 年度寄贈	
	山本容子	Tea Party	1996（平成 8）	ブローチ（ソフトグランド・エッチング、グワッシュ、紙、シルバー）	平成 22 年度寄贈	

章	作家名	作品名	制作年	素材、技法	備考	備考
	山本容子	Caterpillar	1996（平成 8）	ペンダントヘッド（ソフトグランド・エッチング、グワッシュ、紙、シルバー）	平成 22 年度寄贈	
	山本容子	Cheshire Cat	1996（平成 8）	ブローチ（ソフトグランド・エッチング、グワッシュ、紙、シルバー）	平成 22 年度寄贈	
	山本容子	Mr. Rabbit	1996（平成 8）	指輪（ソフトグランド・エッチング、グワッシュ、紙、シルバー）	平成 22 年度寄贈	
	山本容子	Trump	1996（平成 8）	指輪（ソフトグランド・エッチング、グワッシュ、紙、シルバー）	平成 22 年度寄贈	
	増田三男	金彩双虫文箱	1980（昭和 55）	銀、金のアマルガム、貴石、蹴彫、魚々子、石	平成 22 年度斎藤晴子氏寄贈	
	増田三男	金彩蝶文小筥	1994（平成 6）	銀、金のアマルガム、岩絵具、魚々子、蹴彫、石	平成 22 年度斎藤晴子氏寄贈	
	増田三男	金彩兎鹿文小壷	1993（平成 5）	銀、金のアマルガム、蹴彫、魚々子	平成 22 年度斎藤晴子氏寄贈	
	大野百樹	雪の旭岳	2005（平成 17）	彩色、紙	平成 31 年度大野雅志氏寄贈	
2-2 絵画／言葉／文字						
	佐伯祐三	門と広告	1925（大正 14）	油彩、カンヴァス		
	靉嘔	Love letter	1974（昭和 49）	セリグラフ、紙	平成 29 年度有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈	
	靉嘔	［Love letter］の別ヴァージョン	1974（昭和 49）	セリグラフ、紙	平成 29 年度有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈	
	靉嘔	［Love letter］の別ヴァージョン	1974（昭和 49）	セリグラフ、紙	平成 29 年度有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈	
	駒井哲郎	記号の静物	1951（昭和 26）	エッチング、ソフトグランド・エッチング、ドライポイント、紙	平成 4 年度ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈	
	池田満寿夫	ぼくのもの・おまえのもの 1	1963（昭和 38）	ドライポイント、ルーレット、紙		
	池田満寿夫	T の肖像	1961（昭和 36）	ドライポイント、ルーレット、コラージュ、紙		
	井上有一	夢	1978（昭和 53）	墨、紙	平成 3 年度ウナック・トウキョウ寄贈	
	井上有一	蓮	1963（昭和 38）	墨、紙	平成 3 年度ウナック・トウキョウ寄贈	
	ルイス・ニシザワ	憂愁	1997	蝋画、布、板	平成 9 年度寄贈	

章	作家名	作品名	制作年	素材、技法	備考	備考
3. 椅子の美術館より　シャルロット・ペリアン						
	シャルロット・ペリアン、ル・コルビュジエ、ピエール・ジャンヌレ	LC4 シェーズロング	デザイン：1928	スチールパイプ（クロムめっき仕上げ）、黒革、グライド、スチール（ブラック塗装仕上げ）		
	ジャン・ヴァドヴィッチ編集	ラルシテクチュール・ヴィヴァント 1930 年春号	1930	雑誌	個人蔵	
3-1 横たわる						
	レオナール・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931	油彩、カンヴァス		
	伊東深水	宵	1933（昭和 8）	彩色、絹		
	寺井力三郎	寝る子	1967（昭和 42）	油彩、カンヴァス		
	岡本信治郎	8 時間眠る男	1974（昭和 49）	リトグラフ、ホットスタンプ、紙		
	岡本信治郎	眠れるアンディ・ウォーホル坊や	1974（昭和 49）	リトグラフ、ホットスタンプ、紙		
	岡本信治郎	眠れる玩具	1974（昭和 49）	木		
	マルク・シャガール	白い裸婦	1962	油彩、砂、カンヴァス	令和 2 年度丸沼芸術の森寄託	
	ポール・ゴーギャン	マナオ・トゥパパウ（死霊は見ている）	1893-1894（刷りは 1921/ ポーラ・ゴーギャン版）	木版、紙		
	ポール・ゴーギャン	テ・ポ（大いなる夜）	1893-1894（刷りは 1921/ ポーラ・ゴーギャン版）	木版、紙		
	古賀春江	コンポジション	c.1930（昭和 5 頃）	油彩、カンヴァス		
	池田良二	Nobody Knows My Mind	1981（昭和 56）			
	小山愛人	Work-T	1976（昭和 51）	セリグラフ、紙		
3-2 交流するデザイン						
	シャルロット・ペリアン、ル・コルビュジエ、ピエール・ジャンヌレ	バスキュラン・チェア /LC1 スリング・チェア	デザイン：1928	毛皮張りの背座、厚皮張りの腕、スチール・パイプにクロムメッキ仕上げのフレーム、背座にスチール・バネ		
	アイリーン・グレイ	E-1027/ アジャスタブル・テーブル	デザイン：1927	スチール・パイプにクロムメッキ仕上げ、ガラス		
	ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ	MR チェア	デザイン：1927	スチール（ポリッシュクローム）、皮革張り		
	ジョアン・ミロ	シュールレアリスト・コンポジション	1934 頃（原画制作）	染織、タペストリー		
	シャルロット・ペリアン	メリベル・スツール	デザイン：1961-1962	オーク材（ブラック染料塗装仕上げ）		
	柳宗理	バタフライ・スツール	デザイン：1953-1954	ローズウッドの成型合板、真鍮のストレッチャー		
	剣持勇	丸椅子 / ラウンジチェア	製品化：1960（昭和 35）	籐、布張りクッション		

章	作家名	作品名	制作年	素材、技法	備考	備考
	剣持勇	スツール	製品化： 1961（昭和 36）	籐		
	フェルナン・レジェ	誕生日	c.1950	染織、タペストリー		
	柳宗理	デザイン　柳宗理の作品と考え	1983	書籍	当館資料閲覧室蔵	
	商工省工藝指導所編集	工藝ニュース 1942 年 3 月号	1942	雑誌	個人蔵	
4. 公園のなかから　重村三雄						
	重村三雄	立ち話	1993（平成 5）	FRP	平成 20 年度寄贈	
4-1 素材の誘惑						
	ヴェルナー・パントン	パントンチェア	デザイン： 1959-1960	成型 FRP にラッカー塗装		
	日和崎尊夫	KALPA－生命	1987（昭和 62）	木口木版、紙	平成 13 年度荒井勝明氏寄贈	
	日和崎尊夫	永劫回帰	1988（昭和 63）	木口木版、紙	平成 13 年度荒井勝明氏寄贈	
	日和崎尊夫	未来都市 -T	1989（平成元）	木口木版、紙	平成 13 年度荒井勝明氏寄贈	
	日和崎尊夫	参考資料一式			平成 13 年度荒井勝明氏寄贈	
	菅木志雄	依界面	1976（昭和 51）	青カーボン、紙	平成 25 年度双ギャラリー寄贈	
	山田光春	作品	c.1936-1937 （昭和 11-12 頃）	油彩、ガラス	平成 28 年度山田光一氏寄贈	
	山田光春	作品	1951（昭和 26）	油彩、ガラス	平成 28 年度山田光一氏寄贈	
	橋本真之	作品 115　運動膜 （内的な水辺）	1978-1983 （昭和 53-58）	鍛金、銅	平成 27 年度桑原繁氏寄贈	
	堀越陽子	谺	1985（昭和 60）	ステンレス、鏡	平成 15 年度寄贈	
	倉俣史朗	ミス ブランチ	1988（昭和 63）	本体：アクリル、造花 脚：アルミニウムパイプにアルマイト染色仕上げ	平成 19 年度埼玉県立近代美術館フレンド寄贈	
4-2　不在の痕跡						
	重村三雄	1975 年の私	1975	FRP		
	アントニ・タピエス	右に靴	1984	リトグラフ、ホットスタンプ、紙		
	清水昭八	フリーマーケットでの掘り出し物（清水昭八銅版画集『ニューヨーク日記』より）	1993（平成 5）	凹版、エンボス、紙	平成 10 年度清水美津子氏寄贈	
	清水晃	漆黒から	1990（平成 2）	フロッタージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど	平成 27 年度寄贈	
	清水晃	漆黒から	1990（平成 2）	フロッタージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど	平成 27 年度寄贈	
	清水晃	漆黒から	1990（平成 2）	フロッタージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど	平成 27 年度寄贈	
	ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860	油彩、板にカルトン貼付	登録美術品 平成 17 年度丸沼芸術の森寄託	
	柄澤齋	肖像Ⅲ ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト	1982（昭和 57）	木口木版、紙		
	柄澤齋	肖像Ⅳ アルチュール・ランボー	1982（昭和 57）	木口木版、紙		

章	作家名	作品名	制作年	素材、技法	備考	備考
	柄澤齋	肖像 XIII エドガー・アラン・ポー	1983（昭和 58）	木口木版、紙	昭和 58 年度シロタ画廊寄贈	
	柄澤齋	肖像 XVI　マティアス・グリューネヴァルト	1983（昭和 58）	木口木版、紙		
	柄澤齋	肖像 XXⅦ オディロン・ルドン	1985（昭和 60）	木口木版、紙		
	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	イタリアの想い出	1866	エッチング、紙	平成 23 年度埼玉県立近代美術館フレンド寄贈	
	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	砂丘にて―ハーグの森の想い出	1869	エッチング、紙	平成 23 年度埼玉県立近代美術館フレンド寄贈	
	藤原吉志子	棘のある家	1991（平成 3）	ブロンズ	平成 21 年度藤原亙氏寄贈	
	山本容子	Rakuyu〈After Eyes〉	1983（昭和 58）	ソフトグランド・エッチング、紙		
	山本容子	Arashiyama〈After Eyes〉	1983（昭和 58）	ソフトグランド・エッチング、紙		
	山本容子	Tokyo Restaurant〈After Eyes〉	1983（昭和 58）	ソフトグランド・エッチング、紙		
	小村雪岱	青柳	c.1924（大正 13 頃）	彩色、絹		3/23-4/25 展示
	小村雪岱	青柳	c.1941（昭和 16）	木版、紙		4/27-5/16 展示
	小村雪岱	落葉	c.1924（大正 13 頃）	彩色、絹		3/23-4/25 展示
	小村雪岱	落葉	c.1941（昭和 16）	木版、紙		4/27-5/16 展示
	安田千絵	into a vortex; Untitled	1992（平成 4）	クリスタル・プリント	平成 25 年度独立行政法人国際交流基金寄贈	
	安田千絵	into a vortex; Untitled	1992（平成 4）	クリスタル・プリント	平成 25 年度独立行政法人国際交流基金寄贈	
	市川美幸	「空のすみか／在る・あいだ」シリーズより	1997（平成 9）	タイプ C プリント	平成 25 年度独立行政法人国際交流基金寄贈	
	市川美幸	「空のすみか／在る・あいだ」シリーズより	1997（平成 9）	タイプ C プリント	平成 25 年度独立行政法人国際交流基金寄贈	
	市川美幸	「空のすみか／在る・あいだ」シリーズより	1997（平成 9）	タイプ C プリント	平成 25 年度独立行政法人国際交流基金寄贈	

■ MOMAS コレクション

MOMAS コレクション（埼玉県立近代美術館常設展）では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の美術家の所蔵作品を、学芸員の調査・研究をもとにさまざまな観点から紹介している。年間を 4 つの会期に分け、さらにセレクション（名品選）、ジャンルやテーマ、美術家の小特集などのコーナーを設けて、多様な傾向の作品で展示を構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示し、企画性を高めている。このような姿勢を明確に提示するため、平成 20 年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMAS コレクション」という名称を用いている。

令和 2 年度は新型コロナ対応のため、2 度にわたる臨時休館を余儀なくされた。出張を伴う調査・研究や外部の協力者との接触を自粛せざるを得なかったため、MOMAS コレクションの計画を弾力的に変更し、「アーティスト・プロジェクト #2.05」の会期を第 2 期から第 3 期へ変更し、当初、第 3 期に開催を予定していた「特集：末松正樹」と「中野四郎と九元社」は令和 3 年度へ延期した。

昨年度から継続して「セレクション」のコーナーを毎回設けたが、単なる名品の紹介ではなく、第 2 期では「描かれた男性像」、第 4 期では「あつめて、ならべて」などの各論的テーマを軸に「セレクション」を構成した。

調査・研究を基にした展示としては、第 1 期の「特集：斎藤与里」、第 3 期の「花鳥を描く」、第 4 期の「リサーチ・プログラム：関根伸夫と環境美術」、「『MOMAS のとびら』のむこうがわ」などが挙げられる。

なお、毎年開催していた、子育て中の家族を応援する「ファミリー鑑賞会」は開催中止となった（p.63 を参照）。

■ MOMAS コレクション［ I ］

■会期：2020 年 4 月 25 日（土）～ 7 月 12 日（日）
※ 4 月 25 日（土）～ 5 月 31 日（日）は臨時休館
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR 東日本大宮支社
■入場者数：2,589 人
■広報印刷物：ポスター B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：菊地真央、鴫原悠、佐原しおり

B1・B2 ポスター

■展示室 A（1 階）

《セレクション》

オーギュスト・ルノワールほか自然を背景に生き生きと描かれた人物像の作品を紹介した。

《特集：斎藤与里》

個性的な画風を追求し、美術評論でも足跡を残した加須市出身の洋画家・斎藤与里（1885-1959）。当館のコレクションを中心に紹介し、多面的な画業をひもといた。

《写真という欲望》

フォトグラムやコラージュ、絵画、資料などから「写真」というメディアを多層的に読み解いた。

■担当後記：《特集：斎藤与里》

◆この展示では、埼玉県加須市出身の洋画家・斎藤与里（1885-1959）の画業を、収蔵品のほか特別出品の作品や資料を交えてたどった。当館では令和元年度の時点で斎藤与里の作品資料を 19 点収蔵している。本展示では収蔵品の一部に加えて、昨年度調査する機会に恵まれた県内個人が所蔵する与里の作品を借用し、特別出品として展示した。これによって、当館の収蔵品ではやや手薄だった滞欧中の作品や、昭和 10 年代の台湾に取材した作品などを紹介することができ、ある程度系統的に与里の画業をたどることができた。なお、本展示に出品された作品を含む個人蔵の作品は、今年度にご寄贈いただく運びとなり、新たに当館の収蔵品となった。

◆特集展示を組むにあたり、大正期から昭和初期にかけての装飾的な作風の時代と、戦後の個性的な童画風の作風を接続して検証したいと考えた。その背景として、特に、南画をはじめとする日本や東洋美術の油彩画への導入という点に注目した。併せて展示した牧野虎雄や奥瀬英三の同時代の作品は、西洋の表現主義的な表現と日本の南画的表現を融合し、日本独自の油彩画を模索する時代の傾向をよく示しているように思われる。

◆あわせて、斎藤与里の評論家としての側面も紹介したいと考え『白樺』や『早稲田文学』、『美術新論』など文章や挿絵を寄せた雑誌や書籍などの資料も展示した。さいたま文学館所蔵の資料もご出品いただいたことで、膨大な関連資料のごく一部であるがその活動を紹介することができた。こうした雑誌や書籍、あるいは書簡等の関連資料から浮かびあがる、同時代の美術や文芸との関わりや人的交流については、今後の課題として継続的に調査を進めていきたい。（鴫原 悠）

「特集：斎藤与里」展示風景

■担当後記：《写真という欲望》

◆《写真という欲望》は、同時期に開催された企画展「New Photographic Objects：写真と映像の物質性」に関連した企画である。時代の変遷や、技術革新とともに変化する写真表現のあり方を見せるため、写真技術の黎明期である 19 世紀後半に制作された作品から、マスメディアを通じて写真のイメージが大量に流通した戦後の作品まで幅広く紹介した。

◆瑛九の「フォト・デッサン」や、クリスティアン・シャートの「シャードグラフィー」など、当館のコレクションを代表する写真表現に加えて、「写真」という切り口から選んだドローイングやコラージュ、版画、資料をあわせて展示することで、絵画や写真といった美術のジャンル、あるいは作品と資料の境界を越えて横たわる「写真」というメディアの多元的な魅力を捉えることを企図した。

◆美術館にとって、写真は必ずしも「美術表現」として収集・保存されるものではなく、作品のコンディションや展示風景、イベントなどを記録する媒体としても重要な役割を果たしている。この展示の準備のために学芸室にある写真資料を掘り起こしてみると、屋外彫刻の移設の様子、作品搬入に立ち会う作家の姿など、ベテラン学芸員でないと知りえない様々な美術館の「記憶」が浮かび上がってきた。今後も整理を続け、紹介する機会を設けていきたい。（佐原しおり）

「写真という欲望」展示風景

■出品リスト

展示室 A

1 セレクション

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
カミーユ・ピサロ	［1830-1903］	エラニーの牛を追う娘	1884	油彩、カンヴァス	
オーギュスト・ルノワール	［1841-1919］	三人の浴女	1917-1919	油彩、カンヴァス	昭和 59 年度 以下 8 金融機関（当時）の寄付金で購入 埼玉銀行、武蔵野銀行、埼玉県信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫、小川信用金庫、飯能信用金庫、埼玉県信用農業協同組合連合会
モーリス・ドニ	［1870-1943］	トレストリニェルの岩場	1920	油彩、カンヴァス	
モーリス・ドニ	［1870-1943］	シャグマユリの聖母子	1925	油彩、カンヴァス	
アンドレ・ドラン	［1880-1954］	浴女	1925	油彩、カンヴァス	
マルク・シャガール	［1887-1985］	二つの花束	1925	油彩、カンヴァス	
倉田白羊	［1881-1938］	房州風景	1918（大正 7）	油彩、カンヴァス	
森田恒友	［1881-1933］	午睡する看護婦	1907（明治 40）	油彩、カンヴァス	昭和 58 年度 森田仁介氏寄贈
田中保	［1886-1941］	海の中の裸婦	1915-1920（大正 4-9）	油彩、ボード	
田中保	［1886-1941］	泉のほとりの裸婦	1920-1930（大正 9- 昭和 5）	油彩、カンヴァス	昭和 57 年度 埼玉銀行寄贈
田中保	［1886-1941］	海の風景 I	1920-1930（大正 9- 昭和 5）	油彩、ボード	昭和 57 年度 埼玉銀行寄贈

2 特集：斎藤与里

斎藤与里	［1885-1959］	橋のある風景		水彩、紙	個人蔵
斎藤与里	［1885-1959］	女の顔		水彩、紙	個人蔵
斎藤与里	［1885-1959］	尼	1908（明治 41）	油彩、カンヴァス	昭和 56 年度 斎藤晃司氏寄贈
斎藤与里	［1885-1959］	婦人像	1909（明治 42）	油彩、カンヴァス	昭和 56 年度 斎藤晃司氏寄贈
斎藤与里	［1885-1959］	朝	1915（大正 4）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	椿	1916（大正 5）	油彩、カンヴァス（板で裏打ち）	
斎藤与里	［1885-1959］	花模様	1916（大正 5）	水彩、紙	
斎藤与里	［1885-1959］	塩原錦秋	1918（大正 7）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	雪の日の天王寺公園	1925（大正 14）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	稔る秋	1929（昭和 4）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	春の夕	1930（昭和 5）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	野尻湖	c.1930（昭和 5 頃）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	うさぎ		彩色、紙	個人蔵
斎藤与里	［1885-1959］	暁の金剛山	1938（昭和 13）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	太子廟	1938（昭和 13）	油彩、カンヴァス	個人蔵
斎藤与里	［1885-1959］	支那服の少女	1940（昭和 15）	油彩、カンヴァス	個人蔵
斎藤与里	［1885-1959］	三津浜秋色	1940（昭和 15）	油彩、カンヴァス	個人蔵
斎藤与里	［1885-1959］	柿	1949（昭和 24）	油彩、カンヴァス	
斎藤与里	［1885-1959］	沼辺の朝	1951（昭和 26）	油彩、カンヴァス	
牧野虎雄	［1890-1946］	晩き夏	1927（昭和 2）	油彩、カンヴァス	
奥瀬英三	［1891-1975］	庭	1925（大正 14）	油彩、カンヴァス	
奥瀬英三	［1891-1975］	南紀瀞峡図	1936（昭和 11）	木版、紙	寄託作品（個人蔵）
オーギュスト・ロダン	［1840-1917］	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	c.1884-1886	ブロンズ	
ポール・ゴーギャン	［1848-1903］	川岸の女たち	1893-1894	木版、紙	1921 年刷り／ポーラ・ゴーギャン版
ポール・ゴーギャン	［1848-1903］	かぐわしい、かぐわしい	1894-1895	木版、紙	1921 年刷り／ポーラ・ゴーギャン版
斎藤与里	［1885-1959］	「ロダンに就いて起る感想」『白樺』第 1 巻第 8 号	1910（明治 43）	洛陽堂発行	さいたま文学館蔵
斎藤与里	［1885-1959］	「仏国画界の近状を論じて吾が美術界の現状に及ぶ」『早稲田文学』第 52 号	1910（明治 43）	東京堂書店発行	さいたま文学館蔵
表紙：斎藤与里	［1885-1959］	『早稲田文学』第 72 号	1911（明治 44）	東京堂書店発行	さいたま文学館蔵

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
斎藤与里	［1885-1959］	「匂の高い芸術」『朱欒』第 1 巻第 1 号	1911（明治 44）	東雲堂書店発行	さいたま文学館蔵
斎藤与里	［1885-1959］	「スタイン氏のコレクション」『白樺』第 3 巻第 1 号	1912（明治 45）	洛陽堂発行	さいたま文学館蔵
斎藤与里	［1885-1959］	「所感四五件」『現代の洋画』第 2 号（復刻版）	1912（明治 45）	日本洋画協会出版部発行	
表紙：斎藤与里	［1885-1959］	『現代の洋画』第 3 号（復刻版）	1912（明治 45）	日本洋画協会出版部発行	
斎藤与里	［1885-1959］	「PAUL GAUGUIN の芸術」『白樺』第 3 巻第 7 号（復刻版）	1912（明治 45）	洛陽堂発行	
斎藤与里	［1885-1959］	「秋」『ヒュウザン』第 1 号（復刻版）	1912（大正元）	日本洋画協会出版部発行	
斎藤与里	［1885-1959］	『第一回 ヒュウザン会展覧会目録』	1912（大正元）	ヒューザン会発行	さいたま文学館蔵
斎藤与里	［1885-1959］	「ピカソーの道」『ヒユウザン』第 4 号（復刻版）	1913（大正 2）	日本洋画協会出版部発行	
表紙：斎藤与里	［1885-1959］	『早稲田文学』第 89 号	1913（大正 2）	東京堂書店発行	さいたま文学館蔵
挿絵：斎藤与里	［1885-1959］	『文章世界』第 8 巻第 8 号	1913（大正 2）	博文館発行	さいたま文学館蔵
斎藤与里	［1885-1959］	「モーリス・ドゥニの芸術」『白樺』第 4 巻第 7 号	1913（大正 2）	洛陽堂発行	さいたま文学館蔵
斎藤与里	［1885-1959］	「直進」『第二回フュウザン会展覧会目録』	1913（大正 2）	ヒュウザン会発行	
挿絵：斎藤与里	［1885-1959］	『早稲田文学』第 100 号	1914（大正 3）	東京堂書店発行	
挿絵：斎藤与里	［1885-1959］	『ホトトギス』第 17 巻第 8 号	1914（大正 3）	ほとゝぎす発行所発行	さいたま文学館蔵
挿絵：斎藤与里	［1885-1959］	『早稲田文学』第 120 号	1915（大正 4）	東京堂書店発行	さいたま文学館蔵
表紙：斎藤与里	［1885-1959］	『早稲田文学』第 153 号	1918（大正 7）	東京堂書店発行	さいたま文学館蔵
斎藤与里	［1885-1959］	「帝展の特色を作れ」『美術新論』第 1 巻第 1 号	1926（大正 15）	美術新論社発行	
斎藤与里	［1885-1959］	『シャヴァンヌ』	1926（大正 15）	アルス発行	
斎藤与里	［1885-1959］	「放火年心中」『美術新論』第 5 巻第 1 号	1930（昭和 5）	美術新論社発行	

3 写真という欲望

エティエンヌ＝ジュール・マレ	［1830-1904］	鴨、1 秒に 10 イメージ	1885（1988 プリント）	ゼラチン・シルバー・プリント	昭和 62 年度 ツァイト・フォト・サロン寄贈
倉田弟次郎	［1871-1894］	少年写真模写	1890（明治 23）	鉛筆、紙	平成 17 年度 高瀬巌氏寄贈
瑛九	［1911-1960］	作品Ⅰ	1937（昭和 12）	コラージュ、紙	昭和 62 年度 谷口都氏寄贈
瑛九	［1911-1960］	作品Ⅳ	1937（昭和 12）	コラージュ、紙	
瑛九	［1911-1960］	作品Ⅴ		コラージュ、紙	
瑛九	［1911-1960］	作品（8）		ゼラチン・シルバー・プリント	
瑛九	［1911-1960］	作品（28）		ゼラチン・シルバー・プリント	
小本章 永原ゆり	［1935-2017］ ［1957-］	Hand in Hand	1987（昭和 62）	カラー写真	昭和 62 年度 小本章氏寄贈
クリスティアン・シャート	［1894-1982］	選ばれし者たち	1961（1976 プリント）	ゼラチン・シルバー・プリント	
クリスティアン・シャート	［1894-1982］	幻想	1961（1976 プリント）	ゼラチン・シルバー・プリント	
デニス・オッペンハイム	［1938-2011］	コバルト・ベクトル	1979	リトグラフ、紙	寄託作品（個人蔵）
本田眞吾	［1944-2019］	EXTENSION No.31	1977（昭和 52）	凸版、紙	平成 29 年度 有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役　綿貫令子氏寄贈
本田眞吾	［1944-2019］	EXTENSION No.32	1977（昭和 52）	凸版、紙	平成 29 年度 有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役　綿貫令子氏寄贈
参考資料		斎藤豊作、カミーユ、タモツ	1916（大正 5）	写真	
参考資料		田中保 関係写真資料		写真	
参考資料		埼玉県立近代美術館 写真資料		写真	

展示室 A 入口

アリスティド・マイヨール	［1861-1944］	イル・ド・フランス	1925	ブロンズ	

展示室 A 小部屋

倉俣史朗	［1934-1991］	ミス ブランチ	デザイン：1988（昭和 63）	本体：アクリル、造花 脚：アルミニウムパイプにアルマイト染色仕上げ	平成 19 年度 埼玉県立近代美術館フレンド寄贈

■ MOMAS コレクション［II］

■**会期**：2020 年 7 月 18 日（土）～ 10 月 18 日（日）
■**主催**：埼玉県立近代美術館
■**協力**：JR 東日本大宮支社
■**入場者数**：8,054 人
■**広報印刷物**：ポスター B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■**担当学芸員**：佐原しおり、平野到

B1・B2 ポスター

■展示室 A（1 階）

《セレクション》

ジョルジュ・ルオーほか、MOMAS コレクションの名品を紹介した。

《異界／異形のコスモロジー》

もうひとつの世界なのか、それとも現実なのか。異界／異形と芸術表現の関係を探った。

■担当後記：《セレクション》

◆ MOMAS コレクションでは「収蔵品展」の枠に留まらないさまざまな特集展示が組まれてきたが、それでもやはり、美術館の名品をまとめて見たいという要望が一定数寄せられる。「セレクション」はこうした要望を前提とし、当館の名品を紹介するコーナーとして平成 28 年度から継続している企画である。

◆コレクションを代表する名品を見てみると、ルノワールの《三人の浴女》をはじめ、女性をモデルにした作品は数多く見られるものの、男性をモデルにした作品はごくわずかであることがわかる。田中保や寺内萬治郎など、裸婦表現によって評価を獲得した県内作家のコレクションを多く有していることも、モデルの男女比に影響しているだろう。

◆当館の収蔵作家の 9 割以上が男性作家であるにもかかわらず、モデルの大半が女性であるというジェンダーの非対称性を捉える試みのひとつとして、今回の企画では男性をモデルとした作品 14 点を選んで展示した。作品の傾向としては、男性作家が自身を描いた「自画像」、家族や知人を描いた「肖像画」、そして市井の労働者を逞しく表現した人物画と、大きく三つに分類された。

◆展示室では、骨張った直線的な肉体や、皮膚のしわやたるみが克明に表現された男性像がずらりと並ぶ空間が立ち上がった。古今東西の名画に登場する、若く美しい女性たちの血色の良い肌やなめらかな曲線が、「美しいもの」を見たいと願う鑑賞者の欲望と、ある種の共犯関係を結びながら存在していることに改めて気付かされる。

◆モチーフとしての男女の非対称性は、単なる表象の傾向として片付けることができないものである。ヘテロ男性に眼差される対象として機能しがちな女性の身体について、ジェンダーロールによって作家活動を断念せざるを得ない女性たちについて、男性作家の作品収蔵や特集に偏重しがちな美術館のありかたについて等々、その背後には深刻な社会的課題が山積している。（佐原しおり）

「セレクション」展示風景

■担当後記：《異界／異形のコスモロジー》

◆異界や異形という言葉は、神話・宗教・芸術から、現代のサブカルチャーまで幅広く用いられてきた。異界や異形を巡るイメージは多岐にわたるが、この展示においては、異界や異形を単なる驚異のイメージとして見るのではなく、現実世界に対する何らかの批評性を孕んだものとして捉えようとした。

◆例えば、シュルレアリスムにおいては、異界／異形のイメージが散見され、そこに意外性や幻想性を感じ取ることもできる。しかし、シュルレアリスムが本当に模索したものは、理性に拘束され疲弊した現実を解放し、真の現実を取り戻すことであった。現実とは決して絶対的ではなく、人間の経験や感性を通して常に刷新されていく。シュルレアリスムは、理性を切断した無意識の世界に向き合い、知識を刷り込まれた現実においては奇妙にさえ見える、異界／異形のイメージを炙り出し、生（なま）の現実を見出そうとしたと言える。こういった特質が現われている作品が、ポール・デルヴォーの《森》であろう。デルヴォーの《森》は単なる幻想ではなく、画家にとってまさに生きた現実と感じられる世界であり、凡庸な現実をより実感の伴う現実へと開いていく異界といえる。

◆展示ではシュルレアリスムに限らず、異界／異形の表現に通じる作品を集めて展示をした。作品を概観すると、増殖・集積、鏡像・反転、変容・融合といった造形上の特質が浮かび上がってくる。例えば、上村次敏の作品では、植物が異常に増殖・氾濫していく情景が描かれ、出店久夫の作品では、写真によって鏡像のイメージを作りながら、左右や上下が反転する世界が形成されている。吉野辰海による犬の彫刻は、二本脚で立ち上がり、首をねじりながら双頭に分裂し、変容していく姿が造形化されている。これらは現実との接点を持ちつつも、その約束事を解体していく手法であり、現実に対する批評精神を読み取ることができる。こういった批評性が浮上する時、異界／異形は自明と思い込んでいた現実世界を相対化し、それをもすっぽり包含するようなコスモロジーを形成していくように思える。（平野 到）

「異界／異形のコスモロジー」展示風景

■広報記録

〈Web〉

・紺野優希「埼玉県立近代美術館：何が異型・異界を象るのか」『これぽーと』2020 年 8 月 30 日

■出品リスト

展示室 A

1 セレクション

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
オーギュスト・ルノワール	［1841-1919］	三人の浴女	1917-1919	油彩、カンヴァス	昭和 59 年度 以下 8 金融機関（当時）の寄付金で購入 埼玉銀行、武蔵野銀行、埼玉県信用金庫、川口信用金庫、青木信用金庫、小川信用金庫、飯能信用金庫、埼玉県信用農業協同組合連合会
クロード・モネ	［1840-1926］	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889	油彩、カンヴァス	
ポール・シニャック	［1863-1935］	アニエールの河岸	1885	油彩、カンヴァス	
オーギュスト・ロダン	［1840-1917］	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	c.1884-1886	ブロンズ	
ジョルジュ・ルオー	［1871-1958］	横向きのピエロ	c.1925	油彩、紙（麻布で裏打ち）	
森田恒友	［1881-1933］	壁画下絵 I	c.1925 （大正 14 頃）	油彩、カンヴァス	昭和 58 年度 森田仁介氏寄贈
関根将雄	［1919-2013］	瓦職	1970（昭和 45）	彩色、紙	
奥瀬英三	［1891-1975］	自画像	1916（大正 5）	油彩、カンヴァス	
須田剋太	［1906-1990］	老人像	1941（昭和 16）	油彩、カンヴァス	
渡邉武夫	［1916-2003］	老図書館長 T さんの像	1941 （昭和 16）	油彩、カンヴァス	
宮内義也	［1921-1984］	秋日	1949 （昭和 24）	油彩、カンヴァス	

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
デイヴィッド・ホックニー	［1937-］	テーブルのヘンリー	1976	リトグラフ、紙	寄託作品（個人蔵）
山本容子	［1952-］	Pica Picasso〈Portrait〉	1982 （昭和 57）	ソフトグランド・エッチング、紙	平成 22 年度 寄贈
山本容子	［1952-］	Caged Bird〈After Eyes〉	1983 （昭和 58）	ソフトグランド・エッチング、紙	
寺井力三郎	［1930-］	出発	1988（昭和 63）	油彩、カンヴァス	平成 8 年度 寄贈
倉田白羊	［1881-1938］	父の像		油彩、カンヴァス	平成 5 年度 倉田光子氏寄贈
小倉右一郎	［1881-1962］	フランス老人像（石膏原型）	1920（大正 9）	石膏	

2 異界／異形のコスモロジー

吉野辰海	［1940-］	双頭犬	1987（昭和 62）	F.R.P.、ワックス	平成 28 年度 東邦画廊寄贈
ポール・デルヴォー	［1897-1994］	森	1948	油彩、板	
小作青史	［1936-］	樹間を泳ぐ	1993（平成 5）	木によるリトグラフ、紙	平成 5 年度 寄贈
上村次敏	［1934-1998］	無題	1959（昭和 34）	鉛筆、紙	平成 16 年度 上村久仁子氏寄贈
上村次敏	［1934-1998］	無題	c.1959 （昭和 34 頃）	鉛筆、紙	平成 16 年度 上村久仁子氏寄贈
上村次敏	［1934-1998］	作品 B	1959（昭和 34）	水彩、鉛筆、紙	平成 16 年度 上村久仁子氏寄贈
上村次敏	［1934-1998］	無題	c.1959 （昭和 34 頃）	水彩、ペン、鉛筆、紙	平成 16 年度 上村久仁子氏寄贈
草間彌生	［1929-］	青蛇の目をもつ花瓶	1975（昭和 50）	コラージュ、パステル、インク、紙	
草間彌生	［1929-］	生きものの巣	1975（昭和 50）	コラージュ、パステル、インク、紙	
草間彌生	［1929-］	魂たちが安息する穴	1975（昭和 50）	コラージュ、パステル、インク、紙	
駒井哲郎	［1920-1976］	ピエロ	1968（昭和 43）	エッチング、紙	平成 4 年度 ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈
日和崎尊夫	［1941-1992］	海薔薇	1972（昭和 47）	木口木版、紙	平成 13 年度 荒井勝明氏寄贈
日和崎尊夫	［1941-1992］	海球	1983（昭和 58）	木口木版、紙	平成 13 年度 荒井勝明氏寄贈
日和崎尊夫	［1941-1992］	擬人	1983（昭和 58）	木口木版、紙	平成 13 年度 荒井勝明氏寄贈
日和崎尊夫	［1941-1992］	異星	1983（昭和 58）	木口木版、紙	平成 13 年度 荒井勝明氏寄贈
日和崎尊夫	［1941-1992］	未来都市 -T	1989（平成元）	木口木版、紙	平成 13 年度 荒井勝明氏寄贈
小林敬生	［1944-］	蘇生の刻 S62-9	1987（昭和 62）	木口木版、紙	
出店久夫	［1945-］	私風景 '92 －春風	1992（平成 4）	ゼラチン・シルバープリント、アクリル合板ほか	
出店久夫	［1945-］	私風景 '01 －内接宙	2001（平成 13）	ゼラチン・シルバープリント、調色剤手彩色、木パネル、寒冷紗、ジェッソ	平成 26 年度 寄贈
島津純一	［1907-1989］	ナマハゲ	1968（昭和 43）	油彩、カンヴァス	平成元年度 島津徹太郎氏寄贈
島津純一	［1907-1989］	作品 6	1963-1969 （昭和 38-44）	インク、紙	平成元年度 島津徹太郎氏寄贈
島津純一	［1907-1989］	作品 8	1963-1969 （昭和 38-44）	インク、紙	平成元年度 島津徹太郎氏寄贈
島津純一	［1907-1989］	作品 17	1968（昭和 43）	インク、紙	平成元年度 島津徹太郎氏寄贈
イヴ・タンギー	［1900-1955］	無題	1947	エッチング、紙	平成 23 年度 埼玉県立近代美術館フレンド寄贈
早瀬龍江	［1905-1991］	屋上	1956（昭和 31）	油彩、カンヴァス	平成 30 年度 木﨑信尚氏寄贈
白木正一	［1912-1995］	なめくじ	1954（昭和 29）	油彩、麻布	平成 13 年度 岡田徹氏寄贈
白木正一	［1912-1995］	マスク	1957（昭和 32）	油彩、カンヴァス	平成 13 年度 岡田徹氏寄贈
堀田操	［1921-1999］	対話	1955（昭和 30）	油彩、カンヴァス	平成 20 年度 堀田浅子氏寄贈
堀田操	［1921-1999］	空白の想念	1956（昭和 31）	油彩、カンヴァス	平成 20 年度 堀田浅子氏寄贈
資料　ユルゲン・クラウケ（撮影：ウーヴェ・ライジーペン） 『私と私－日々の素描と写真　1970 年 10 月 -1971 年 2 月』1972 年、自費出版					個人蔵

展示室 A 入口

木村直道	［1923-1972］	ムチ打ち症のサーカス熊	1965-1968 （昭和 40-43）	ミシン、車輪、金属	

■ MOMAS コレクション［Ⅲ］

■会期：2020 年 10 月 24 日（土）～ 2 月 7 日（日）
※ 12 月 24 日（木）～ 2 月 7 日（日）は臨時休館
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR 東日本大宮支社
■入場者数：7,447 人
■広報印刷物：ポスター B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：平野到、菊地真央

B1・B2 ポスター

■展示室 A（1 階）
《セレクション》
　マルク・シャガール《二つの花束》ほか、MOMAS コレクションの名品を紹介した。
《花鳥を描く》
　日本画を中心に花鳥をモチーフとした作品を紹介した。

■担当後記：《花鳥を描く》
◆「伝統的画題」としての花鳥、そのなかでも「吉祥図像」として表される花鳥､あるいは作家にとって常に「身近な存在」である花鳥など、花鳥というモチーフにおける様々な要素についてコレクションを通して紹介した。
◆花鳥を主題とした絵画作品は、中国に由来し、日本でも中世以降盛んに描かれてきている。近代の画家が花鳥画を描く際に、モチーフや構図について積極的に先行作品が参照された。このように花鳥画の伝統が受け継がれていることを、江森天寿による、沈南蘋・酒井抱一の花鳥画の模写資料や、小茂田青樹の作品などを通して紹介した。
◆身近な存在としての花鳥を描いた作品としては、まず山村耕花の《雀跳瞬間》を展示した。緑青をふんだんに用いて描かれた場面は、長年家の近くで眺め続けた光景であり、その長年の観察によって、見る者に爽やかな印象を与える明快な色彩と構図が生み出されている。また、増田三男の彫金作品における図案の多くは、自宅の庭や付近で熱心に行った写生から創案されたものである。増田は、90 歳代まで制作を旺盛に続けた作家であり、身近に観察できる野花や野鳥を数多く図案化している。そのほか、小村雪岱や小茂田青樹の写生図を展示し、観察から創作へつなげていく過程をお見せした。花鳥は、日常にありふれた存在だからこそ、常に作家の創作意欲を沸き立たせるものであることを感じていただけたならば幸いである。
◆後期展示が始まって 10 日目から臨時休館となったことは残念だが、花鳥という画題そのものや、今回展示した作家について知見を深め、より充実した内容で同テーマの展示をいずれ行いたい。　（菊地真央）

「花鳥を描く」展示風景（後期展示）

■出品リスト

展示室 A

1 セレクション

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
マルク・シャガール	［1887-1985］	二つの花束	1925	油彩、カンヴァス	
パブロ・ピカソ	［1881-1973］	静物	1944	油彩、カンヴァス	
モーリス・ドニ	［1870-1943］	シャグマユリの聖母子	1925	油彩、カンヴァス	
ポール・デルヴォー	［1897-1994］	森	1948	油彩、板	
ジュール・パスキン	［1885-1930］	眠る裸女	1928	油彩、カンヴァス	
正木隆	［1971-2004］	入間川 2 月	1999（平成 11）	油彩、綿布	平成 20 年度 正木建治氏寄贈
丸山直文	［1964-］	garden 3	2003（平成 15）	アクリル、綿布	寄託作品（個人蔵）
野見山暁治	［1920-］	冷たい夏	1991（平成 3）	油彩、カンヴァス	

2 花鳥を描く

前期展示（10 月 24 日～ 12 月 13 日）

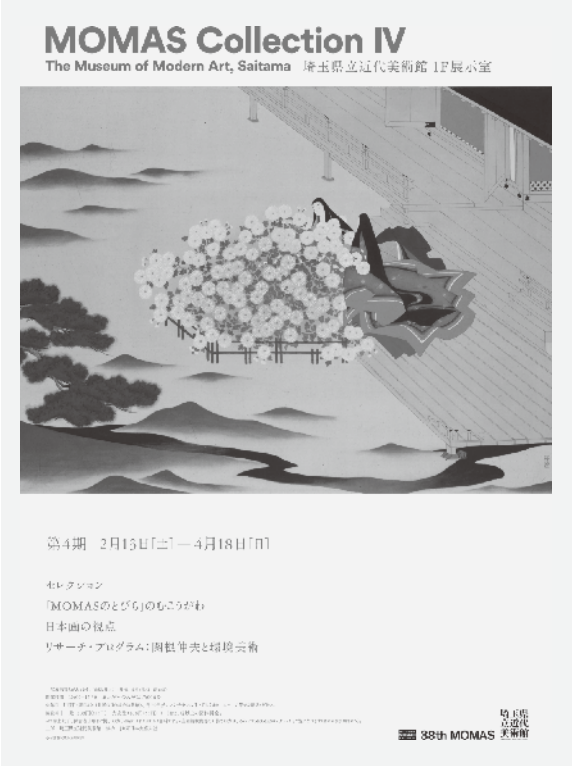
鏑木清方	［1878-1972］	慶長風俗	c.1926 （大正 15 頃）	彩色、絹	
鏑木清方	［1878-1972］	梅月相思	c.1940 （昭和 15 頃）	彩色、絹	平成 11 年度 鈴木い祢氏寄贈
菊池芳文	［1862-1918］	山桜小禽		彩色、絹	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
勝田蕉琴	［1879-1963］	池頭煙雨	1931（昭和 6）	彩色、絹	
橋本雅邦	［1835-1908］	花鳥図		彩色、紙	
江森天寿	［1887-1925］	梅月	1922（大正 11）	彩色、絹	平成 26 年度 小西豊子氏、小西範子氏寄贈
小茂田青樹	［1891-1933］	秋叢	c.1925-1926 （大正 14-15 頃）	彩色、絹	
奥村土牛	［1889-1990］	鴛鴦	1935（昭和 10）	彩色、絹	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈

後期展示（12 月 15 日～ 12 月 23 日）

山村耕花	［1885-1942］	雀跳瞬間	1933（昭和 8）	彩色、紙	平成 10 年度 奥貫肇氏寄贈
小倉遊亀	［1895-2000］	藤の花		彩色、絹	寄託作品（個人蔵）
小倉遊亀	［1895-2000］	青梅		彩色、紙	寄託作品（個人蔵）
杉山寧	［1909-1993］	木蓮		彩色、絹	寄託作品（個人蔵）
小村雪岱	［1887-1940］	鳥類写生 I		墨、紙	
小村雪岱	［1887-1940］	鳥類写生 II		墨、紙	
小茂田青樹	［1891-1933］	写生帖	1930-1931 （昭和 5-6）		昭和 58 年度 田中青坪氏寄贈
江森天寿	［1887-1925］	桃		彩色、紙	平成元年度 石川好子氏寄贈
富取風堂	［1892-1983］	野の花		彩色、紙	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
小茂田青樹	［1891-1933］	紅梅小禽		彩色、紙	寄託作品（個人蔵）
山口蓬春	［1893-1971］	青梅に白鳩	c.1933 （昭和 8 頃）	彩色、絹	平成 11 年度 鈴木い祢氏寄贈
江森天寿	［1887-1925］	模写資料 酒井抱一秋七草図模写			平成 26 年度 小西豊子氏、小西範子氏寄贈
江森天寿	［1887-1925］	模写資料 沈南蘋百合花鴛鴦図模写			平成 26 年度 小西豊子氏、小西範子氏寄贈
増田三男	［1909-2009］	金彩鶉銀壷	1976（昭和 51）	銀、金のアマルガム、蹴彫、魚々子	平成 22 年度 斎藤晴子氏寄贈
増田三男	［1909-2009］	金彩壷 賑	1998（平成 10）	銅、金のアマルガム、蹴彫	平成 22 年度 斎藤晴子氏寄贈
増田三男	［1909-2009］	金彩露草蝶文透彫箱	1957（昭和 32）	金のアマルガム、蹴彫、透彫、裏打ち出し、黒檀、木	平成 22 年度 斎藤晴子氏寄贈
増田三男	［1909-2009］	スケッチブック		鉛筆、紙ほか	平成 22 年度 斎藤晴子氏寄贈

■ MOMAS コレクション［Ⅳ］

■会期：2021 年 2 月 13 日（土）～ 4 月 18 日（日）
※ 2 月 13 日（土）～ 3 月 21 日（日）は臨時休館
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR 東日本大宮支社
■入場者数：2,050 人
■広報印刷物：ポスター B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：佐伯綾希、喜多春月、菊地真央、梅津元、鏑木あづさ（資料閲覧室担当）



B1・B2 ポスター

■展示室 A（1 階）

《セレクション：コレクションの誘惑―あつめて、ならべて》

ものやイメージを「あつめて、ならべる」ことをテーマに、油彩、版画、コラージュによる作品を紹介した。

《「MOMAS のとびら」のむこうがわ》

当館でほぼ毎週土曜日に開催されるアート体感ワークショップ「MOMAS のとびら」では、数多くの収蔵作品が鑑賞されてきた。この展示では、過去 10 年間の活動において再発見された個々の作品の魅力を紹介した。なお、「MOMAS のとびら」については p.64 も参照のこと。

《日本画の視点》

近代日本画における空間の捉え方に焦点を当て、コレクションを紹介した。

《リサーチ・プログラム：関根伸夫と環境美術》

美術家・関根伸夫（1942-2019）による環境美術の仕事を、写真、図面、スケッチブック、映像等で紹介した。

■担当後記：《セレクション：コレクションの誘惑 ―あつめて、ならべて》

◆本展示のテーマは、同時開催の企画展「コレクション 4 つの水紋」の準備を進めるなかで浮上してきた。「コレクション」という営みそのものをテーマとすることで、鑑賞者に美術館のコレクションを楽しんでもらうだけでなく、そのありかたについても思いを巡らせてもらえるのではないかと考えた。

◆まず、ミュージアムの役割である「収集」と「展示」を、「あつめる」「ならべる」と言い換えてみた。ものを「あつめる」ことは人間のオブセッションのひとつといえる。また、「あつめた」ものを意図をもって「ならべる」ことで、そこに秩序や物語が生まれる。このような観点から、自然物や日用品を「あつめて、ならべた」静物画、イメージを「あつめて、ならべた」コラージュ、さらに「あつめて、ならべる」施設であるミュージアムをモチーフにした作品などをピックアップした。つまり、「あつめて、ならべて」制作された作品を「あつめて、ならべた」のがこの展示である。

◆食料の採集を「あつめる」ことの原点ととらえ、果物をモチーフにした作品を最初に展示した。現実的な光景から非現実的なイメージの世界へ、徐々に移行するような展示構成とした。終盤では、どこか謎めいて落ち着か

「セレクション：コレクションの誘惑 ―あつめて、ならべて」展示風景

ない感覚を抱かせる作品を選んだ。これは、ものを所有することへの尽きない欲望や、もとの文脈をはぎ取ることがはらむ危険性といった、「あつめて、ならべる」ことの負の側面を暗示するねらいである。コーナー解説は簡潔なものにし、そのなかで「あつめる」「ならべる」という言葉を繰り返し用いることで、展示のキーワードとして印象づけるようにした。（佐伯綾希）

■担当後記：《「MOMAS のとびら」のむこうがわ》

◆ 2010 年にスタートした「MOMAS のとびら」は、これまで多種多様なワークショップを展開してきた。具体的な活動内容は、当館ホームページ上の活動報告で確認することができる。しかし、これまで館として正式に、この蓄積をまとめて紹介する機会はなかったため、今回このような展示を企画した。当館の教育普及事業に関心を持つ人にとって、この展示が少しでも役立ったのなら幸いである。

◆過去 10 年間を振り返ることは、想像以上に骨の折れる仕事だった。というのも、ワークショップの担当者は、その時々の展示にあわせてほぼ毎回新たな活動案を作成していたからである。また、活動内容には担当者それぞれの個性が出やすいが、都合上スタッフの入れ替わりが激しいため、そのことがプログラムの多彩さに拍車をかけていた。分析し整理する側からすればたまったものではないが、この多様性こそが、「MOMAS のとびら」が 10 年間もの長い間多くの人に愛され続けてきた理由のひとつであるといえるだろう。

◆この多様性は、過去のスタッフはもちろんのこと、企画・運営に参加した数多の学生やボランティアの尽力が生み出したものである。ワークショップの裏側にいるこうした人々の仕事を垣間見る機会にできればという思いから、コーナータイトルは「『MOMAS のとびら』のむこうがわ」とした。また、このタイトルには、過去 10 年を振り返り、当館における教育普及活動の未来について考えたいという思いも込めている。

◆展示は、過去にプログラムで比較的多く取り上げられた作品を中心に構成した。当時の担当者が残した活動案やメモ、報告等に基づいて、作品鑑賞において特に注目してほしい部分を示唆するコメントを掲示したほか、展示作品に対応する実施プログラムの活動報告へジャンプできる QR コードを掲載したハンドアウトを作成した。

◆展示担当者はこの企画を 2018 年頃から温めていたが、準備・展示期間が奇しくも新型コロナウイルスが猛威を振るう時代と重なることとなり、否が応でも教育普及事業の今後の在り方を考えざるをえない状況になってしまった。ものごとのデジタル化が急速に進む社会において、アナログな存在である美術館は何ができるのか。アナログの魅力をどうすれば安全に、楽しく伝えることができるのか。今回は展示でできることを自分なりに考え実践してみたが、もっと他にもやりようがあったのではないかと、今でも自問自答している。今回の展示で満足することなく、未来の美術館の在り方について、今後も真摯に考えていきたい。

◆最後となりますが、「MOMAS のとびら」の多様性に貢献されたすべてのみなさまに、この場を借りてお礼を申し上げます。みなさまの積み重ねがなければ、この展示が実現することはありませんでした。本当にありがとうございました。（喜多春月）

「『MOMAS のとびら』のむこうがわ」展示風景

「リサーチ・プログラム：関根伸夫と環境美術」展示風景

■広報記録

〈ミニコミ誌等〉

・告知：『武州路』2021 年 3 月号、2021 年 4 月号

■出品リスト

展示室 A

1 セレクション : コレクションの誘惑ーあつめて、ならべて

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
ルフィーノ・タマヨ	［1899-1991］	りんごと果物鉢	1981	版画の混合技法（エッチングほか）、紙	昭和 59 年度 マルボロー・ファイン・アート東京寄贈
小山愛人	［1951-］	Cherry and Paper	1977（昭和 52）	セリグラフ、紙	昭和 59 年度 寄贈
キスリング	［1891-1953］	赤いテーブルの上の果実	1944	油彩、カンヴァス	
パブロ・ピカソ	［1881-1973］	静物	1944	油彩、カンヴァス	
跡見 泰	［1884-1953］	静物	1946（昭和 21）	油彩、カンヴァス	
高田 誠	［1913-1992］	秋の静物	1940（昭和 15）	油彩、カンヴァス	平成 9 年度 髙田きよ子氏寄贈
古川 弘	［1907-1977］	写真機のある静物	1943（昭和 18）	水彩、紙	
浜口陽三	［1909-1999］	9 つの貝殻	1979（昭和 54）	メゾチント、紙	
清水昭八	［1933-1996］	クリントン氏、大統領に	1993（平成 5）	凹版、エンボス、紙	清水昭八銅版画集『ニューヨーク日記』より／平成 10 年度 清水美津子氏寄贈
黒崎 彰	［1937-2019］	中國印章	1980（昭和 55）	木版、セリグラフ、紙	平成 20 年度 本間フミ氏寄贈
駒井哲郎	［1920-1976］	食卓 I	1959（昭和 34）	アクアチント（カラー）、紙	平成 4 年度 ホダカ株式会社、株式会社マルキンジャパン寄贈
瑛九	［1911-1960］	声	c.1937（昭和 12 頃）	コラージュ（紙）	平成 29 年度 有限会社ワタヌキ／ときの忘れもの 取締役 綿貫令子氏寄贈
山本容子	［1952-］	The Museum〈JOURNEY〉	1978（昭和 53）	エッチング、アクアチント、紙	
齋藤 研	［1939-2020］	変容	1988-1993（昭和 63- 平成 5）	油彩、カンヴァス	
五月女幸雄	［1938-］	au Musée	1989（平成元）	油彩、カンヴァス	平成元年度 寄贈

2「MOMAS のとびら」のむこうがわ

瑛九	［1911-1960］	手	1957（昭和 32）	油彩（吹き付け）、板	
マルク・シャガール	［1887-1985］	二つの花束	1925	油彩、カンヴァス	
木村直道	［1923-1972］	薫風	1965-1967（昭和 40-42）	鉄	平成 12 年度 加藤典子氏寄贈
橋本真之	［1947-］	《果実の中の木もれ陽》増殖予想図（南西から）	2016（平成 28）	鉛筆、紙	平成 30 年度 寄贈
橋本真之	［1947-］	《果実の中の木もれ陽》増殖予想図（東側から）	2016（平成 28）	鉛筆、紙	平成 30 年度 寄贈
橋本真之	［1947-］	《果実の中の木もれ陽》増殖予想図（北側から）	2016（平成 28）	鉛筆、紙	平成 30 年度 寄贈
因藤 壽	［1925-2009］	こんばんは	1951（昭和 26）	油彩、カンヴァス	平成 21 年度 上田力氏寄贈
小島喜八郎	［1935-2008］	9 月の庭にて	2005（平成 17）	油彩、カンヴァス	平成 21 年度 小島とし氣氏寄贈
白髪一雄	［1924-2008］	青波	1979（昭和 54）	油彩、カンヴァス	
林 範親	［1948-］	9：36A.M.（ブラインド）	1981-1982（昭和 56-57）	木、塗装	
辰野登恵子	［1950-2014］	MAY-21-91	1991（平成 3）	リトグラフ、紙	平成 25 年度 シロタ画廊寄贈
郭 徳俊	［1937-］	レーガンと郭	1981（昭和 56）	セリグラフ、紙	昭和 60 年度 寄贈

作家名		作品名	制作年	技法・素材	備考
郭 徳俊	［1937-］	クリントンと郭	1993（平成 5）	セリグラフ、紙	平成 23 年度 寄贈
郭 徳俊	［1937-］	オバマと郭	2009（平成 21）	セリグラフ、紙	平成 23 年度 寄贈

3 日本画の視点

小村雪岱	［1887-1940］	菊		彩色、絹	
小村雪岱	［1887-1940］	絵巻模写		彩色、紙	寄託作品（個人蔵）
小村雪岱	［1887-1940］	北野天神縁起絵巻（模写）	1924（大正 13）	彩色、紙	
小村雪岱	［1887-1940］	西郷隆盛（挿絵原画）第 66 回	1940（昭和 15）	水墨、紙、色紙	
小村雪岱	［1887-1940］	月夜の三馬（挿絵原画）	1940（昭和 15）	水墨、紙、色紙	
小村雪岱	［1887-1940］	月夜の三馬（挿絵原画）	1940（昭和 15）	水墨、紙、色紙	
野口小蘋	［1847-1917］	僊人観瀑図	1913（大正 2）	彩色、絹	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
寺崎廣業	［1866-1919］	李太白観瀑之図		彩色、絹	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
下村観山	［1873-1930］	牧童	c.1911 （明治 44 頃）	彩色、絹	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
小室翠雲	［1874-1945］	梅渓掉月	1920（大正 9）	彩色、絹	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
川村曼舟	［1880-1942］	芦ノ湖		彩色、絹	平成 19 年度 大熊雄二氏、大熊清二氏、大熊聡一郎氏、煙石澄子氏寄贈
森田恒友	［1881-1933］	岸近く	c.1919-1920 （大正 8-9 頃）	彩色、絹	

4 リサーチ・プログラム 関根伸夫と環境美術

関根伸夫資料

A 環境美術研究所

環境美術研究所	写真　大田区平和の森公園 噴水彫刻《肩車の泉》（東京都）	1983
環境美術研究所	われわれの広場 空間・環境・美術	1973
関根伸夫（談）	わたしが考える景観（9）建設通信新聞 1995 年 4 月 7 日	1995
関根伸夫	スケッチブック	1982
環境美術研究所	写真　大河原邸 ファサード・デザイン（埼玉県）	1982
環境美術研究所	レターヘッド	

B 広場・公園計画

環境美術研究所	写真　奥久慈憩の森―昭和の森記念塔広場（茨城県）	1979
環境美術研究所	奥久慈憩の森―昭和の森記念塔広場　『風景から広場へ』（商店建築社、1983）より	1979
環境美術研究所	写真　水戸双葉台団地近隣公園（茨城県）	1978
環境美術研究所	写真　水戸双葉台団地近隣公園（模型など）	1978
環境美術研究所	写真　ハイランド塩浜（千葉県）	1982
環境美術研究所	写真　千代野ニュータウン―語らいの広場（石川県）	1982
環境美術研究所	図面　プラザ元加賀（東京都）	1984
環境美術研究所	写真　プラザ元加賀	1984

C モニュメント

環境美術研究所	写真	熊本市庁舎 モニュメント《空相―くまもと》（熊本県）	1980
環境美術研究所	写真	シーサイドタウンなぎさ団地 モニュメント《シーサイドタワー》（神奈川県）	1983
環境美術研究所	写真	農林年金パテドラル モニュメント《虹のある風景》（東京都）	1983
環境美術研究所	写真	フラワーセンター大船植物園 モニュメント《肩車の門》（神奈川県）	1982
環境美術研究所	写真	県営会神原団地 モニュメント《会神の塔》（茨城県）	1977
環境美術研究所	写真	平塚市小公園 汐崎公園記念碑（神奈川県）	1986
環境美術研究所	写真	新座市役所市民広場 モニュメント《歩みの石》（埼玉県）	1974
環境美術研究所	写真	世田谷美術館―砧公園入口 モニュメント《風景の門》（東京都）	1986
環境美術研究所	写真	深谷市上柴地区センター モニュメント《人人の門》（埼玉県）	1982
環境美術研究所	写真	秦野南が丘団地緑道 モニュメント《ファミリー A》（神奈川県）	1982
環境美術研究所	写真	水戸双葉台団地近隣公園 モニュメント《天・地・人の門》（茨城県）	1978
環境美術研究所	写真	山村硝子加古川工場 モニュメント《風景の象嵌》（兵庫県）	1980
環境美術研究所	写真	弁天橋親柱彫刻《海に向かう帆》（神奈川県）	1977
関根伸夫	写真	空相―油土	1969
関根伸夫	写真	空相―黒	1978
環境美術研究所	写真	熊本市庁舎 森の彫刻《空相―森》（熊本県）	1980

3 / 23（火）～ 4 / 4（日）展示

環境美術研究所	スライド	愛知県一宮市市民ホール（愛知県）	1974
環境美術研究所	スライド	弁天橋親柱彫刻（神奈川県）	1977
環境美術研究所	スライド	水戸双葉台団地近隣公園（茨城県）	1978
環境美術研究所	スライド	九州産業医科大学（福岡県）	1979
環境美術研究所	スライド	奥久慈憩の森 - 昭和の森記念塔広場（茨城県）	1979
環境美術研究所	スライド	住友生命東京教育センター（東京都）	1981
環境美術研究所	スライド	秦野南が丘団地緑道（神奈川県）	1982
環境美術研究所	スライド	新潟駅南口駅前広場－シンボルゾーン（新潟県）	1982
環境美術研究所	スライド	ハイランド塩浜（千葉県）	1982
環境美術研究所	スライド	農林年金パテドラル（東京都）	1983
環境美術研究所	スライド	棒誠会（静岡県）	1984
環境美術研究所	スライド	三笠記念公園（神奈川県）	1986
環境美術研究所	スライド	グランドヒル市ヶ谷（東京都）	1986
環境美術研究所	スライド	塩釜市総合体育館（宮城県）	1986
環境美術研究所	スライド	東金文化会館（千葉県）	1986
環境美術研究所	スライド	尾山台商店街（東京都）	1988
環境美術研究所	スライド	図研本社・中央研究所（神奈川県）	1990
環境美術研究所	スライド	東京都多磨霊園みたま堂（東京都）	1993
環境美術研究所	スライド	OCAT 大阪シティエアターミナル（大阪府）	1995
環境美術研究所	スライド	びゅうヴェルジェ安中榛名一号公園（群馬県）	2002

4 / 6（火）～ 4 / 12（日）展示

環境美術研究所	スライド	沖縄海洋博南ゲート広場（沖縄県）	1975
環境美術研究所	スライド	浦和市庁舎（埼玉県）	1976
環境美術研究所	スライド	新宿副都心野村ビル（東京都）	1978

環境美術研究所	スライド　東急ドウェル藤沢ヴィレッジ（神奈川県）	1979
環境美術研究所	スライド　京王プラザ南館（東京都）	1980
環境美術研究所	スライド　日本大学生産工学部習志野校（千葉県）	1982
環境美術研究所	スライド　千代野ニュータウン - 語らいの広場（石川県）	1982
環境美術研究所	スライド　深谷市上柴地区センター（埼玉県）	1982
環境美術研究所	スライド　フラワーセンター大船植物園（神奈川県）	1982
環境美術研究所	スライド　秦野南が丘団地（神奈川県）	1983
環境美術研究所	スライド　プラザ元加賀（東京都）	1984
環境美術研究所	スライド　世田谷美術館（東京都）	1986
環境美術研究所	スライド　千葉工業大学（千葉県）	1986
環境美術研究所	スライド　大森入新井公園（東京都）	1986
環境美術研究所	スライド　三条市再開発都市緑地広場（新潟県）	1988
環境美術研究所	スライド　江南女子短期大学（愛知県）	1989
環境美術研究所	スライド　東京都庁舎前広場（東京都）	1991
環境美術研究所	スライド　四日市市民公園（三重県）	1993
環境美術研究所	スライド　名古屋市平和公園（愛知県）	1997
環境美術研究所	スライド　ぴゅうヴェルジェ安中榛名一号公園（群馬県）	2002
環境美術研究所	図面　世田谷美術館―砧公園入口 モニュメント《風景の門》（案）（東京都）	1986

D 噴水計画

環境美術研究所	写真　新潟駅南口駅前広場―シンボルゾーン モニュメント《水の神殿》（新潟県）	1982
環境美術研究所	写真　新宿副都心野村ビル 滝の造形（東京都）	1978
環境美術研究所	写真　京王プラザ南館 噴水彫刻（東京都）	1980
環境美術研究所	写真　住友生命東京教育センター 中庭設計および噴水彫刻（東京都）	1981
環境美術研究所	写真　葛西沖緑道《水の舞台》（東京都）	1984
環境美術研究所	東京都庁舎前広場 モニュメント《水の神殿》（東京都） 『Sekine：a message from Environment Art Studio』（プロセスアーキテクチュア、1992）より	1991

E ファニチュア

環境美術研究所	写真　ストンファニチュア	
関根伸夫	スケッチブック	1981
環境美術研究所	環境と美術	1977
環境美術研究所	図面　ストンファニチュア	

スケッチブック　1970 ～ 2004

関根伸夫	スケッチブック	2004
関根伸夫	スケッチブック	1991
関根伸夫	スケッチブック	1991
関根伸夫	スケッチブック	1995
関根伸夫	スケッチブック	1985
関根伸夫	スケッチブック	1989
関根伸夫	スケッチブック	1988
関根伸夫	スケッチブック	1991
関根伸夫	スケッチブック	1979
関根伸夫	スケッチブック	1984

関根伸夫	スケッチブック	1970
関根伸夫	スケッチブック	1970 年代
関根伸夫	スケッチブック	1979
関根伸夫	スケッチブック	1978
関根伸夫	スケッチブック	c.1970

映像

環境美術研究所 プロジェクト 1970 年代（6 分）

弁天橋親柱彫刻（神奈川県） 親柱彫刻《海に向かう帆》	1977
水戸双葉台団地近隣公園（茨城県） 基本・広場設計およびモニュメント《天・地・人の門》ストンファニチュア ストンサークル	1978
新宿副都心野村ビル（東京都） 滝の造形	1978
九州産業医科大学（福岡県） モニュメント《歩みの石》	1979
奥久慈憩の森―昭和の森記念塔公園広場（茨城県） 記念塔広場設計および列石 サイン彫刻	1979

環境美術研究所　プロジェクト 1980-1990 年代（10 分）

住友生命東京教育センター（東京都） 中庭設計および噴水彫刻	1981
秦野南が丘団地緑道（神奈川県） モニュメント《ファミリー A》《ファミリー B》道標 ファニチュア	1982
千代野ニュータウン―語らいの広場（石川県） 広場設計およびモニュメント《千代の門》ファニチュア 土地提供者碑 千代尼句碑	1982
新潟駅南口駅前広場―シンボルゾーン（新潟県） 広場設計および池の石組 モニュメント《水の神殿》	1982
ハイランド塩浜（千葉県） 広場設計およびモニュメント《待ちぼうけの広場》ファニチュア	1982
世田谷美術館（東京都） 壁泉彫刻《水舞台》世田谷美術館―砧公園 モニュメント《風景の門》	1986
東京都庁舎前広場（東京都） モニュメント《水の神殿》彫刻《空の台座》	1991
東京都多磨霊園みたま堂（東京都） 界壁《波動の光景》噴水彫刻《波の円錐》	1993

映像編集：町田良夫／写真撮影：廣田治雄・堀内広治／助成：遠山記念館芸術・学術研究等助成金

展示室 A 入口

アリスティド・マイヨール ［1861-1944］	イル・ド・フランス	1925	ブロンズ

■サンデー・トーク

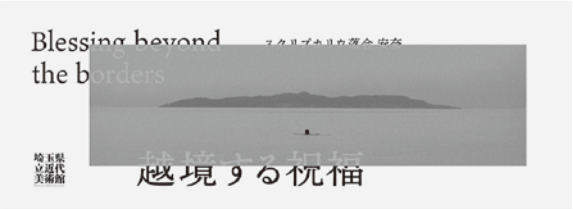
年間で 10 回程度、日曜日の 15 時から展示室 A で開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMAS コレクション」から 1 点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら 30 分程度の解説を行う。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、展示室外でのトークなど別の形での開催を検討したものの、実施は下記のみ開催し、その他は見送ることとなった。

・11 月 22 日／スクリプカリウ落合安奈《Blessing beyond the borders》／担当学芸員：五味良子／参加者：15 名

■アーティスト・プロジェクト #2.05 スクリプカリウ落合安奈 Blessing beyond the borders －越境する祝福－

■会期：2020 年 10 月 24 日（土）～ 2021 年 2 月 7 日（日）
※ 12 月 24 日（木）～ 2 月 7 日（日）は臨時休館
■主催：埼玉県立近代美術館
■観覧料：MOMAS コレクション観覧料／一般 200 円（120 円）、大高生 100 円（60）円
■広報印刷物：DM110 × 220mm ／デザイン：高本夏実
■担当学芸員：五味良子



DM のデザイン

■開催趣旨

「アーティスト・プロジェクト #2.0」は、2016 年度に開始したプログラムである。2003 年に MOMAS コレクション（収蔵品展）の枠内で立ち上げた収蔵作家による「アーティスト・プロジェクト」を、コレクションから独立した企画へと発展させ、収蔵作家という制約にとらわれず、活躍中のアーティストを紹介している。

5 回目となる今回登場したスクリプカリウ落合安奈は、入念なリサーチにもとづき、土地が引き継ぐ記憶や、人々に伝わる信仰・儀礼、人間と通うところのある動物などをテーマに、時間的にも空間的にも一見隔たっているようにみえる存在を結びつける作品を展開するアーティストである。絵画・写真・映像・インスタレーションなど、多彩な表現手段を取り入れたその作品に声高な説明的要素は少ない。作家のまなざしはむしろ、対象が放つ一瞬の表情や無意識の所作、物事の二面性を鮮やかに切り取り取ることに注がれる。そこからは、ただ美しいだけでない、人間の業の深い淵をのぞき込むような、一種の怖ささえ感じられる重層性が立ち上がってくる。

スクリプカリウ落合にとって公立美術館での初個展となった本展では、異なりながらも重なり合う文化や、人々の帰属意識、分断と邂逅を生む海をテーマとする 3 つの

インスタレーションを展示し、土地と人との結びつきや鎖国と国際結婚について考察を巡らせた。作家による最新のリサーチの成果を反映した新作映像を含む一連の作品は、世界が未知の境遇に直面する中で、「越境する祝福」の可能性を問う試みであった。

■関連事業

・クロストーク〈帰属意識〉を問い直す／12月18日（金）14時～16時／ゲスト・崔敬華（東京都現代美術館キュレーター）／講堂／参加者：24名

■広報記録

〈雑誌〉

・『Forbes Japan』2020年12月号

・『月刊アートコレクターズ』2020年12月号

・「インタビュー」『ファムス通信』第43号、2020年5月

・告知：『たまログ』2020年12月号／『FIGARO japon』2021年2月号／『武州路』2021年3月号

〈Web〉

・「国やコミュニティ間に起こる摩擦や利害関係を超えた喜びを分かち合う　スクリプカリウ落合安奈『越境する祝福』展」『SPICE』2020年11月24日

・「Artists#12 スクリプカリウ落合安奈」（インタビュー）『公益財団法人現代芸術振興財団NEWS』2020年12月6日

・「『ふたつの祖国に根をおろしたい』現代美術家・スクリプカリウ落合安奈が問い続ける土地と人の結びつき」『テレ朝POST』2021年2月25日

・「見えないものへの想像力を喚起する。山峰潤也評『スクリプカリウ落合安奈　越境する祝福』展」『美術手帖』2021年3月15日

・告知：『美術手帖』／『FIGARO japon』／『DK SELECT 進化する暮らし』／『goo地図』／『ZAQおでかけガイド』／『ウォーカープラス』／『ゆこゆこ』／『日本旅行』

〈テレビ・ラジオ〉

・「現代美術家スクリプカリウ落合安奈」『アルスくんとテクネちゃん』テレビ朝日、2021年2月25日

■担当後記

◆今回の展示は、新型コロナウイルスの影響によるリサーチの予定変更に始まり、会期の変動・短縮や限られた予算・時間、安全上の制約の中で、必ずしも作者の思う通りにいかなかったことも少なからずあったと想像される。難しい条件の中であったが、スクリプカリウ落合はこれまでの活動の集大成として、3点のインスタレーションと1点の新作映像を発表した。

◆展示の全貌が見えたとき、「越境する祝福」という全体を貫くタイトルは、スクリプカリウ落合が来場者に示す解答ではなく、問いかけなのだということが明らかとなった。作者いわく、「越境する祝福」とは、全人類に雨のように降り注ぐイメージである。スクリプカリウ落合は特定のメッセージを鑑賞者に押し付けることは意図していない。しかし感染症・デマ・差別・監視社会・移動の制限など、20世紀に克服されたと思われた諸課題が、実はすぐ足元に息をひそめていたことが露わとなった現在、文化の差異／共通性や国境を取り上げた作品を体感する中で、来場者が自らの胸中ではたしてどのような形で「越境する祝福」が可能なのかを考えるよう導かれた。

◆メイン会場となった展示室Aでは大型のインスタレーション《Blessing beyond the borders》と《骨を、うめる－one's final home》の2点を設営した。前者は日本とルーマニアの風習の図像がプリントされた2重らせんの布とサウンド、電球で構成され、鑑賞者はまず中央のともしびへ、そして周辺の闇へと導かれる。後者は海外との交流が制限される中、ヴェトナムと日本を往来した17世紀の貿易商にスポットを当てた作品である。両者が、鎖国と国際結婚というテーマを共有し、また天体の動きを示す渾天儀のゆらめきによってゆるやかに結びつくことで、より豊かで複合的な世界観が展示室内に立ち上がった。

◆展示室外のスペースでは、新作映像《Double Horizon》を公開した。これはヴェトナムが舞台の《骨を、うめる－one's final home》の第2章にあたる作品で、作中に登場する男性の故郷といわれる長崎の地の光景が、ヴェトナムの映像と織り交ざりながら展開した。エレベーター前に設置したインスタレーション《The backside over there》は、2015年からスクリプカリウ落合が各地で展開している、人々を結ぶ参加型の作品である。2m × 2mの海の写真の壁の前で、鑑賞者は自らを撮影し、SNS上に投稿することを促される。世界各地に厳然としてそびえ立つさまざまな「壁」を無力化するような、軽やかな可能性を秘め、行きかう人々の耳目を集めていた。

◆時期を合わせて同じ空間で開催したコレクション展へ

の会期中の入場者数は 7,447 名であり、アーティスト・プロジェクトにも同数以上の来場者が訪れた。鑑賞者のコメントには、現在の世の中と重ね合わせて作品を体験し、怖さや心地よさなど、さまざまな感覚を覚えたという反応が多くみられた。対象との真摯な対話を通じて異質な存在を見つめ直し、つなげようとするスクリプカリウ落合の探求は、地球のあちらこちらで異なる価値観の乖離が加速した 2020 年において、大きな可能性を備えた挑戦であったといえよう。（五味良子）

■出品リスト

作品データは、以下の順に記した。

出品番号／作品名／技法・素材等／寸法（尺）／制作年

1　Blessing beyond the borders ／各地で信仰や神事を捉えた写真群 , サウンド , ライト／サイズ可変／ 2019 年

2　骨を、うめる－ one's final home ／カーテン , ベトナムの古い椅子 , 写真 , 映像 , サウンド , 風 , モーター , アクリル , 芯棒 , ライト／サイズ可変／ 2019 年

3　Double horizon ／映像／ 7 分 42 秒／ 2020 年

4　The backside over there ／写真 , 木／サイズ可変／ 2015 年

展示風景《Blessing beyond the borders》
Photo：Masanobu Nishino

展示風景《骨を、うめる－ one's final home》
Photo：Masanobu Nishino

展示風景《Double horizon》
Photo：Masanobu　Nishino

展示風景《The backside over there》
Photo：Masanobu Nishino

■収集事業

令和２年度は、新収蔵品 30 点の寄贈および 11 点の寄託を受けた。平成 30 年度のポール・シニャック《アニエールの河岸》購入以降、厳しい財政状況により、再び作品の購入ができない状況が続いているが、貴重な作品を多数受け入れることができた。寄贈者と寄託者の皆様に改めて御礼申し上げたい。

加須市出身の画家・斎藤与里による油彩画と水彩画、日本画、計 23 点をまとめて受贈した。その中には、斎藤与里が滞仏期に制作したと思われる水彩画や、東洋の伝統的な絵画に関心を寄せていた時期の日本画による実践、さらには画風を確立させていく過渡期にあたる 1930 年代から 1940 年代の油彩画など、斎藤の作品変遷を辿るうえで欠かせない重要な作例がコレクションに加わった。

また昨年度に引き続き、熊谷市出身の森田恒友による日本画３点の寄贈を受けた。当館では、森田の日本画をすでに 55 点収蔵しているが、新たに加わった３点は団扇に描かれており、森田の画業のなかでも希少な作例である。埼玉県初の洋画団体「坂東洋画会」を結成し、県内の後進の育成に貢献した大久保喜一の油彩画もご寄贈いただいた。

当館で開催した展覧会をきっかけに、寄贈を受けた作品もあった。2020 年に当館で開催した「上田 薫」展の出品作《コップの水 J》と、2019 年度に「アーティスト・プロジェクト #2.04 トモトシ 有酸素ナンパ」を開催したトモトシの映像作品２点である。当館ではこれまで映像作品の収集が進んでおらず、今回が初めての映像作品の収蔵となった。

そのほか、須田剋太、和田賢一、アーティストデュオ・Nerhol による作品が寄託された。丸沼芸術の森からは、新たにフィンセント・ファン・ゴッホ、アルフレッド・シスレー、マルク・シャガールの作品３点を受託した。

■令和２年度収集作品数と収蔵作品総数

令和３年３月 31 日現在

	令和２年度収集点数			収蔵作品
区分	購入	寄贈	保管転換	総数総数
日本画	0	8	0	469
油彩画ほか	0	15	0	670
ドローイング	0	4	0	637
版画	0	1	0	1315
写真	0	0	0	211
映像	0	2	0	2
平面その他	0	0	0	17
彫刻	0	0	0	197
立体その他	0	0	0	11
工芸	0	0	0	50
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	0	0	141
資料Ⅱ	0	0	0	32
合計	0	30	0	3,783

■新収蔵作品一覧

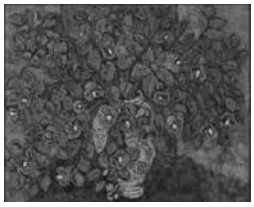
1
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
太子廟
God Temple
昭和 14 年　油彩、カンヴァス
1939　Oil on canvas
65.5 × 55.0cm
左下に署名「YORI.Saitou」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-656

2
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
薔薇咲く庭
Garden with Flowering Roses
昭和 14 年　油彩、カンヴァス
1939　Oil on canvas
95.0 × 76.5cm
右下に署名「Yori」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-657

3
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
支那服の少女
Girl in Chinese Dress
昭和 15 年　油彩、カンヴァス
1940　Oil on canvas
91.0 × 72.6cm
右下に著名・年記「与里寫 二六〇〇」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-658

4
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
三津浜秋色
Autumn Landscape of Mitsuhama
昭和 15 年　油彩、カンヴァス
1940　Oil on canvas
45.2 × 53.0cm
左下に署名・年記「YORI.S 2600.」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-659

5
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
椿
Camellias
昭和 25 年　油彩、カンヴァス
1950　Oil on canvas
83.5 × 104.0cm
右下に署名「与里」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-660



6
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
朝顔
Morning Glories
昭和 26 年　油彩、カンヴァス
1951　Oil on canvas
53.0 × 41.0cm
右下に署名「与里」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-661

7
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
窓際
At the Window
昭和 28 年　油彩、カンヴァス
1953　Oil on canvas
87.8 × 72.0cm
右下に署名「与里」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-662

8
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
芥子
Poppies
昭和 28 年　油彩、カンヴァス
1953　Oil on canvas
99.0 × 80.1cm
左下に署名「与里」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-663

9
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
バラ
Roses
油彩、カンヴァス
Oil on canvas
27.5 × 22.5cm
右下に署名「与里」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-664

10
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
仏頭
Buddhist's Head
油彩、板
Oil on board
27.2 × 20.0cm
右下に署名「与」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-665

11
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
むさし野
Musashino
油彩、板
Oil on board
23.0 × 30.4cm
右下に署名「y.s」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-666

12
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
渓流
Mountain Stream
油彩、板
Oil on board
18.2 × 25.0cm
右下に署名「与」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-667

13
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
静物
Still Life
油彩、カンヴァス
Oil on canvas
37.6 × 45.2cm
右下に署名「yori.」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-668

14
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
奈良風景
View of Nara
油彩、カンヴァス
Oil on canvas
46.0 × 53.0cm
右下に署名「yori」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
O-669

15
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
橋のある風景
Landscape with a Bridge
明治 40 年頃　水彩、鉛筆、紙
c.1907　Watercolor and pencil on paper
23.6 × 19.3cm
右下に署名「yori.」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
D-634

16
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
アネモネ
Anemones
明治 40 年頃　水彩、鉛筆、紙
c.1907　Watercolor and pencil on paper
28.1 × 18.3cm
右下に署名「yori」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
D-635

17
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
女の顔
Face of a Woman
明治 40 年頃　水彩、紙
c.1907　Watercolor on paper
32.3 × 23.2cm
左下に署名「YoRiji」
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
D-636

18
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
牛と少女
Cow and Girl
水彩、紙
Watercolor on paper
29.5 × 29.7cm
左上に署名「与里」、朱文方印
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
D-637

19
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
牡丹
Peony
昭和 9 年　彩色、紙
1934　Color on paper
30.0 × 41.9cm
左上に年記・署名「昭和甲戌 初夏／与里」、朱文方印
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
J-462

20
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
海上日出
Sunrise on the Sea
昭和 19 年　彩色、紙
1944　Color on paper
29.6 × 41.3cm
右上に「御題　海上日出／あさなぎの海原そめて／天地を／くまなくてらす／初日ので哉／与里謹詠」、白文方印
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
J-463

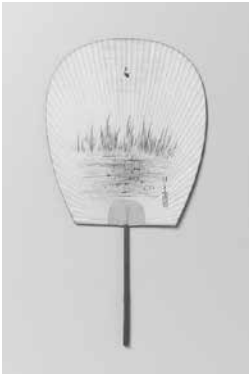
21
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
ツツジ
Azaleas
彩色、紙
Color on paper
30.0 × 41.6cm
右上に署名「与里寫」、朱文方印
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
J-464

22
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
山水
Landscape
彩色、紙
Color on paper
29.7 × 41.5cm
左上に「素艶雪／凝樹清／香風満／枝／与里書並画」
白文方印
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
J-465

23
斎藤与里　1885（明治 18）-1959（昭和 34）
SAITO Yori
兎
Rabbits
彩色、紙
Color on paper
51.7 × 37.3cm
右下に朱文方印
令和 2 年度唐澤章氏寄贈
J-466

24
森田恒友　1881（明治 14）-1933（昭和 8）
MORITA Tsunetomo
蝶と草花
Butterflies and Flowers
彩色、紙
Color on paper
23.3 × 19.9cm
右下に「恒友」、白文方印
令和 2 年度綾部良司氏寄贈
J-467

25
森田恒友　1881（明治 14）-1933（昭和 8）
MORITA Tsunetomo
水田
Paddy Field
彩色、紙
Color on paper
23.1 × 19.9cm
右下に「恒友」、白文方印
令和 2 年度綾部良司氏寄贈
J-468



26
森田恒友　1881（明治 14）-1933（昭和 8）
MORITA Tsunetomo
月下人物
A Man under the Moon
彩色、紙
Color on paper
23.3 × 20.1cm
左下に「恒友」、白文方印
令和 2 年度綾部良司氏寄贈
J-469

27
大久保喜一　1885（明治 18）-1948（昭和 23）
OKUBO Kiichi
川岸
Riverside
昭和 17 年頃　油彩、カンヴァス
c.1942　Oil on canvas
73.0 × 100.0cm
令和 2 年度大久保貴一氏寄贈
O-670

28
上田 薫　1928（昭和 3）-
UEDA Kaoru
コップの水 J
A Glass of Water J
昭和 61 年　リトグラフ、紙
1986　Lithograph on paper
74.0 × 55.0cm
左下にエディション「14 ／ 30」、右下に署名「K Ueda」
令和 2 年度株式会社名古屋画廊 代表取締役 中山真一氏寄贈
P-1317

29
トモトシ　1983（昭和 58）-
Tomotosi
逆パノプティコン
Reverse Panopticon
平成 28 年　デジタル・ビデオ
2016　Digital video
6 分 29 秒
令和 2 年度寄贈
V-1

30
トモトシ　1983（昭和 58）-
Tomotosi
グレイトイベント
The Great Event
令和元年　デジタル・ビデオ
2019　Digital video
10 分 18 秒
令和 2 年度寄贈
V-2

■美術資料貸出等一覧

■美術作品の館外貸出

館外貸出点数：　14 件（展覧会）　28 点（点数）

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	モネとマティス―もうひとつの楽園	ポーラ美術館	2020/4/23-11/3
熊谷守一	高原	伊丹市制 80 周年生誕 140 周年　熊谷守一展　わたしはわたし	伊丹市立美術館	2020/6/23-/7/31
熊谷守一	高原	生誕 140 周年　熊谷守一展	天童市美術館	2020/9/26-10/25
熊谷守一	裸	伊丹市制 80 周年生誕 140 周年　熊谷守一展　わたしはわたし	伊丹市立美術館	2020/6/23-/7/31
熊谷守一	裸	生誕 140 周年　熊谷守一展	天童市美術館	2020/9/26-10/25
熊谷守一	柴たく男	伊丹市制 80 周年生誕 140 周年　熊谷守一展　わたしはわたし	伊丹市立美術館	2020/6/23-/7/31
熊谷守一	柴たく男	生誕 140 周年　熊谷守一展	天童市美術館	2020/9/26-10/25
熊谷守一	ケシ	生誕 140 周年　熊谷守一展　わたしはわたし	奥田元宋・小由女美術館	2020/11/3-12/20
熊谷守一	ケシ	生誕 140 周年　熊谷守一展　―わたしはわたし―	石川県立美術館	2021/2/11-3/14
熊谷守一	夏の月	生誕 140 周年　熊谷守一展　わたしはわたし	奥田元宋・小由女美術館	2020/11/3-12/20
熊谷守一	夏の月	生誕 140 周年　熊谷守一展　―わたしはわたし―	石川県立美術館	2021/2/11-3/14
土田麦僊	甜瓜図	線の美－日本画における線の魅力	高崎市タワー美術館	2020/7/11-9/6（半期展示）
丸木位里	紅梅	墨は流すもの　－丸木位里の宇宙－	一宮市三岸節子記念美術館	2020/9/1-10/11（半期展示）
丸木位里	紅梅	墨は流すもの　－丸木位里の宇宙－	富山県水墨美術館	2020/11/13-12/27（半期展示）
上田薫	ジェリーにスプーン C	上田 薫 展	横須賀市美術館	2020/9/12-11/3
斎藤与里	尼	没後 110 年荻原守衛〈碌山〉－ロダンに学んだ若き天才彫刻家－	井原市立田中美術館	2020/10/9-11/29
斎藤与里	朝	没後 110 年荻原守衛〈碌山〉－ロダンに学んだ若き天才彫刻家－	井原市立田中美術館	2020/10/9-11/29
小茂田青樹	麦踏	生命のリアリズム 珠玉の日本画	神奈川県立近代美術館	2020/10/10-12/20（半期展示）
レオナール・フジタ	横たわる裸婦と猫	藤田嗣治と彼が愛した布たち	福岡市美術館	2020/10/17-12/13
島州一	愛	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
島州一	ふすまとジャンパー	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
島州一	ボートの女	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
関根伸夫	絵空事－鳥居	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
関根伸夫	石をつる	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
関根伸夫	おちるリンゴ	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
関根伸夫	雲をつく	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
関根伸夫	大地との対話	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
本田眞吾	EXTENSION No.31	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
本田眞吾	EXTENSION No.32	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
辰野登恵子	Work 76 D-5	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
辰野登恵子	UNTITLED N-79	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
辰野登恵子	UNTITLED T-79	多摩美の版画、50 年	多摩美術大学美術館	2021/1/6-2/14
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（お傳と浪之助）	あやしい絵展	東京国立近代美術館	2021/3/23-5/16（半期展示）
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（刺青）	あやしい絵展	東京国立近代美術館	2021/3/23-5/16（半期展示）

■特別利用（2021 年 3 月 31 日現在）

写真原板貸出：19 件 50 点

作品撮影：3 件 7 点

作品熟覧：1 件 20 点

作品模写：0 件

■原板貸出

作家名	作品名	発行元等	媒体
熊谷守一	大島	藤井工房	『伊豆大島文学・紀行集第 4 巻　絵画編』
森田恒友	島の井	藤井工房	『伊豆大島文学・紀行集第 4 巻　絵画編』
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（刺青）	株式会社ロッキング・オン	雑誌『SIGHT ART』（2020 年 11 月号増刊号）

作家名	作品名	発行元等	媒体
小村雪岱	北野天神縁起絵巻（模写）	株式会社ロッキング・オン	雑誌『SIGHT ART』（2020 年 11 月号増刊号）
小村雪岱	十三歳の頼朝（舞台装置原画）	株式会社ロッキング・オン	雑誌『SIGHT ART』（2020 年 11 月号増刊号）
小村雪岱	討入曽我（舞台装置原画）	株式会社ロッキング・オン	雑誌『SIGHT ART』（2020 年 11 月号増刊号）
小村雪岱	大菩薩峠（舞台装置原画）	株式会社ロッキング・オン	雑誌『SIGHT ART』（2020 年 11 月号増刊号）
小村雪岱	青柳	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2020 年 7 月 7 日放送）
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	株式会社 DNP アートコミュニケーションズ	特殊切手シリーズ「美術の世界シリーズ」第 2 集
小村雪岱	おせん	株式会社小学館	ウィークリーブック『ニッポンの浮世絵 100』第 5 号
小茂田青樹	春の夜	株式会社小学館	雑誌『和樂』2020 年 10 月・11 月号
小茂田青樹	春の夜	株式会社小学館	雑誌『和樂』2020 年 10 月・11 月号（電子書籍版）
小村雪岱	『絵入草紙　おせん』宣伝ポスター	Nouvelles Editions Scala	『Shin hanga（新版画）』（2022 年 10 月発行予定）
小村雪岱	青柳	Nouvelles Editions Scala	『Shin hanga（新版画）』（2022 年 10 月発行予定）
小村雪岱	青柳	Nouvelles Editions Scala	『Shin hanga（新版画）』（2022 年 10 月発行予定）
小村雪岱	雪の朝	Nouvelles Editions Scala	『Shin hanga（新版画）』（2022 年 10 月発行予定）
小村雪岱	雪兎	Nouvelles Editions Scala	『Shin hanga（新版画）』（2022 年 10 月発行予定）
小村雪岱	河岸	Nouvelles Editions Scala	『Shin hanga（新版画）』（2022 年 10 月発行予定）
高松次郎	布の弛み	静岡県立美術館	『令和 2 年度研究紀要』
	小村雪岱肖像写真	株式会社小学館	雑誌『サライ』2021 年 3 月号
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	有限会社オフィス J. B	『モネへの招待』（朝日新聞出版）
クロード・モネ	ルエルの眺め	有限会社オフィス J. B	『モネへの招待』（朝日新聞出版）
森田恒友	島の井	日本経済新聞社	『日本経済新聞』（令和 3 年 2 月 14 日発行：日曜版）
森田恒友	緑野	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
黒川紀章	館外観	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
チャールズ・レニー・マッキントッシュ	ヒルハウス 1 ヒルハウスのベッドルームのためのハイバック・チェア	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
スタジオ 65	マリリン／ボッカ（口）	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
パブロ・ピカソ	静物	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
寺井力三郎	寝る子	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
小茂田青樹	春の夜	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
須田剋太	作品 1964e	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
瑛九	青の中の黄色い丸	開隆堂出版株式会社	中学校美術資料集『表現と鑑賞（埼玉県版）』
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（刺青）	株式会社アールプリュ企画	毎日新聞社ほか主催「あやしい絵展」グッズ（マスキングテープ）
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（刺青）	株式会社アールプリュ企画	毎日新聞社ほか主催「あやしい絵展」グッズ（ポストカード）
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（刺青）	株式会社アールプリュ企画	毎日新聞社ほか主催「あやしい絵展」グッズ（A4 ファイル）
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（お傳と浪之助）	株式会社アールプリュ企画	毎日新聞社ほか主催「あやしい絵展」グッズ（A4 ファイル）
	小村雪岱肖像写真	株式会社小学館	『週刊ポスト』2021 年 3 月 12 日号
	小村雪岱肖像写真	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2021 年 3 月 9 日放送）
小村雪岱	おせん	株式会社デジタルスキップステーション	SKIP シティ・彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム内での体験型コンテンツ
小村雪岱	見立寒山拾得	株式会社デジタルスキップステーション	SKIP シティ・彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム内での体験型コンテンツ

作家名	作品名	発行元等	媒体
小村雪岱	青柳	株式会社デジタルスキップステーション	SKIP シティ・彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム内での体験型コンテンツ
小村雪岱	一本刀土俵入り	株式会社デジタルスキップステーション	SKIP シティ・彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム内での体験型コンテンツ
斎藤豊作	初冬の朝	株式会社デジタルスキップステーション	SKIP シティ・彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム内での体験型コンテンツ
瑛九	声	株式会社デジタルスキップステーション	SKIP シティ・彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム内での体験型コンテンツ
	小村雪岱肖像写真	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2021 年 4 月 12 日放送）

その他 1 件 4 点の原板貸出あり

■作品撮影

作家名	作品名	発行元等	媒体
小村雪岱	青柳	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2020 年 10 月 20 日放送）
小村雪岱	落葉	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2020 年 10 月 20 日放送）
小村雪岱	雪の朝	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2020 年 10 月 20 日放送）
小村雪岱	菊	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2020 年 10 月 20 日放送）
小村雪岱	おせん	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2020 年 10 月 20 日放送）
小村雪岱	青柳	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2021 年 3 月 9 日放送）
小村雪岱	青柳	株式会社東阪企画	BS 日本テレビ『ぶらぶら美術・博物館』（2021 年 4 月 13 日放送）

■作品熟覧

作家名	作品名	発行元等	媒体
瑛九	雲	個人	修士論文
瑛九	ドン・ファン	個人	修士論文
瑛九	楽園	個人	修士論文
瑛九	ヴァイオリン	個人	修士論文
瑛九	みみづく	個人	修士論文
瑛九	円	個人	修士論文
瑛九	黒い世界	個人	修士論文
瑛九	森の家	個人	修士論文
瑛九	Visitors to a Ballet Performance（バレーへの訪問者）	個人	修士論文
瑛九	作品（1）	個人	修士論文
瑛九	子供のプロフィール	個人	修士論文
瑛九	花	個人	修士論文
瑛九	青の中の黄色い丸	個人	修士論文
瑛九	風が吹きはじめる	個人	修士論文
瑛九	庭園	個人	修士論文
瑛九	サーカス	個人	修士論文
瑛九	ひまわり	個人	修士論文
瑛九	白さぎ	個人	修士論文
瑛九	労働者	個人	修士論文
瑛九	少女	個人	修士論文

■教育・普及事業

教育・普及事業では、入館者に当館のコレクションをさらに楽しみ、新たな考え方や価値を見出していただくため、また、次代を担う子供たちの感性と創造力を育むために、主として「一般向け事業」、「世代間交流を取り入れた事業（子供のためのプログラム）」、「学校との連携」、「広報活動」を展開している。

例年、各事業において様々な取組を行ってきたが、令和２年度は新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館期間はもとより、開館期間であっても感染状況により安全が確保できないと判断した時期は、各事業を延期・中止とした。

「一般向け事業」のミュージアム・レクチャーは令和元年度同様見送った。スライド・トークは夏季以降再開したが、12 月の臨時休館に伴い再び中止となった。

「世代間交流を取り入れた事業」のうち、実施に至ったのはワークショップ「MOMAS のとびら」のみであるが、4 月から 10 月までは中止、11 月と 12 月に計 4 回実施できたが、その後は中止が続いた。

「学校との連携」では利用頻度の高い団体案内と授業協力は依頼に応じて実施したが、団体案内は 8 月まで受入中止、9 月から 12 月途中までは対応したものの、1 月以降は中止となった。授業協力では公立学校の臨時休校に伴い、6 月までは実施できなかったが、学校が再開してからは多く依頼をいただいた。しかし学校現場においてもコロナの影響は大きく、検討の結果見送りとなった学校も少なくなかった。

「広報活動」としては、臨時休館中も館からの発信に努めたが、展示期間やイベント実施の制限から、広報物配布の削減や中止、メディアへの露出減少となった。

以上のように、令和２年度において継続した教育・普及事業の実施は難しく、残念ながら年度を通して再開できなかった事業もある。しかし、感染対策を講じた実施方法について検討・調整を重ねる中で、新たな展開を考えられたものもある。ワークショップ「MOMAS のとびら」では、回数の減少はもとより、定員や活動内容、スタッフとのやりとりなど多くの制限をせざるを得なかったが、少人数だからこそ、鑑賞や造形体験を思い切り味わってもらう場を提供することができた。実現にはいたらなかったが、ワークショップを Web 展開できないかという議論もあり、事業の可能性については今後も検討していきたい。

また、学校との連携において、団体見学を予定していた学校が代替として授業協力のプログラムを利用した結果、例年実施している学年以外でも導入しやすいとして学校全体での活用を計画いただけたことや、収蔵作品の紹介やグッドデザインの椅子の鑑賞を深める問いかけなど、ツイッター等 SNS による発信の充実を図れたことなども、この状況下から生み出せた成果であると考える。

■ミュージアム・レクチャー

■担当後記

◆令和２年度のミュージアム・レクチャーは、昨年度の美術館講座「映像の可能性」に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。本年度より、講座のテーマを「日本画」に変えて行う予定であった。日本画の画材、あるいは特定の作家について、講演を行うことを考えていた。常設展・企画展ともに、日本画の作品が年度後半に展示される予定だったので、同時期の開催を検討していたが、感染状況の悪化により、取りやめることを決定した。次年度も日本画をテーマとして企画する予定なので、日本画の展示時期にとらわれずに開催時期を設定し、直前で中止となる可能性も考慮しつつ、最善の対応を行って開催を実現させたいと考えている。（菊地真央）

■一般団体対応

■スライド・トーク

平成 27 年度より、希望する一般団体（成人を中心とする２名以上の団体。学校団体や子供中心の団体と区別）に対して、スライドや資料を用いて展覧会や美術館の案内を行っている。事前予約制で、企画展または MOMAS コレクションを観覧するグループを対象とし、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応している。展覧会観覧前にテーマや構成、見どころ等を聞くことで、「より関心をもった」「展覧会観覧がますます楽しみになった」という声が聞かれ、一定の成果があるものと考えられる。

また、出張講座も受け付けている。遠方の社会教育施設を利用する成人の団体を対象とし、当館収蔵作品を中

心に美術史や美術鑑賞の基礎的な講義を行っている。収蔵作品をメインに構成されるアートカードを用いた鑑賞体験を交えたり、収蔵作品の画像を講座内で活用したりすることで、美術館になかなか来られない地域の方の美術についての興味や関心に応えるとともに、埼玉県の美術文化財への理解を促す取組となっている。

■対応実績

対応数：6 団体、計 76 名（出張講座 2 件含む）
団体種：公民館、大学同窓会組織など

■担当後記

◆スライドを使用した団体案内事業の開始から 6 年が経過した。今年度は新型コロナウイルスの影響を多分に受け、予約受付を停止していた期間もあった。実施可能となってからも、参加者の人数に応じた実施場所の変更や案内時間の短縮、参加者同士による会話の制限などの対策をとりつつ、慎重に対応した。
◆予約停止期間があったことに加え、全国的に不急の外出の自粛が叫ばれる状況下で、積極的に広報活動ができなかったこともあり、昨年度と比較して予約件数が大幅に減少してしまった。一方で、そうした中でも、過去に出張講座を実施したことのある公民館の一部からは再度依頼があり、スライド・トーク事業を介して他の社会教育施設との関係性が構築されていることを実感した。
◆新型コロナウイルスの影響はまだまだ続くと思われる。感染防止対策を講じつつも、希望者のニーズに応じたより満足度の高い案内を提供できるよう、今後も検討を重ねていきたい。（佐藤あゆか）

スライド・トークの様子（p.17 を参照）

■視覚障害者向け作品案内サービス

令和元年度より、目の不自由な方を対象として、収蔵作品とデザイナーズ・チェアの案内を行っている。事前予約制で、作品や椅子を 2 ～ 3 点案内する。一度の案内につき視覚障害者は 2 名程度までとしているが、利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。

視覚障害者にとって本事業は、日常生活で接する機会のほとんどない視覚芸術との出会いを通して、美術作品への造詣を深めるとともに、未知の世界や価値観に触れるきっかけとなっている。また、当館にとっては、誰もが親しみをもって気軽に利用できる「開かれた美術館」を実践する機会のひとつであると同時に、「みることとはどういうことか」という美術鑑賞の本質を再考する事業ともなっている。

■対応実績

対応数：1 団体、計 5 名（付き添いの方 3 名を含む）

■担当後記

◆視覚障害者向け作品案内サービスは、昨年度にサービスとして整備し、1 年間の試行期間を経て、今年度からより活発な広報を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は広報の拡充を見送ることとした。人命を守るためとはいえども、より多くの人々にサービスを提供することができなかったのはとても残念であった。
◆昨年度までは、MOMAS コレクションの展示作品 2 点と、1 階吹き抜け周りのデザイナーズ・チェアを案内していた。しかし、屋内での案内の場合、他の来館者の鑑賞の妨げにならないよう、極力小さくまとまって（要するに、サービス利用者と担当者とが至近距離で）会話しなければならず、言葉で作品の構成や魅力を伝える必要があることから、他の団体対応以上に感染リスクが高い。よって、今年度は感染対策として、屋外彫刻の案内を実施してみることにした。屋外であれば、担当者と利用者とが充分な距離をとれるのに加え、彫刻作品そのものに触れることができるというメリットがある。コロナ禍により様々な制限は続くが、安心・安全に美術を楽しむ機会の提供方法を今後も模索していきたい。
◆『埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要　第 15 号』（2021 年 3 月発行）に、平成 30 年度から今年度までの取組をまとめた報告書「視覚障害者と美術作品鑑賞―埼玉県立近代美術館における実践より―」を寄稿した。過去 3 年

間の対応の詳細や担当者の所感、今後の展望等についてはそちらもご覧いただきたい。

◆美術館に訪れる人々はすべて、多種多様なバックグラウンドを持ち、必要としているサービスも人それぞれである。美術に関心のある人が、1人でも多く美術鑑賞を楽しむことができるよう、柔軟な対応を続けるとともに、実施方法の精査を積み重ねていきたい。　（喜多春月）

視覚障害者向け作品案内の様子。屋外彫刻に触れる。

■ファミリー鑑賞会

美術が好きな方でも、小さなお子さんを育児している期間中に美術館を訪れる機会をつくることは難しい。一方で、北浦和公園には、赤ちゃんや幼児を連れたお母さんやお父さんが大勢訪れている。

このような方々がゆっくり気兼ねなく美術館を楽しむきっかけとなるよう、お子様連れの家族優先の時間帯を設けてスタッフがMOMASコレクションを案内する「ファミリー鑑賞会」を平成25年度から実施している。また、飽きてしまいがちな子供たちのために、スタッフが一緒に遊ぶコーナーも展示室内に設置してきた。

■開催実績

例年と同様に春（5月13日（水））と秋（10月7日（水））の2回の開催を予定していた。しかし、5月13日は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための臨時休館中のため中止、10月7日はMOMASコレクションは開催中であったものの、展示室内での集団を対象とした対面案内および幼児と職員の接触による感染の可能性を考慮し、中止とした。

■担当後記

◆様々なニーズにきめ細かく対応する美術館のひとつの方策として始められたファミリー鑑賞会だが、事業内容が比較的感染リスクが高いものであり、今年度は予定していた2回とも開催を断念した。これまで参加した方々には喜んでいただけたと考えていることから、感染状況を見極めた上で再開を目指したい。　（田柳 宏）

■過去の開催実績

平成25年度
　7月19日（金）／参加者数：10組20名
平成26年度
　5月15日（木）／参加者数：12組26名
平成27年度
　①5月13日（水）／参加者数：14組29名
　②11月26日（木）／参加者数：10組22名
平成28年度
　①5月11日（水）／参加者数：4組8名
　②10月12日（水）／参加者数：27組56名
平成29年度
　①5月18日（木）／参加者数：19組40名
　②10月25日（水）／参加者数：5組10名
平成30年度
　①5月16日（水）／参加者数：19組44名
　②10月24日（水）／参加者数：13組27名
平成31／令和元年度
　①5月16日（水）／参加者数：10組22名
　②11月7日（水）／参加者数：12組25名

■参考：令和元年度のちらしと開催時の様子

ちらし（令和元年11月7日／表面・裏面）

作品解説の様子

子供が遊べるスペースの様子

■子供のためのプログラム

■アート体感ワークショップ「MOMAS のとびら」

0.「MOMAS のとびら」とは

2010 年 4 月からスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が一緒になって美術館での体験を共有することにより、一人ひとりの新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は主に土曜日で、美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営している。参加対象は幼児（4 才）から大人まで幅広く設定している。作品鑑賞と制作が一体となったプログラムでは、展示や収蔵作品を多角的に楽しめるよう用意している。

令和 2 年度は全て事前予約制に変更して内容や定員を制限した実施計画を立てたものの、ほぼ全てのプログラムが新型コロナウイルス感染症対策のため中止となったが、実施ができたプログラムの参加者からは「活動に満足した」、「また参加したい」という旨の感想をいただいた。

1. MOMAS コレクション みる＋つくる

MOMAS コレクションや美術館の建物などをまわり、対話を楽しんで作品の鑑賞を行う。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラムを実施する。対象枠：小・中学生。

・「キラキラ★ピカピカ！かがやけ！シャボン玉！」12 月 12 日／参加者:7 名／展覧会スケジュールの変更に伴い、MOMAS コレクションの枠ではあったが、企画展に関連するプログラムを実施した。

・5 月 23 日、7 月 4 日、3 月 6 日／中止

2. MOMAS コレクション 親子クルーズ

MOMAS コレクションや美術館の建物などを親子で鑑賞する。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラムを実施する。対象枠：小・中学生＋親。

・「どんどん増える⁉ まるまるあなだらけのランプシェードをつくろう！」11 月 21 日／参加者：12 名

・6 月 27 日、9 月 19 日、2 月 27 日／中止

3. 企画展物語 みる＋つくる

開催中の企画展の魅力や楽しむためのヒントをわかりやすく紹介するプログラム。鑑賞の後に簡単な制作を行う。対象枠：小・中学生。

・5 月 9 日、10 月 10 日、1 月 9 日／中止

4. 企画展物語 親子クルーズ

企画展を親子で楽しむプログラム。作品の魅力を紹介し、親子で鑑賞した後、簡単な制作を行う。対象枠：小・中学生＋親。

・「似合う場所はどこかな？わたしだけの音をつくろう♪」12 月 5 日／参加者：9 名／展覧会スケジュールの変更に伴い、企画展の枠ではあったが、MOMAS コレクションに関連するプログラムを実施した。

・9 月 5 日、10 月 24 日／中止

5. み～っけ！

美術館でのできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施する。対象枠：幼児（4 才～ 6 才）＋親。

・6 月 6 日、7 月 11 日、11 月 7 日、2 月 6 日／中止

6. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。子供から大人まで、互いに刺激されながら楽しく制作する。対象枠：小学生～一般。

・4 月 25 日、7 月 18 日、1 月 23 日、2 月 13 日／中止

7. 彫刻あらいぐま

屋外にある彫刻作品を洗浄するプログラム。参加者は洗浄のプロ（学芸員）やボランティア・スタッフに教え

ワークショップの成果物、ランプシェードを並べて楽しむ様子

てもらいながら、彫刻作品を一生懸命洗浄する。また、洗浄前と後の彫刻の気持ちを考えるなど、スタッフと会話をしながら鑑賞も楽しむ。対象枠：小・中学生＋親。
・5 月 16 日、9 月 12 日／中止

8. アート★ビンゴ

9 つのクイズを解きながら、美術館を巡って気軽に楽しむ鑑賞プログラム。参加者はエントランスロビーでビンゴ・シートを受け取り、館内外を巡りながらクイズを解く。最後にスタッフと一緒に答えを確認し、スタンプをもらう。対象枠：どなたでも。
・4 月 4 日、7 月 25 日、10 月 17 日、12 月 19 日、2 月 20 日／中止

9. わくわく鑑賞ツアー

スタッフと会話をしながら、美術館の作品を鑑賞して楽しむプログラム。参加者はエントランスロビーからスタートし、館内外を巡って、スタッフと対話をしながら 2 ～ 3 作品を鑑賞する。対象枠：どなたでも。
・4 月 11 日、10 月 3 日、11 月 28 日、3 月 20 日／中止

10. フリープログラム

誰でも参加できるプログラム。洗濯ばさみやスプーンを使って造形遊びをしたり、青空の下で風を感じて描いたり、ストローをカクカクつなげたりして楽しむ。対象枠：どなたでも。
・4 月 18 日、5 月 2 日、6 月 13 日、9 月 26 日、1 月 16 日／中止

11. SMF プログラム

埼玉県内の様々な場所で展覧会やワークショップを行っている SMF（Saitama Muse Forum）に所属している方を招き、作品制作を楽しむプログラムを実施する。
・「光るたまごをつくろう !」3 月 13 日／講師：みゃうか（アーティスト）／対象枠：小学生～一般／中止

12. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。普段なかなか足を運べない遠方の方にも参加しやすく、美術に触れ、美術の価値を見出す機会を提供するスペシャル・プログラムである。
・8 月 1 日、8 月 8 日、8 月 15 日、8 月 22 日／中止

13. もますまつり

県民の日に 1 日行う、フリープログラムの拡大版。対象枠：どなたでも。
・「風を描こう !」「カクカクつなげて遊ぼう !」11 月 14 日／参加者：91 名

北浦和公園で実施したもますまつり「風を描こう !」

■夏休みの特別プログラム

1. 夏休み MOMAS ステーション

夏休みに美術館を訪れる子供たちをサポートするコーナー。研修を受けた教育普及サポート・スタッフが相談員となり、館内の案内や「彫刻や作品を楽しむためのワークシート」、「展覧会を楽しむためのワークシート」などの資料を配布したり、美術館見学の宿題の相談に応じたりする。また、県内の中学生が作成した美術館紹介のレポート例を掲示するなど、子供のサポートの充実をねらいとする。

今年度は 7 月 18 日（土）～ 8 月 27 日（木）の休館日以外の毎日、エントランスにて対応することを計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。その代わりに担当職員が対応できる日を総合案内のカウンターに掲示し、サポートができるよう取り組んだ。

2. 夏休み鑑賞ガイドツアー

夏休み期間中に 3 日間限定で行う 30 分のミニ・ツアー。美術館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたる。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することが可能である。

例年、小・中学生や親子連れの入館者が参加し、気軽

にアートに親しめるツアーとして好評を博していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

■担当後記

◆新型コロナウイルスの影響で臨時休館が続き、年度内に実施できたプログラムは 4 回のみであった。しかし、活動が制限されたことで、作品鑑賞や制作活動について改めて考えることができた。今までの活動の良さを無くさずに、プログラムを更新し続けていきたい。

◆ワークショップができない期間、以前プログラムに参加した小学生から「MOMAS のとびらができなくて悲しい。早く活動したい。」という手紙をもらい、とても励みになった。実績としては回数の激減という結果だが、実施がゼロであるか、そうでないかでは随分違うように思う。数少ない実施の中で、参加者の声が聞けたことや新しい方法で運営できたことは、担当者にとって大変有意義である。今後も利用者に愛される事業となるよう、歩みを止めない「MOMAS のとびら」の在り方を考えていきたい。（飯田淳乃）

■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が共同で子供のための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMAS のとびら」のスタッフとしてプログラムの企画・運営をする。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生は子供への接し方や授業の進め方等、現場での実践力を身につけることができる。美術館という社会教育施設での学びの在り方、学校での図工・美術の学び、社会や子供と図工美術のつながりなどを広く学ぶ場になっている。

■担当後記

◆今年度は 8 名の学生が履修し、子供たちとの関わりを心待ちにしていたが、ワークショップの実施は 4 回のみとなり、実施できた際も参加者と距離をとって活動せざるを得ない状況であった。内容や定員も限定され、これまでのような活動はできなかったが、学生たちは子供たちの作品への思いや制作に対する姿勢を感じ取り、ワークショップ運営に生かそうと努めていた。

◆ワークショップが実施できない期間は、各自国内外の美術館が Web 上で展開している教育普及プログラムの調査を行ってオンラインで発表したり、ワークショップで活用する素材や技法を経験して理解を深めたりした。また、例年は後期授業のまとめとして行っていた学生たちによるワークショップの企画・運営の代わりに、オンラインでの模擬ワークショップを行った。活動案を練り、子供たちの反応を想定して手立てを考えていく中で、学生たち自身が作品の多様な鑑賞の仕方に気付き、より良い展開を検討することができた。新型コロナウイルス感染症は学生の勉学にも多大な影響を及ぼしたが、その状況下で制限がある中でも本事業の意義があったことを実感している。（矢嶋梨恵）

必要に応じて参加者の対応をしている学生

成果物の鑑賞のため、展示をサポートしている学生

■企画展ワークシートの作成

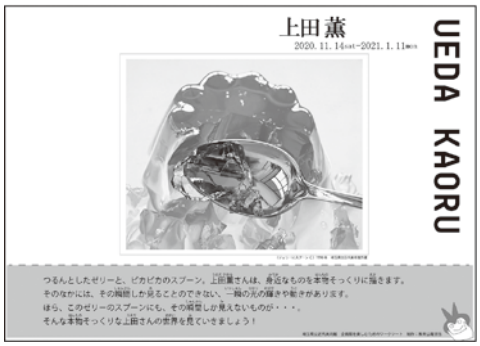
企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場で無償配布するほか、学校団体や子供のためのプログラムなどでも幅広く活用している。必要に応じて小・中学校、高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。

令和２年度は次の３種を作成した。

①「MEDE SUWARU」／作成：飯田淳乃

片面のみ（館内で印刷）

②「上田 薫」／作成：佐藤あゆか

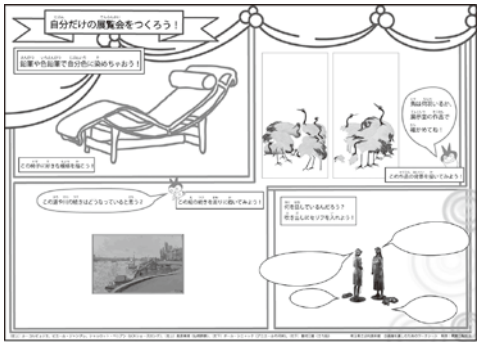


表面

裏面

③「コレクション ４つの水紋」／作成：飯田淳乃

表面



裏面

■学校との連携

■教員美術講座

令和２年度は、美術館における新型コロナウイルス感染症対策のため、また、各学校や教育関係機関における研修の削減状況を鑑み、中止とした。

なお、前年度より、実施が可能な状況であれば年２回の講座を開催することとして検討を重ねていた。以下、実施を検討した講座である。

・第１回教員美術講座「カラダで・うごいて、みる・アート！」

講師：新井英夫（体奏家・ダンスアーティスト）

公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」に関連する「鑑賞と身体表現」がテーマの講座。美術作品を鑑賞する際、学校現場では言葉で伝える活動が多くなる。しかし、子供たちが自分の語彙で作品を語ることには限界がある。また、美術作品は言葉にはできない感情や想像をかき立てる表現をたくさん含んでいる。美術作品をみて感じた気持ちや、絵の中の世界について想像したことを、身体の動きで表現するにあたり、動きの種類や組み合わせ方、表現に使用する空間や音による伝え方の違いなどを、実際に身体を動かしながら学ぶことをねらいとした。

令和元年度に開催し、好評を得たことから令和２年度も引き続き講座を開催することを企画したが、上記理由により中止した。また、新型コロナウイルス感染症対策のため、そして、学校での指導が困難と判断したため、公募展自体も中止した。

参考：令和元年度第１回教員美術講座の活動の様子

・第２回教員美術講座「右脳で描く！クレパス画」

講師：代 淳子（鴻巣市立吹上中学校 教諭）

人間の左脳は言語的、理論的な働きをしているのに対して右脳は非言語的、直感的な働きをしているといわれる。右脳を使うことで自分らしく生き生きとした表現ができることが考えられる。しかし、図工・美術の授業でそのような表現ができているかは確かでない。講座では、右脳を働かせて触覚や嗅覚といった諸感を刺激し、感じることによってできる豊かな表現活動の体験をねらいとした。また、普段使っているクレパスも適切に使うことでさらに表現の幅が広がる。講義、演習を通して、児童生徒が楽しく自己表現できる指導方法を紹介することも企画した。

令和元年度３月の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。令和２年度も同様の理由により、開催を見送った。令和３年度に実施できるよう、調整・検討を進めている。

■担当後記

◆令和２年度は、教員美術講座の実施ができずに終わってしまった。新型コロナウイルス感染症の蔓延状況からして、対面での講座は当面の間開催できないことが明確であったため、Web 配信等も検討したが、実施には至らなかった。令和３年度は Web 配信も実施方法の一つとして検討し、学校現場ですぐに活用できる有益な講座を開催したい。そして、鑑賞教育の新しい視点や可能性を先生方と共に研究し、児童生徒が鑑賞を楽しみ、学びを深めるための手立てを考えていきたい。　（矢嶋梨恵）

■ミュージアム・キャラバン事業

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、授業の枠を広げ、鑑賞や創作体験をすることを通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えることを目的に本事業を実施してきたが、令和２年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

なお、例年は年２校で実施しているが、前年度より実施が難しい状況が考えられたため、年１校に限定して安全が確保できたうえでの実施を検討していた。しかし、残念ながら実施には至らなかった。

■担当後記

◆美術館から遠方、もしくは学校事情や児童生徒の実態から美術館見学などが難しい学校との連携を深めるためにも本事業は大変有意義である。今年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、例年どおりの実施は難しいことが年度当初から予測されたが、状況が落ち着いた時期に感染対策を十分に講じて実施することを目指して検討を重ねた。近隣の公立美術館の普及事業の実施状況や学校現場での外部講師や団体との関わりの有無など、情報を収集しながら実施にむけての準備を行った。事業の実現は叶わなかったが、今年度の調整・検討事項を今後に生かしていくことを考えている。

◆通常の授業協力や美術館職員が担当するワークショップとは異なり、子供たちがアーティストと一緒に活動することができ、アーティストの考え方や視点に直接ふれることができる貴重な機会を提供する事業として、今後も進めていきたい。そのため、来年度にむけた実施案を練るとともに、学校への広報も強化していきたい。

（矢嶋梨恵）

■その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

■学校団体の受け入れ

美術作品の鑑賞を目的として来館した学校等の園児・児童・生徒・学生を対象に、例年であれば対話による鑑賞をしながら展示室や屋外彫刻を案内していたが、新型コロナウイルス感染症のため、感染対策を講じて可能な範囲で案内を行った。実施した内容は、展示室に入る際の鑑賞ポイントの紹介、少人数グループに分けた屋外彫刻案内、別室での複製画や鑑賞パネルでの対話による鑑賞、同じく別室でのグッドデザインの椅子鑑賞体験などである。活動に制限があったとしても、美術館では展示の迫力を体感したり、館内の雰囲気を味わったりと、魅力を存分に感じ取ることができる。利用した学校からは、有意義な学習ができたという旨の感想をいただいた。

学校団体対応数：13 団体、計 646 名／ 4 月 1 日から 5 月 31 日、12 月 24 日から 3 月 21 日の間、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館に伴い、受け入れ中止。

屋外彫刻案内の様子

■授業協力

学校等を訪問し、当館収蔵作品の複製画や鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。美術館利用研究会が考案したプログラムを軸に、事前に先生方と打ち合わせを行い、園児・児童・生徒・学生の実態やねらいに合わせて授業を計画・実施した。利用した学校の先生からは、鑑賞授業を通して、自身の授業の見直しにもなり、子供たちが美術館や作品、作家へ興味をもつことができたという感想をいただいている。図工・美術の授業を苦手に感じる先生自身が楽しみながら指導の幅を広げることにも役立っているようである。実施をきっかけに学校全体で年間指導計画に組み込むなど、繰り返し依頼のある学校も多い。また、各市町村の教科別研修会などで紹介していただくこともあり、経験のある先生方だけでなく若手の先生による活用も増加してきている。

令和 2 年度は、公立小・中学校等が年度当初臨時休校となったため授業協力数は減少したが、秋以降は多くの学校に活用いただいた。

授業協力数：39 校、92 学級、計 3,226 名

小学校での鑑賞授業の様子

■複製画等の貸し出し

学校の先生方が授業で活用できるよう、当館収蔵作品の複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。複製画や鑑賞キットは、パブロ・ピカソ《静物》、小茂田青樹《春の夜》、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》、カミーユ・ピサロ《エラニーの牛を追う娘》、マルク・シャガール《二つの花束》、岸田劉生《路傍初夏》、瑛九《青の中の黄色い丸》などから選ぶことができる。教員向けの研修や公開授業で見たり、利用している先生の実践を聞いたりして活用を検討する先生も多く、問い合わせが増えている。初めて利用する先生には、授業の流れを実際に見せたり、美術館利用研究会が考案した授業例などを紹介したりしている。

貸出数：28 件

■第 3 回「カラダで・みる、うごいて・みる !」

学校との連携強化と、図工・美術教育の発展を目的に、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校（級）の児童・生徒を対象に本事業の開催を計画した。当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、身体を使った動きで表現し、短い映像に記録したものを募集するもので、令和 2 年度で第 3 回を迎える予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、また、学校での指導が困難と判断したため中止した。

■職場体験の受け入れ

新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、7 月末から 8 月末までの期間に、下記の 14 大学 17 名の実習生を受け入れた（埼玉大学、実践女子大学、十文字学園女子大学、上智大学、昭和女子大学、女子美術大学、大東文化大学、多摩美術大学、東京女子大学、東京造形大学、日本大学、武蔵大学、明治学院大学、八洲学園大学）。

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、例年のような集合型の実習は行わず、テキストと動画による自宅学習および課題提出をもって実習に代えた。実習生全員に共通の内容を合同実習に、各実習生の関心に応じて決定される内容を個別実習とした。1 日のみ実際に来館する日を設け、個別実習担当者との施設見学などを行った。

■合同実習

13 の講義（学芸部の仕事、管理の仕事、美術資料の収集と保存、企画展の概要、企画展の実務、油彩画とその取り扱い、版画・写真とその取り扱い、彫刻とその取り扱い、日本画とその取り扱い、MOMAS コレクションについて、広報活動と刊行物、教育普及活動について、これからの美術館について）および 2 つのレポート課題（教育普及・広報関連課題、MOMAS コレクション関連課題）を課し、担当職員がそれぞれ教材を作成した。紙のテキストは実習生に送付、動画は当館 HP に掲載し、自宅で学習を進めてもらえるようにした。

■個別実習

各学芸員が 1 ～ 2 名の実習生を担当し、各実習生の研究テーマや関心領域に応じて個別のレポート課題を出した。実習生の来館日は個別実習担当者との相談によって決定した。当日は施設見学のほか、収蔵品の点検、資料整理、展示といった作業の体験や、意見交換などを実施した。

■美術館ボランティア

■美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、各会期最初の火曜日から毎日、14時から30分程度、MOMASコレクション展示室で解説ガイドを行っていたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、実施を見送った。ガイド活動は、美術館に初めて訪れた方には鑑賞の手立てとして、リピーターの方には見方を広げる機会として、美術館をより身近なものにするものであり、再開が望まれる。

令和2年度の登録人数:38名（男性6名、女性32名）

■研修日程

令和2年度は状況に応じて研修会の実施、もしくは関連資料の郵送とした。本項で実施日が複数日あるところは、新型コロナウイルス感染症対策のため参加人数を分けて研修会を行ったものである。なお、参加の判断については各美術館サポーターに委ね、参加が難しい際は資料を郵送した。

・4月30日（木）MOMASコレクション第1期関連資料郵送
・6月2日（土）MOMASコレクション第1期関連資料郵送
・6月24日（水）、27日（土）MOMASコレクション第1期見学／感染症対策のため学芸員による解説なし
・7月22日（水）、25日（土）企画展「New Photographic Objects　写真と映像の物質性」見学／感染症対策のため学芸員による解説なし
・8月20日（木）、22日（土）MOMASコレクション第2期解説／平野学芸員、佐原学芸員
・9月30日（水）、10月3日（土）企画展「MEDE SUWARU」解説／鴫原学芸員
・11月7日（土）MOMASコレクション第3期解説／五味学芸員、菊地学芸員
　美術館サポーターの活動について全体協議
・12月19日（土）ガイド関連資料郵送
・1月9日（土）企画展「上田 薫」解説／大越学芸員
　※臨時休館期間となったため中止
・3月25日（木）企画展「4つの水紋」及びMOMASコレクション第4期関連資料郵送

■その他のガイド

・10月8日（木）小学校団体対応：1名
・10月9日（金）小学校団体対応：1名
・10月30日（金）小学校団体対応：1名

■担当後記

◆今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、美術館サポーターの活動を行うことは困難を極めた。だが、各美術館サポーターが自身の資質向上に努めており、研修会や協議会では入館者が安全に美術館に親しめる手立てがないかと、検討を重ねることができた。
◆前述のように、美術館サポーターはコロナ禍においても研鑽を積んでおり、自他の安全を考慮し、可能な範囲で美術館の展示、美術館講座やギャラリートークに足を運んでいる。また、自身で制作したり、地域のアートイベントに参加したりと活動的である。その探求心、培われた見識の広さが、今後再開されるであろう充実したガイドにつながることと確信している。
◆令和元年度に新規登録となった9名の第8期美術館サポーターが、実際には未だ入館者へのガイドを行うことができていないことが残念でならない。ベテラン、新規ともに、全ての美術館サポーターがそれぞれの経験や見方、リサーチをもとに行うガイドは、同じ作品鑑賞でも新たな楽しさを提供する。美術と出会い、親しみ、交流できるガイドの時間が戻ることを強く願いながら、状況に応じて新たな方法を模索していきたい。（矢嶋梨恵）

美術館サポーター研修会の様子

■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、令和2年度の登録人数は65名。

■研修日程

・新規スタッフ研修：美術館でのサポート・スタッフの役割と子供の鑑賞活動について理解してもらい、美術館と子供たちのつなぎ役として研修を実施した。その中で、美術館の目的や収蔵作品、令和2年度の活動内容と運営計画などについて講義した。／6月14日（日）、6月19日（金）

・ガイドスタッフ特別研修：夏休み期間に展示中の作品を実際に見て、対話型の鑑賞の練習を行うものだが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため夏休み中の活動を制限する必要があり、本研修も見送ることとした。

■担当後記

◆臨時休館中にサポート・スタッフ登録者の募集を行うことになったため、例年どおりにはいかなかった。4月には美術や教育に関する学科のある大学を中心に連携を図りガイダンスを行う予定だったが、実施できなかった。このように広報活動に制限があったものの、今年度は5人が新規登録者として加わった。また前年度より継続を希望するスタッフも多く、いつでも活動できる体制を整えられた。

◆活動の中心となる夏休みの「MOMASステーション」や「鑑賞ガイドツアー」が中止となったが、学校団体案内が新型コロナウイルス感染症対策のため少人数でのグループ活動が必須となったことから、そのサポートとして活動してもらった。参加したサポート・スタッフにより、普及事業を滞りなく実施することができた。

（飯田淳乃）

■ MOMAS彫刻ボランティア

MOMAS彫刻ボランティアは、2004（平成16）年に発足した。現在は、土曜日開催のワークショップ「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムのボランティア講師を務めることを活動内容にしている。「MOMASのとびら」における洗浄プログラムの名称は、ボランティアの愛称である「彫刻あらいぐま」を引き継ぎ、彫刻の洗浄方法と屋外彫刻の意義などを教えている。登録者数9名。

■活動概要

・5月16日（土）、9月12日（土）「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

・9月12日（土）MOMASコレクション見学会並びに今後の活動についての意見交換会を実施。

■広聴・広報・刊行物

■広聴

1. アンケート調査

企画展、MOMAS コレクションともに、毎回アンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。また、「美術館にひとこえを!」と名づけたアンケート用紙を 1 階ロビーに常備し、質問や要望の内容によっては回答をさしあげている。

・企画展調査：「New Photographic Objects」8 月 28 日～ 9 月 6 日の 9 日間。回答数：23（バーコードを印刷したアンケート協力依頼を出品リストに挟み込み、電子申請システムにより回答）／「MEDE SUWARU」9 月 26 日～ 11 月 3 日の 33 日間。回答数：31（バーコードを会場出口に掲示・出品リストに掲載して協力依頼し、電子申請システムにより回答）／「上田 薫」11 月 14 日～ 12 月 23 日の 35 日間。回答数：223（会場出口でアンケート協力を依頼）。

・MOMAS コレクション調査：「Ⅰ」新型コロナウイルス感染症対策のため実施せず／「Ⅱ」7 月 18 日～ 10 月 18 日の 82 日間。回答数：10（展示室内で QR コードを掲出して協力依頼し、電子申請システムにより回答）／「Ⅲ」10 月 24 日～ 12 月 23 日の 53 日間。回答数 77（展示室出口でアンケート協力を依頼）／「Ⅳ」3 月 23 日～ 4 月 18 日の 25 日間。回答数 19（展示室出口でアンケート協力を依頼）。

2. その他

当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答をさしあげている。

■広報

1. 印刷物の作成・配布

・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMAS コレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一した B1・B2 ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR 東日本大宮支社の協力を得て、最寄りの JR 北浦和駅構内等にも設置している。その他、学校向けの利用案内などは手づくりのちらしを作成した。

・以上の印刷物や広報紙ソカロ、ミュージアム・カレンダーを、関連機関、協力ポイント、近隣自治会や商店会、カフェ、県内の情報拠点や小・中・高・特別支援学校、全国美術館等に配布した。

2. パブリシティ

・新聞、テレビ、雑誌、Web 等の各種メディアで取り上げられるよう、展覧会について、記者発表やプレスリリース配信などを行った。

・企画展「上田 薫」では、会期初日に報道関係者や雑誌社等を招いたプレスカンファレンスを開催した。他の企画展については、新型コロナウイルス感染予防対策のため実施を見送った。

3. ホームページ

彩の国県立学校間ネットワークシステムのサーバ上でホームページを運用し、各種情報を発信した。

URL：https://pref.spec.ed.jp/momas/

・情報項目：お知らせ（新型コロナウイルス感染症対策、ニュース、広報紙ソカロ、スタッフ募集、プレスリリース）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、一般展示室／講堂、北浦和公園）、展覧会（企画展、MOMAS コレクション、アーティスト・プロジェクト #2.0、年間スケジュール）、イベント（企画展関連イベント、MOMAS コレクション関連イベント、MOMAS のとびらカレンダー、イベント・カレンダーその他のイベント）、教育普及事業（MOMAS のとびら、学校と美術館、美術館講座）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、資料閲覧室、ファムス、ミュージアムショップ、レストラン・ペペロネ）、特設（New Photographic Objects）、利用案内／交通案内、リンク、サイトマップ、Other Languages、収蔵品検索、図録の販売など。

・年間ページビュー数：644,535

4. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

・ツイッター公式アカウント（2011 年 7 月～）では、美術館や北浦和公園の情報を定期的にツイートしている。

URL：https://twitter.com/momas_kouhou/

ツイート数：8,436、フォロワー数：21,920（3 月末現在）

・YouTube 公式アカウント（2014 年 1 月～）では、展

覧会の告知映像や展示風景、対談イベント、学芸員のギャラリートークの様子などを配信している。
URL：https://www.youtube.com/user/momasjp
・フェイスブック公式ページ（2014 年 7 月～）では、展覧会や各種イベント、ワークショップの様子など、幅広い情報発信を随時行っている。
URL：https://www.facebook.com/momaspr
いいね！数：2,342（3 月末現在）

5. その他

・企画展情報（「New Photographic Objects：写真と映像の物質性」、「MEDE SUWARU －今日みられる椅子」、「上田 薫」、「コレクション　4 つの水紋」）を英語翻訳し、ホームページ上で提供した。
・収蔵品解説を新たにスペイン語、韓国語、繁体字、簡体字に翻訳し、合計 47 点の収蔵品解説を多言語にて総合受付に配置している。
・埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力により、店内デジタルサイネージによる美術館情報の配信を行った。
・グーグル社が提供する「Google Arts & Culture」に参加しており、2021 年 3 月末現在、主要な収蔵作品の高精細画像 99 点（日英の解説付き）および館内・北浦和公園のストリートビューを Web 上で閲覧することができる。

■広報記録

〈新聞〉
・「貴重な展示　家で鑑賞」『読売新聞』2020 年 4 月 7 日
・「おとなのための美探訪」『東京新聞』2020 年 12 月 8 日
・「東京・神奈川・千葉・埼玉を中心に美術館・博物館臨時休館」『新美術新聞』2021 年 2 月 1 日
・「県主催イベント 31 日まで中止に」『埼玉新聞』2021 年 3 月 23 日
・「コロナに負けるな生活支援情報」『産経新聞』2020 年 6 月 7 日、6 月 16 日、9 月 15 日、9 月 17 日
〈雑誌、ミニコミ誌等〉
・「埼玉行ったら、したいこと。」『大人の休日倶楽部』2020 年 5 月 25 日
・「美術館紹介」『埼玉の御朱印めぐりさんぽ旅』2020 年 8 月 30 日
・「たかがモネ？されどモネ！」『パレット』2020 年 9 月 1 日
・「親子でミュージアム特集」『あんふぁん』2020 年 9 月 4 日
・「ART GALLERY」『サイト・アート』2020 年 9 月 16 日
・「光を求めて旅するモネ」『日経おとなの OFF　今こそ見たい！美術展 2020 秋冬』2020 年 10 月 14 日
・「ふらっと「歴史建物」探訪　浦和周辺」『週刊ポスト』2021 年 2 月 8 日
・「芸術に触れてみよう！関東の美術館」『ふじまる通信』2021 年 2 月 20 日
〈テレビ・ラジオ〉
・「埼玉県 LINE コロナお知らせシステム CM」『テレビ埼玉』2020 年 9 月から
・「#201 浦和のまちを散策しよう！」『のびのびシティさいたま市』テレビ埼玉、2020 年 11 月 15 日
・「美術館紹介」『こんにちは県議会です』テレビ埼玉、2021 年 1 月 1 日
〈Web〉
・「#StayHome さいたま お家で地元コンテンツを楽しもう！」『さいたま観光国際協会』2020 年 4 月 22 日
・「美術館紹介」『Good Luck Trip Online（英語版、簡体字版、繁体字版）』2020 年 7 月 28 日
・「美術館紹介」『みちしるべ』2020 年 9 月 18 日
・「埼玉県立近代美術館が新型コロナ対策のため臨時休館を決定」『美術手帖』2020 年 12 月 23 日

■担当後記

◆新型コロナウイルス対応のため、臨時休館や展覧会スケジュールの変更、入館に当たっての注意事項など、例年にない情報発信が多かった。利用者に誤解や混乱が生じないよう、正確な情報を、分かりやすく、かつ適切なタイミングで発信するよう心がけた。　（真中博行）

■刊行物

平成 31 ／令和元年度版年報、令和 2 年度版要覧、令和 3 年度版ミュージアム・カレンダー、広報紙『ソカロ』を刊行した。年報、要覧はホームページでも閲覧できる。

■埼玉県立美術館ニュース『ZOCALO』

広報紙『ソカロ』（A3 版 2 面・カラー印刷）を、2 か月毎（年 6 回、各 13,000 部）に編集・発行・配布した。

■ 2020 年 6-7 月号（#102　5 月 29 日発行）

・美術館は休眠しない（建畠哲）
・MOMAS コレクション・アップデート 2019 ＋（五味良子）
・MUSEUM NEWS 2020.6 ▶ 2020.7
・美術館サポーターの新メンバーを紹介します！（矢嶋梨恵）
・MOMAS コレクション第 2 期　異界／異形のコスモロジー（平野到）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「花咲く！ピクルス」（曽根久美子）

■ 2020 年 8-9 月号（#103　7 月 31 日発行）

・Reschedule
・特集：コロナ禍により会期途中で閉幕した展示（吉岡知子、鴫原悠、喜多春月）
・MUSEUM NEWS 2020.8 ▶ 2020.9
・どうぞよろしく！（佐原しおり）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「しかけ絵本」（名古屋仁美）

■ 2020 年 10-11 月号（#104　9 月 30 日発行）

・企画展：上田 薫（喜多春月）
・アーティスト・プロジェクト #2.05 スクリプカリウ落合安奈　Blessing beyond the borders －越境する祝福－（五味良子）
・MUSEUM NEWS 2020.10 ▶ 2020.11
・MOMAS コレクション第 3 期　花鳥を描く（菊地真央）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「はみだしてもいいぬりえ」（野溝円香）

■ 2020 年 12-2021 年 1 月号（#105　11 月 30 日発行）

・コレクション 4 つの水紋（菊地真央）
・アートの楽しさをみなさんへ！－コロナ禍での普及事業の取組－（飯田淳乃）
・MUSEUM NEWS 2020.12 ▶ 2021.1
・研究ノート　アヴァンギャルドとアナーキー　フェリックス・フェネオンと当館の収蔵品（佐伯綾希）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「Flowers カレンダー」（浜田幸代）

■ 2021 年 2-3 月号（#106　1 月 31 日発行）

・「MOMAS のとびら」のむこうがわ（喜多春月）

・リサーチ・プログラム：関根伸夫と環境美術（鏑木あづさ）

・MUSEUM NEWS 2021.2 ▶ 2021.3

・できることから再開しています！－コロナ禍での普及事業の取組②－（矢嶋梨恵）

・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ポーチや一筆箋」

■ 2021 年 4-5 月号（#107　3 月 31 日発行）

・「コレクション 4つの水紋」担当学芸員のおしゃべり（菊地真央、佐伯綾希）

・destination somewhere アーティスト・プロジェクト #2.05 スクリプカリウ落合安奈を終えて（五味良子）

・MUSEUM NEWS 2021.4 ▶ 2021.5

・埼玉 150 周年記念展　埼玉の美術史 1871-1960　旧制中学校の美術活動－熊谷と浦和から（吉岡知子）

・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ミニチュアファニチャー」

■埼玉県立近代美術館ニュース『ZOCALONG』

広報紙『ソカロ』のスピンオフとして、『ZOCALONG 1982 年 11 月 -2021 年 3 月号 #05』を発行した。

・規格：840 × 145mm、蛇腹 8 つ折り／2021 年度ミュージアム・カレンダー裏面に掲載（付録）／デザイン：川村格夫（ten pieces）／内容：「組立式 MOMAS・反転」＋ MOMAS の屋外で見る作品紹介

■担当後記

◆年度当初から臨時休館、展示事業の会期変更や中止が相次いだため、令和 2 年度版ミュージアム・カレンダーの配布は早々に取りやめとなった。人の目に触れる機会をほぼ逸した「MOMAS の屋外で見る作品紹介」を令和 3 年度版に再録し、北浦和公園を訪れる方々にあらためてご案内することにした。（大越久子）

■図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で必要な、基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症対策のためしばらく休室したが、安全対策を十分に講じ、11 月より週１日、12 月より週２日を開室日とした。

■蔵書冊数一覧

・一般書

分　類		令和元年度まで	令和２年度	計
購入	A　美術総記	2,465	8	2,473
	B　日本美術	2,703	14	2,717
	C　西洋美術	3,146	3	3,149
	D　東洋その他の美術	186	0	186
	E　図録	891	7	898
	F　埼玉資料	247	1	248
	G　関係諸学	793	0	793
小　計		10,431	33	10,464
受贈（一般図書・他館図録）		34,977	317	35,294
合　計		45,408	350	45,758

・美術雑誌（バックナンバーを除く）
　購入　25 タイトル（うち洋雑誌 4 タイトル）
　受贈　12 タイトル
　計　　37 タイトル
・開室日数　14 日
・利用者数　43 人
・レファレンス受付件数　0

■椅子の美術館

約 70 種類所蔵しているグッドデザインの椅子やアートな椅子を、館内に配置して入館者に鑑賞を楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展や MOMAS コレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、ホームページで紹介している。

なお、これまでは常時 30 ～ 40 脚程度を館内各所に配置し、入館者は自由に座ることができたが、令和２年度現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、配置する椅子の数と種類を限定している。椅子に直接触れたり座ったりすることは当面の間不可となってしまうが、美術館の外側からも鑑賞できる場所に椅子を配置してその様子を SNS で発信するなど、椅子の鑑賞を楽しめるよう取り組んでいる。

■ハイビジョン・コーナー

１階エントランスロビーでは、65 インチの大画面により、随時、企画展、収蔵品、椅子等の紹介映像を上映している。また今年度は、第３回となる公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」の優秀作品を上映し、公募展のさらなる周知を図る予定だったが、新型コロナウイルスの感染状況と学校での指導の困難さに鑑み、公募展を中止したため上映しなかった。来年度、公募展の開催と上映を検討している。

■トピックス［1］
『コレクション名品選カタログ 2021』の作成

前回のコレクション名品選『たまもの』の発行から9年が経ち、新たに当館の収蔵品の中からひときわ優れた作品を集めた『コレクション名品選カタログ』を制作する運びとなった。掲載作品数を『たまもの』の時から100点あまり増やし、館の収集・調査研究の成果とコレクションの厚みを感じられるような内容となっている。

『埼玉県立近代美術館　コレクション名品選カタログ2021』
判型：35.0 × 25.5㎝、252頁
収録作品数：236点
翻訳：小川紀久子
デザイン：Glanz
編集・発行：埼玉県立近代美術館

■担当後記

◆通常A4サイズ以下になることが多い美術カタログであるが、今回はあえてB4という大型の体裁を採用し、図版を大きく細部まで見せることを試みた。光沢を抑えた落ち着いた風合いの紙を選び、ややインクを吸収しすぎるきらいがあるものの、油彩画や特に日本画・版画の作品と抜群の相性を示した。

◆図版の並びは時代順をベースに、作品同士の関連性やビジュアル面での相性を最大限に考慮した。ともするとこの類の冊子には、油彩画／日本画、彫刻、版画、写真…というように、かつてのジャンルのヒエラルキーのようなものを残すケースもしばしば見受けられるが、今回は必ずしもジャンルの括りにとらわれず、最も互いが引き立て合う組み合わせを考えた。個々の作品が個性的な音色を奏でながらも、読み手がページをめくる中で全体としてひとつの曲を味わえるようなイメージで組み上げていった。

◆新型コロナウイルスのさまざまな影響を受ける厳しい条件の中であったが、デザインを依頼した大溝裕氏（Glanz）の創意工夫により、色数を控えたデザインは、結果的にシンプルで飽きのこないものに仕上がった。

◆収蔵品の名品選カタログは、美術館の顔ともいうべき存在であり、長期にわたってさまざまな場面で館の名刺代わりとして活用されるものである。今後5年、10年と使い込むうちに、持ち主の手にしっくりとなじんでいくことを願っている。（五味良子）

■トピックス［2］
SMF との連携

文化庁のモデル事業・補助事業として、地域と共働したさまざまなアートプログラムやアウトリーチ活動を展開する事業を手がける中で、2013 年に新体制で発足したサイタマミューズフォーラム（SMF ／ Saitama Muse Forum）。

事業名や枠組みは少しずつ変わりながらも、入間市博物館、うらわ美術館、川口市立アートギャラリー・アトリア、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館という県内の公立ミュージアム 5 館がゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁の支援を得る事業を数多く実施してきた。

そうした成果を生かして、連携美術館・博物館に限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えた協働が SMF を母胎として生まれてきている。それらを組織化した、地域連携の新たなモデルの再構築や、連携美術館・博物館との関係の見直しなどが今後の課題となっている。

令和 2 年度は、コロナ禍のためオンラインを用いた活動などが展開された。以下では、当館との連携事業を紹介する。

なお、SMF の趣旨・これまでの活動等については、SMF ホームページ http : //www.artplatform.jp を参照のこと。

SMF Press vol.44 Feb.2021

うらわ美術館多世代交流ワークショップ

自分の絵を見つける日　誰かの絵とつながる日

～子どもも大人も、本気で描くワークショップ～

2021年1月17日(日)

講師：池平 徹兵さん(アーティスト)／会場：シーノ大宮センタービル内 生涯学習総合センター 10階多目的ホール

緊急事態宣言の発令により開催が危ぶまれましたが今回の多世代交流ワークショップはコロナ対策を徹底した上での開催となりました。

冒頭で講師の池平さんの活動紹介。「一生懸命描くこと、上手い下手は別。挑戦することが大切」という池平さんの言葉が印象的でした。床に散りばめられた写真やフィギュアを各参加者が描きたいものを選んで描く。池平さんの言葉に背中を押されるように参加者の皆さんはそれぞれが選んだ写真を元に作品制作に取り掛かりました。参加者同士の声が響き、一人で活動出来る空間だからこそ真剣に絵と向き合えたようにも感じました。

池平さん、うらわ美術館の方々が参加者の一人一人に声をかけている姿に穏やかな空間が生まれていました。仕上がった作品は1枚ずつ大きなキャンバスに貼られていきました。1枚ずつ貼りつける際も1人1人に感想を聞いていきます。そしてお互いの絵を引き立て合うように、池平さんが作品を配置していきます。キャンバスに自然な形で参加者の方たちの作品が新染んでいきました。池平さんの言葉通りに一生懸命に描かれた作品はとても生き生きとしていました。コロナ禍の中でのワークショップだからこそワークショップに参加された方々の笑顔が心地良く感じられた1日となりました。

今回は午前の部(10:30-12:30)の参加者と午後の部(14:00-16:00)の参加者の制作を引き続いで、講師の池平さんがご自身のアトリエで制作を行い作品が完成します。作品は2月の中ごろからうらわ美術館が入っている浦和センチュリーシティ1階の屋外ショーケースにて展示される予定となっています。作品の完成が楽しみです。笑顔になれたワークショップで完成した作品についてはまたご紹介出来ればと思います。

http://www.artplatform.jp

https://www.facebook.com/Saitama.Muse.Forum/

『SMF-Press』vol.44, 2021 年 2 月より／「うらわ美術館多世代交流ワークショップ」の紹介

■ 当館と関連した SMF プログラム

当館が土曜日に開催している普及事業「MOMAS のとびら」への協力を依頼し、以下のワークショップの講師を派遣していただく予定であったが、臨時休館のため中止となった。

•「MOMAS のとびら」／ 2021 年 3 月 13 日／講師：みゃうか（アーティスト）

※「MOMAS のとびら」については、p.65 を参照。

■ 宝船展 2021

2021 年 3 月 24 日（水）～ 3 月 28 日（日）／一般展示室 1 ／共催：埼玉県立近代美術館／来場者：578 人／付記：緊急事態宣言のため、1 月開催を変更して実施。

■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファムス（fam.s = friends of art museum, saitama）。

■会員数

458 件（令和 3 年 3 月 31 日現在）
内訳:一般会員 283 人、ペア会員 55 人、学生会員 6 人、家族会員 54 家族（127 人）、賛助会員（個人）17 人、賛助会員（法人）19 団体、特別賛助会員 24 団体

■活動内容

1. 企画委員会

① ギャラリー・トークの開催／ 12 月 14 日（月）／実施場所：2 階展示室／内容：企画展「上田 薫」の担当学芸員による解説／参加者：24 名（会員限定）

2. 広報委員会

①『ファムス通信』第 43 号の発行（5 月）
②『ファムス通信』第 44 号の発行（11 月）

3. ミュージアム・ショップ運営委員会

① サマーセールの実施
② その他

4. 事務局

①『令和元年度フレンド年報』の発行（7 月）
② 館内の広報強化
③ 会員限定ギャラリー・トークの開催（12 月 14 日）

■担当後記

今年度はコロナウイルスの影響で 2 度臨時休館となり、会員期限の延長を行った。三密を避けるため、例年行っていた様々なイベントを中止にせざるをえない状況だった。その中で今年度は難しいと思ったギャラリー・トークを 1 回開催することができた。次年度にコロナが収束したならば、様々な事業を再開し、美術館活動に貢献したい。（事務局・野口恵子）

■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

令和 3 年 3 月 31 日現在

氏　名	現職等	備　考
清水　武司	秩父地域利用者 写真家	会長
内田　和子	秩父地域利用者	副会長
丸山　　晃	県西地域利用者 （株）埼玉新聞社 相談役	
小林　　真	秩父地域利用者 デザイナー （株）コア 代表	広報委員
滝沢　布沙	県北地域利用者 染色家	
水野　晶子	県南地域利用者	ミュージアム・ショップ運営委員長
依田　衣恵	県南地域利用者	企画委員
武島　　裕	秩父地域利用者	
野尻　一敏	県南地域利用者 （株）テレビ埼玉常務取締役	
田沼　利将	県南地域利用者 （公財）長島記念財団常務理事	監事
遠藤　俊明	東部地域利用者	監事

■貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室１～４が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申し込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。

また、集会などの会場として講堂を貸し出している。令和２年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

一般展示室

・利用単位：1週間（月曜日の午後1時→翌週月曜日正午）。連続の場合は最長３週間。

・使用料（1週間につき）：

一般展示室 1―238,700円、2―92,400円、3―53,900円、4―30,800円

講堂

・利用単位：1時間

・使用料：1時間あたり 2,200円

■一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 R2年度 自	開催期間 R2年度 至	開催日数（日）	利用室	分野	展示点数（点）	観覧者数（人）	一日平均観覧者数（人）
1	和洋悠久の軌跡作品展	6月24日	6月28日	5	4	油彩	27	82	16
2	Circle Fusion	6月30日	7月 5日	6	4	油彩、アクリル	41	333	55
3	第54回埼玉平和美術展	8月11日	8月16日	6	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	248	1,039	173
4	ヨシズミ トシオ展	8月25日	9月 6日	12	4	油彩、ドローイング、版画、水墨画	47	694	57
5	野口義哉作品展「旅」	9月15日	9月20日	6	3	日本画、水彩、油彩	25	440	73
6	第12回フォトサークル・オプト写真展	9月15日	9月20日	6	2	写真	156	653	108
7	第34回フォトグループ WAVE 写真展	9月22日	9月27日	6	3	写真	92	476	79
8	拈華微笑展 付鴻雁個展	9月22日	9月27日	6	4	油彩	38	535	89
9	公募 ZEN 展	9月29日	10月 4日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	210	866	144
10	22th BANSEI EXHIBITION	9月29日	10月 4日	6	4	インスタレーション	62	309	51
11	第32回渓水会展	10月 6日	10月11日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画、ちぎり絵ほか	43	311	51
12	第21回地平展	10月13日	10月18日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	100	611	101
13	結（ゆかり）浦和一女漫画同好会 OG 展	10月13日	10月18日	6	3	水彩、版画、工芸、デジタル	73	589	98
14	絵描き文鳥やまゆりの ART 展	10月13日	10月18日	6	4	アクリル画	85	511	85
15	全日本写真連盟浦和支部写真展	10月20日	10月25日	6	4	写真	38	657	109
16	第36回アート現宇展	10月20日	10月25日	6	3	油彩、アクリル、コラージュ	39	544	90
17	第41回太平洋埼玉展	10月20日	10月25日	6	1	水彩、油彩、版画、染織	95	761	126
18	第24回西遊会美術展	10月27日	11月 1日	6	4	水彩、油彩	69	536	89
19	2020 CAF ネビュラ展 ―埼玉・メキシコ合流点―	11月 4日	11月15日	11	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	112	3,427	311
20	第59回高校書道展	11月18日	11月22日	5	1～4	書	684	933	186
21	第63回埼玉県高校美術展	11月25日	11月29日	5	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	829	2,946	589
22	「スープに浮かぶボートの上のパセリ」展	12月 1日	12月 6日	6	4	油彩、ドローイング	9	571	95
23	障害者アート企画展	12月 2日	12月 6日	5	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	300	1,043	208
24	第8回彩友会ボタニカルアート展	12月 8日	12月13日	6	4	水彩	43	407	67
25	第54回全日本書道芸術展	12月 8日	12月13日	6	1・2	書、墨象、ペン字、墨アート、デザイン書道	232	353	58
26	第55回郷土を描く児童生徒美術展	12月26日	12月27日	2	1～4	絵画	120	603	301

No.	展　覧　会　名	開催期間 R2 年度		開催日数	利用室	分　野	展示点数	観覧者数	一日平均観覧者数
		自	至	(日)			(点)	(人)	(人)
27	文教大学教育学部学校教育課程美術専修卒業制作展	1 月 27 日	1 月 31 日	5	1	水彩、油彩、彫刻、工芸、空間デザイン	164	191	38
28	埼玉大学教育学部芸術専修美術図画工作分野卒業制作展、修了展、有志展覧会彩展	2 月 23 日	2 月 28 日	6	2 ～ 4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	28	925	154
29	今こそ燃えろ !! 日本の祭り青森ねぶた加藤堯写真展	3 月　2 日	3 月　7 日	6	4	写真	50	312	52
30	埼玉書道三十人展	3 月　9 日	3 月 14 日	6	1	書	64	1,321	220
31	PRISM	3 月　9 日	3 月 14 日	6	3	写真	67	301	50
32	洋光教室展	3 月 11 日	3 月 14 日	4	2	書	30	432	108
33	春の CAF. 展 2021	3 月 16 日	3 月 21 日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画、彫刻ほか	115	641	106
34	現展埼玉支部展	3 月 16 日	3 月 21 日	6	3・4	日本画、水彩、油彩、写真、CG デザイン	83	343	57
35	第 26 回彩の国さいたまきりえ展	3 月 23 日	3 月 28 日	6	2	きりえ	51	820	136
36	小川壮二・小川総一郎水彩画親子展	3 月 23 日	3 月 28 日	6	3	水彩	57	679	113
37	彩の国写真倶楽部近代美術館・第 16 回展	3 月 23 日	3 月 28 日	6	4	写真	45	655	109
38	宝船展＠ MOMAS	3 月 24 日	3 月 28 日	5	1	アート全般、インスタレーション	27	578	115
39	第 49 回主体美術武蔵野作家展	3 月 30 日	4 月　4 日	6	1	油彩	51	500	83
40	現代中国芸術国際交流展第 3 回目	3 月 30 日	4 月　4 日	6	2・3	油彩、ドローイング、書、水墨画	62	462	73

■令和２年度入館者数一覧

※令和２年４月１日から５月31日及び12月24日から令和３年３月21日は臨時休館

	入館者数	展示事業					
		MOMAS コレクション	企画展示				
			New Photographic Objects 写真と映像の物質性	MEDE SUWARU ―今日みられる椅子	上田 薫	コレクション 4つの水紋	企画展計
開催期間	6/2（火）～3/31（水）	6/2（火）～3/31（水）	6/2（火）～9/6（日）	9/26（土）～11/3（火）	11/14（土）～12/23（水）	3/23（火）～3/31（水）	
（日）日数	180	170	84	33	36	8	161
（人）観覧者数 利用者数	69,857	18,768	7,488	5,560	6,185	697	19,930
（人）1日当たり平均	388	110	89	168	172	87	124
有料 一般個人	入館料 無料	4,748	4,193	―	3,292	317	7,802
有料 一般団体		749	292	―	280	19	591
有料 大高個人		489	587	―	305	27	919
有料 大高団体		5	5	―	10	0	15
有料 （人）合計		5,991	5,077	0	3,887	363	9,327
（人）無料	―	12,777	2,411	5,560	2,298	334	10,603

	普及事業					貸館事業	
	企画展関連	MOMAS コレクション関連	教育・普及関連	SMF アート関連	資料閲覧室	一般展示室	埼玉県美術展覧会
開催期間							
（日）日数	15	2	5	―	15	147	中止
（人）観覧者数 利用者数	500	39	124	―	50	28,390	中止
（人）1日当たり平均	33	19	24	―	3	193	
有料 一般個人	―	―	―	―	―	―	―
有料 一般団体							
有料 大高個人							
有料 大高団体							
有料 （人）合計							
（人）無料	―	―	―	―	―	―	―

月別入館者数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
（人）入館者数	0	0	9,182	5,636	7,566	7,467	9,447	15,385	7,966	191	640	6,377	69,857

■名簿

■埼玉県立近代美術館協議会委員

令和３年３月 31 日現在

選出区分	氏　名	現　職
学校教育関係者	菅原　京子	埼玉県市町村教育委員会連合会会長 川口市教育委員会委員
	中川　昇次	埼玉県美術教育連盟連盟長 さいたま市立片柳中学校長
社会教育関係者	相馬　千秋	NPO 法人芸術公社　代表理事 立教大学現代心理学部特任准教授
	松岡　滋	埼玉県美術家協会会長 洋画家
家庭教育関係者	小田倉　泉	埼玉大学准教授 さいたま市幼児教育推進委員
学識経験者	岡村　文和	NHK さいたま放送局副局長
	加藤　有希子	埼玉大学基盤教育研究センター准教授
	田村　禮子	絵画教室主宰 水彩画家
	新倉　美佳	美術批評誌「MAPPING」事務局
	樋口　昌樹	（株）ザ・ギンザ ザ・ギンザ スペースディレクター
	三上　豊	和光大学表現学部教授 東京文化財研究所客員研究員
	宮本　重雄	中央労働金庫常務理事 埼玉県本部担当

■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

令和３年３月 31 日現在

氏　名	現　職	任　期
滝沢　恭司	町田市立国際版画美術館 担当課長兼学芸係長	R1.6.7 ～ R3.6.6
山本　和弘	栃木県立美術館 主任研究員	R1.6.7 ～ R3.6.6
野地　耕一郎	泉屋博古館分館長 兼学芸課長	R1.6.7 ～ R3.6.6
山梨　俊夫	国立国際美術館長	R1.6.7 ～ R3.6.6
樋田　豊次郎	東京都庭園美術館長	R1.6.7 ～ R3.6.6

■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

令和３年３月 31 日現在

氏　名	現　職	任　期
飯野　一朗	彫金作家 東京藝術大学名誉教授	R3.1.15 ～ R5.1.14
栗崎　浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	R3.1.15 ～ R5.1.14
小澤　基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	R3.1.15 ～ R5.1.14
吉武　研司	洋画家 独立美術協会会員	R3.1.15 ～ R5.1.14
内藤　五琅	日本画家 日本美術院特待	R3.1.15 ～ R5.1.14
林　喜一	写真家 全日本写真連盟理事	R3.1.15 ～ R5.1.14
案浦　久仁子	県教育局 文化資源課長	R3.1.15 ～ R5.1.14

■埼玉県立近代美術館職員

令和３年３月 31 日現在

担　当	職　名	氏　名
	館　長	建畠　哲
	副　館　長	佐藤　慶朗
総務、管理担当	教育主幹	田柳　宏
総務担当	担当課長	田中　孝佳
	主　任	山村　あゆみ
	主　任	石井　陽子
	主　任	入江　一嘉
	主　事	八木　望
	（嘱　託）	福田　紘顕
管理担当	担当課長	小辻　久美子
	主任専門員	斉藤　登志雄
	主　事	清水　伸夫
	主　事	松本　麻美
企画展、教育・広報、常設展・収蔵品担当	学芸主幹	平野　到
企画展担当	学芸主幹	梅津　元
	学　芸　員	大浦　周
	学　芸　員	鴫原　悠
	学　芸　員	佐伯　綾希
教育・広報担当	担当課長	矢嶋　梨恵
	主　任	真中　博行
	主任専門員 兼学芸員	大越　久子
	主　事	飯田　淳乃
	学　芸　員	喜多　春月
	（嘱　託）	佐藤　あゆか
常設展・収蔵品担当	学　芸　員	五味　良子
	学　芸　員	菊地　真央
	学　芸　員	佐原　しおり
	（嘱　託）	小菅　千鶴（～ 7.3）
	（嘱　託）	鏑木　あづさ

埼玉県立近代美術館年報［令和２年度］

発　行：埼玉県立近代美術館
〒330-0061　さいたま市浦和区常盤9-30-1
電話：048-824-0111（代）／ファクス：048-824-0119（代）
https://pref.spec.ed.jp/momas/
発行日：令和３年７月30日